

富田林市
人権に関する市民意識調査
報告書

令和6年3月

富田林市

目次

第1章 調査概要	
1-1. 調査の目的	1
1-2. 調査の方法	1
1-3. 調査の内容	1
1-4. 調査対象者の抽出方法	2
1-5. 回収状況	3
1-6. 調査結果の見方	4
1-7. 標本誤差	5
第2章 調査結果	
2-1. いろいろな人権問題に関する意識や考え方について	
(1) いろいろな人権問題の認知 (問1)	6
(1-1) 特に人権上深刻な問題と考えられるもの (問1-1)	12
(2) 人権上問題があると思う行為 (問2)	15
2-2. 住まいのことや就職、結婚相手・パートナーについての意識 や考え方について	
(3) 家を買ったり借りたりする際に重視する (した) 立地条件 (問3)	22
(4) 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと (問4)	25
(5) 結婚相手などパートナーについて重視する (した) こと (問5)	28
(6) 結婚の合意についての考え (問6)	32
2-3. ここ5年間の人権をめぐる法律等の施行及びこれらに関する人 権問題について	
(7) 障がいのある人に関する人権問題 (問7)	34
(8) 日本に居住している外国人に関する人権問題 (問8)	35
(9) 部落差別 (同和問題) に関する人権問題 (問9)	36
(10) 性的マイノリティに関する人権問題 (問10)	37
(11) 法律や条例、制度の認知 (問11)	38
2-4. インターネットにおける人権侵害について	
(12) インターネットに関する人権問題 (問12)	40
2-5. 人権や差別に関する考え方について	
(13) 人権や差別についての考え (問13)	41
2-6. 人権問題の解決に向けた行政の取組みについて	
(14) 人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無 (問14)	46
(15) 学校で人権学習を受けたことの有無 (問15)	50
(16) 最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無 (問16)	53

2-7. 人権侵害について

(17) 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無（問17）	56
(17-1) 人権侵害の事象分野（問17-1）	58
(17-2) 人権侵害の内容（問17-2）	61
(17-3) 人権侵害が自身へのものかどうかの有無（問17-3）	64
(17-4) 自身のものであったときの対応（問17-3a）	66
(17-5) 自身のものであったときの解決したかの有無（問17-3b）	68
(17-6) 自身のものでなかったときの対応（問17-3c）	70
(17-7) 自身のものでなかったときの今後の対応（問17-3d）	72

2-8. 人権に対する考え方について

(18) 「人権」から連想する言葉（問18）	75
(19) 「人権」についてのふだんの意識（問19）	78
(20) 憲法で保障されている権利の認知（問20）	79

2-9. 属性

(21) 性別（問21）	85
(22) 年齢（問22）	87
(23) 日常的に利用する主なメディア（問23）	89
(24) 現在の暮らし向き（問24）	92
(25) 自由意見（問25）	94

第3章 調査結果の比較・分析

3-1. 比較・分析の概要

(1) いろいろな人権問題の認知（問1）	95
(2) 人権上問題があると思う行為（問2）	95
(3) 家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件（問3）	95
(4) 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと（問4）	96
(5) 結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと（問5）	98
(6) 結婚の合意についての考え（問6）	99
(7) 障がいのある人に関する人権問題（問7）	100
(8) 日本に居住している外国人に関する人権問題（問8）	100
(9) 部落差別（同和問題）に関する人権問題（問9）	100
(10) 性的マイノリティに関する人権問題（問10）	101
(11) 法律や条例制度の認知（問11）	101
(12) インターネットに関する感想（問12）	101
(13) 人権や差別についての考え（問13）	102
(14) 人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無（問14）	105
(15) 学校で人権学習を受けたことの有無（問15）	105

(16) 最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無（問16）	105
(17) 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無（問17）	105
(17-1) 人権侵害の事象分野（問17-1）	106
(17-2) 人権侵害の内容（問17-2）	106
(17-3) 人権侵害が自身へのものかどうかの有無（問17-3）	108
(17-4) 自身のものであったときの対応（問17-3a）	109
(17-5) 自身のものであったときの解決したかの有無（問17-3b）	109
(17-6) 自身のものでなかったときの対応（問17-3c）	110
(17-7) 自身のものでなかったときの今後の対応（問17-3d）	111
(18) 「人権」から連想する言葉（問18）	112
(19) 「人権」についてのふだんの意識（問19）	114
(20) 憲法で保障されている権利の認知（問20）	115
3-2. 調査結果のまとめ	
(1) いろいろな人権問題に関する意識や考え方について	116
(2) 住まいのことや就職、結婚相手・パートナーについての意識や考え方について	116
(3) ここ5年間の人権をめぐる法律等の施行及びこれらに関する人権問題について	116
(4) インターネットにおける人権侵害について	117
(5) 人権や差別に関する考え方について	117
(6) 人権問題の解決に向けた行政の取組みについて	117
(7) 人権侵害について	117
(8) 人権に対する考え方について	117
(参考) 依頼状・調査票	118

第1章 調査概要

1-1. 調査の目的

富田林市では、現在、「第2次富田林市人権行政推進基本計画」に基づき、さまざまな人権施策に取り組んでいるところであるが、平成29年度に実施した前回の意識調査から5年が経過し、この間の同和問題をはじめとする人権問題の解決に向けた市民意識の変化、動向を把握することで、本市の今後の人権教育・啓発活動の効果的な取り組みに向けた基礎資料とするために調査を行ったものである。

1-2. 調査の方法

- (1) 調査区域 富田林市全域
- (2) 調査対象者 市内在住の18歳以上の市民1,500人
- (3) 抽出法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方式 郵送による配付・回収(市のサイトよりオンラインによる回答を併用)
- (5) 調査期間 令和4年11月17日(木)～12月9日(金)
(令和4年12月19日(月)到着分まで返送されたものを有効とした)

1-3. 調査の内容

1. いろいろな人権問題に関する意識や考え方について
 - 問1 いろいろな人権問題の認知
 - 問1-1 特に人権上深刻な問題と考えられるもの
 - 問2 人権上問題があると思う行為
2. 住まいのことや就職、結婚相手・パートナーについての意識や考え方について
 - 問3 家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件
 - 問4 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと
 - 問5 結婚相手などパートナーについて重視する(した)こと
 - 問6 結婚の合意についての考え
3. ここ5年間の人権をめぐる法律等の施行及びこれらに関する人権問題について
 - 問7 障がいのある人に関する人権問題
 - 問8 日本に居住している外国人に関する人権問題
 - 問9 部落差別(同和問題)に関する人権問題
 - 問10 性的マイノリティに関する人権問題
 - 問11 法律や条例、制度の認知
4. インターネットにおける人権侵害について
 - 問12 インターネットに関する人権問題
5. 人権や差別に関する考え方について
 - 問13 人権や差別についての考え

6. 人権問題の解決に向けた行政の取組みについて

問 14 人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無

問 15 学校で人権学習を受けたことの有無

問 16 最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無

7. 人権侵害について

問 17 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無

問 17-1 人権侵害の事象分野

問 17-2 人権侵害の内容

問 17-3 人権侵害が自身へのものかどうかの有無

問 17-3a 自身のものであったときの対応

問 17-3b 自身のものであったときの解決したかの有無

問 17-3c 自身のものでなかったときの対応

問 17-3d 自身のものでなかったときの今後の対応

8. 人権に対する考え方について

問 18 「人権」から連想する言葉

問 19 「人権」についてのふだんの意識

問 20 憲法で保障されている権利の認知

9. 属性

問 21 性別

問 22 年齢

問 23 日常的に利用する主なメディア

問 24 現在の暮らし向き

問 25 自由意見

1-4. 調査対象者の抽出方法

対象者の抽出については、「系統抽出法」を用いる。

標本については、令和4年9月現在、本市に居住している18歳以上の市民を母集団として、住民基本台帳データからそれぞれ標本を抽出した。

なお、抽出にあたっては年齢別、性別にあらかじめ割当て人数を決めた。

■ 標本割当表

年齢別		18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
母集団数（人）		13,246	9,868	13,362	16,327	13,902	26,876	93,581
構成比（％）		14.2	10.5	14.3	17.4	14.9	28.7	100.0
標本数	男性	125	125	125	125	125	125	750
	女性	125	125	125	125	125	125	750

1-5. 回収状況

今回の調査は、1,500人を対象に調査票を郵送した。回答があった調査対象者は360票で、すべて有効回収調査票となっている。

有効回収調査票のうち、オンラインによる回収数は87票であった。

また、調査票が調査対象者に到達しないまま返送されてきたものが4票あり、調査票が調査対象者に到達したと考えられる1,496人に対する有効回収率は24.1%で、割当標本数に対する有効回収率は24.0%となっている。

大阪府調査と比較すると、大阪府調査の割当標本数に対する有効回収率は43.7%と、今回調査より19.7ポイント高くなっている。

■回収状況

	割当て 標本数	到達 標本数	不当達 標本数	有効回収 調査票数	無効調 査票数	割当標本 数に対す る回収率	到達標本 数に対す る回収率
今回調査	1,500	1,496	4	360	0	24.0%	24.1%
大阪府調査 (令和2年度)	3,550	3,516	34	1,553	5	43.7%	44.2%
平成29年度 (前回)調査	1,500	1,496	4	476	0	31.7%	31.8%
平成24年度 調査	1,500	1,490	10	501	0	33.4%	33.6%
平成19年度 調査	2,000		9	803	10	40.2%	

性別にみると、割当て標本数に対する有効回収数では、「男性」の回収状況は、今回調査21.1%、前回調査23.2%と、前回調査の方が2.1ポイント高くなっている。

「女性」の回収状況は、今回調査25.3%、前回調査37.2%と前回調査の方が11.9ポイント高くなっている。

■性別 回収状況

	男性	女性	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	その他	無回答
割当て 標本数	750	750	—	—	—
今回調査	158 21.1%	190 25.3%	7 —	2 —	3 —
前回調査	174 23.2%	279 37.2%	12 —	— —	11 —

年齢別にみると、前回調査より全体的に減少しており、年齢が下がるにつれて回収率が低くなっている。また、「18～29 歳」が 12.0%と平成 29（2017）年調査と同じく、最も低くなっている。

前回調査と比べて回収率が最も低下しているのは、「60～69 歳」が 32.4%で、前回調査の 43.2%に比べて 10.8 ポイント低下している。

■年齢別 回収状況

	総数	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70 歳 以上	無回答
割当て 標本数	1,500	250	250	250	250	250	250	—
今回調査	360	30 12.0%	36 14.4%	59 23.6%	72 28.8%	81 32.4%	81 32.4%	1 0.3%
前回調査	476	45 18.0%	60 24.0%	62 24.8%	86 34.4%	108 43.2%	104 41.6%	11 —

1－6．調査結果の見方

- (1) 調査結果は、あくまで本アンケートの回答者の回答状況を示すものであり、市民全体の状況をあらわすものではない。
- (2) クロス集計とは、複数の質問を組み合わせることで集計することにより、性別・年齢別のグループごとの傾向を明らかにするための集計方法である。
- (3) 集計結果は、すべて小数点第 2 位を四捨五入しているため、構成比の合計が 100.0%にならないことがある。
- (4) 複数回答が可能な設問の場合、選択肢の合計が 100.0%を超えることがある。
- (5) 図表中の n 数は、その質問に対する回答件数を表す。
- (6) 文中・グラフにある大阪府調査とは、大阪府が主体の「人権問題に関する府民意識調査」で令和 2 年度に調査を行ったものの略を指す。回答者数は、1,553 名であった。

また、文中・グラフにある前回調査とは、富田林市が主体の「平成 29（2017）年度人権に関する市民意識調査」で平成 29 年度に調査を行ったものの略を指す。回答者数は、476 名であった。

1-7. 標本誤差

調査結果の誤差の計算は次の計算式によって計算できる。

$$\text{標準誤差} = k\sqrt{(N - n)/(N - 1) \cdot p(1 - p)/n}$$

N＝母集団数（96,563）、n＝回答者数、p＝回答比率、k＝信頼度による定数

k は信頼度の設定により変わり、一般的には信頼度 95%の k=1.96 を使用する場合が多い。

上記式によって計算された総数および主な属性別の標本誤差は以下のとおりである。

■ 標本誤差

	回答比率(P) 回答者数(n)	50%	45%	40%	35%	30%	25%	20%	15%	10%	5%
		50%	55%	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%
全体	360	5.2	5.1	5.1	4.9	4.7	4.5	4.1	3.7	3.1	2.3
男性	158	7.8	7.8	7.6	7.4	7.1	6.8	6.2	5.6	4.7	3.4
女性	190	7.1	7.1	7.0	6.8	6.5	6.2	5.7	5.1	4.3	3.1
男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	7	37.0	36.9	36.3	35.3	33.9	32.1	29.6	26.5	22.2	16.1
20代以下	30	17.9	17.8	17.5	17.1	16.4	15.5	14.3	12.8	10.7	7.8
30代	36	16.3	16.3	16.0	15.6	15.0	14.1	13.1	11.7	9.8	7.1
40代	59	12.8	12.7	12.5	12.2	11.7	11.0	10.2	9.1	7.7	5.6
50代	72	11.5	11.5	11.3	11.0	10.6	10.0	9.2	8.2	6.9	5.0
60代	81	10.9	10.8	10.7	10.4	10.0	9.4	8.7	7.8	6.5	4.7
70代以上	81	10.9	10.8	10.7	10.4	10.0	9.4	8.7	7.8	6.5	4.7

標本誤差の見方について、「総数」の場合の例を示すと、母集団 93,581 人における回答者数 360 人、回答の比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも約 5%（45.5～54.5%）であるとみることができる。

第2章 調査結果

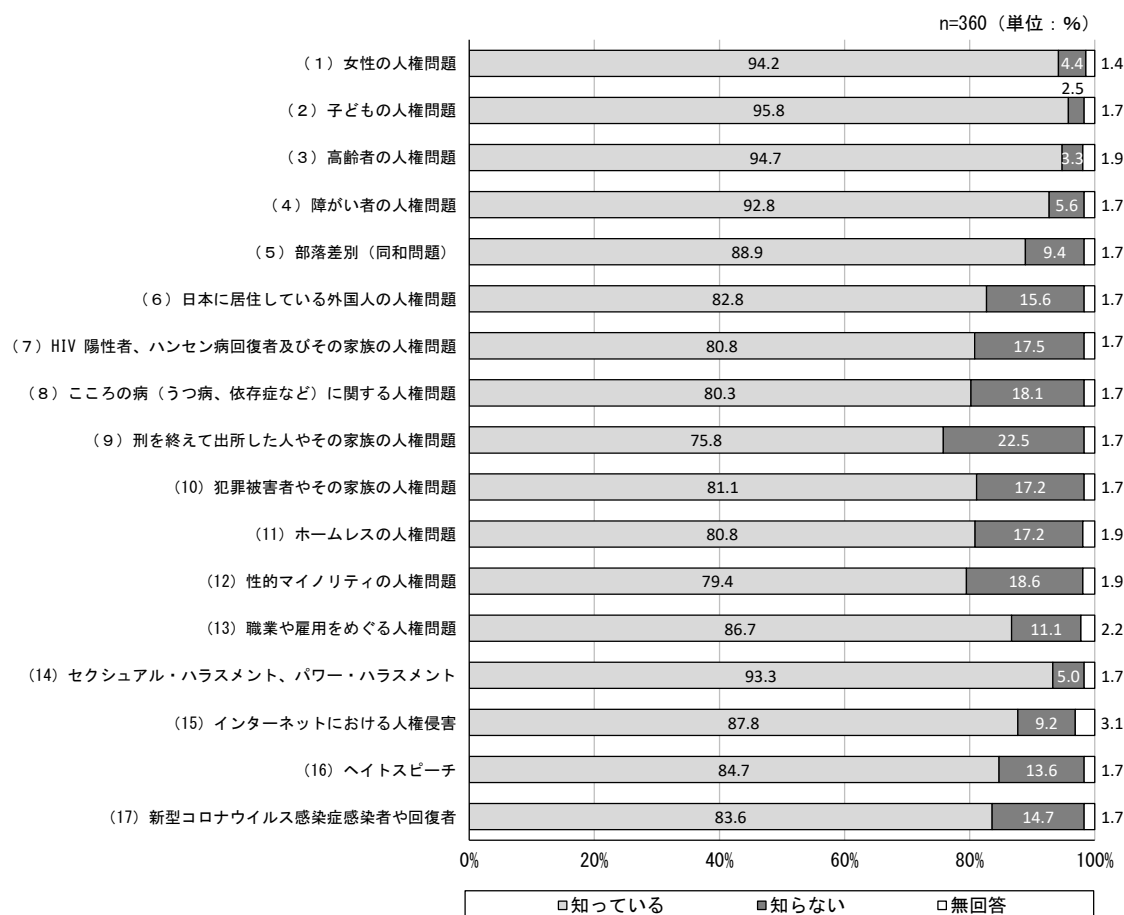
2-1. いろいろな人権問題に関する意識や考え方について

(1) いろいろな人権問題の認知

問1 あなたは、次の人権問題を知っていますか？（どちらかに○）

いろいろな人権問題の認知についてみると、「知っている」は『子どもの人権問題』が95.8%と最も高く、次いで『高齢者の人権問題』が94.7%、『女性の人権問題』が94.2%の順となっている。

■ いろいろな人権問題の認知



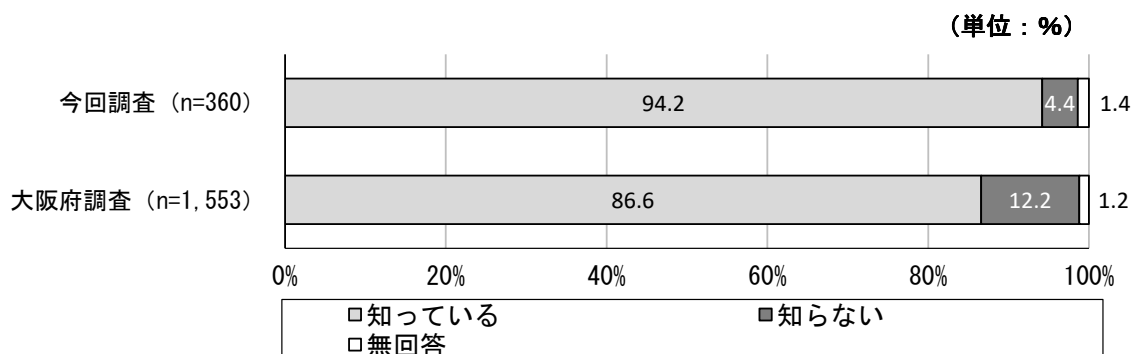
大阪府調査と比較すると、『子どもの人権問題』の「知っている」は今回調査 95.8%、大阪府調査 78.8%と、今回調査の方が 17.0 ポイント高くなっている。

また、『H I V陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題』『職業や雇用をめぐる人権問題』の「知っている」は今回調査と大阪府調査はほぼ同じ割合となっている。

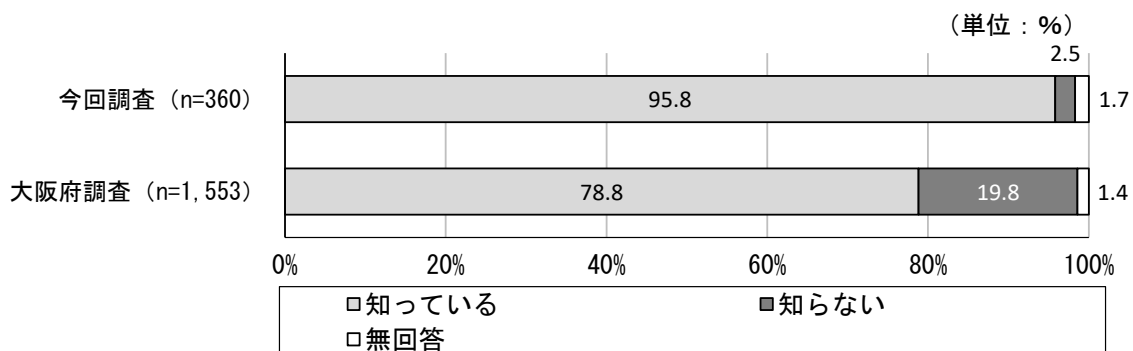
※大阪府調査は、「(9) 刑を終えて出所した人やその家族の人権問題」の設問無しの為、この設問についての比較は行っていない。

■いろいろな人権問題の認知（大阪府調査との比較）

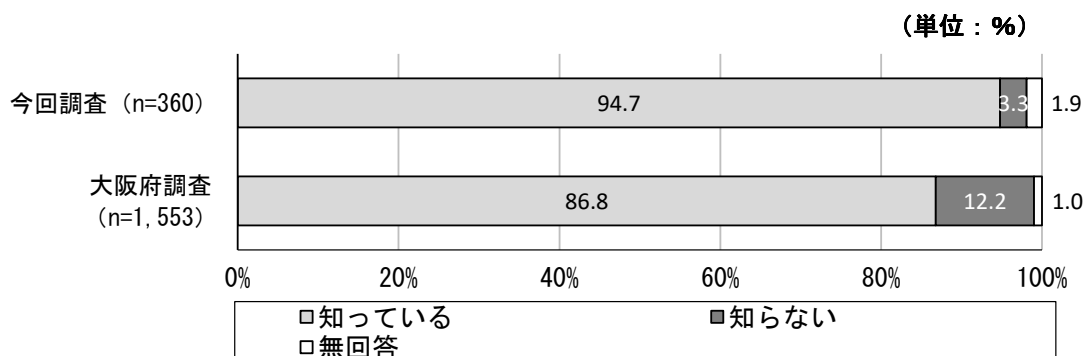
（１）女性の人権問題



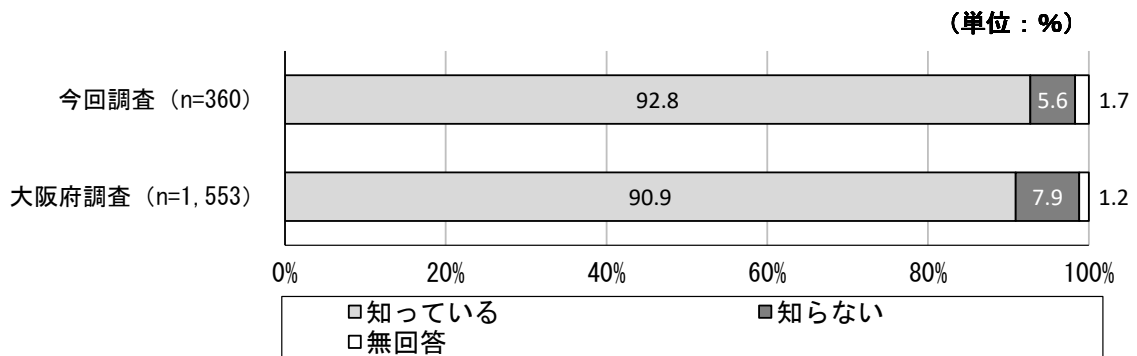
（２）子どもの人権問題



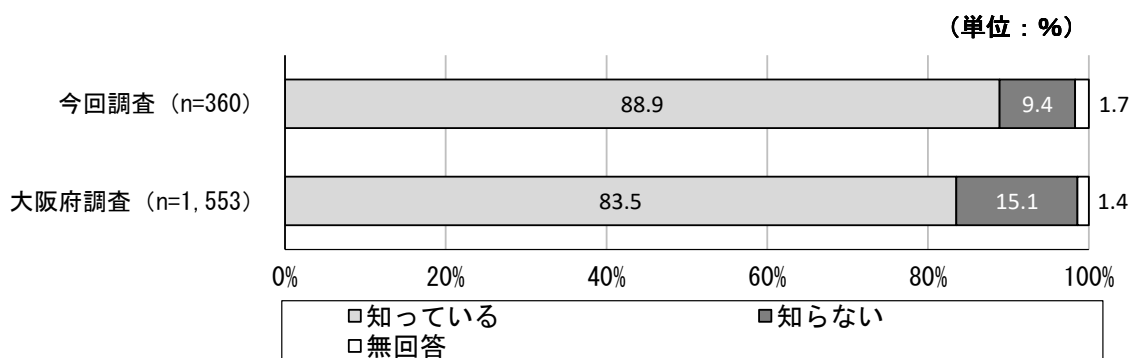
（３）高齢者の人権問題



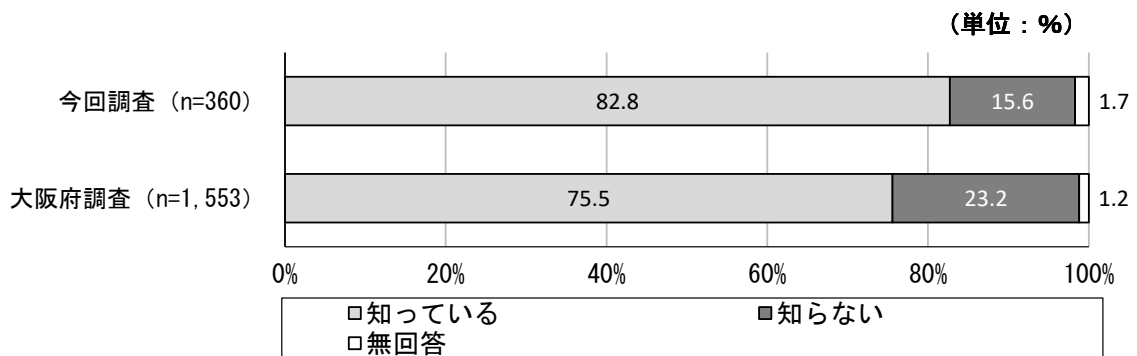
(4) 障がい者の人権問題



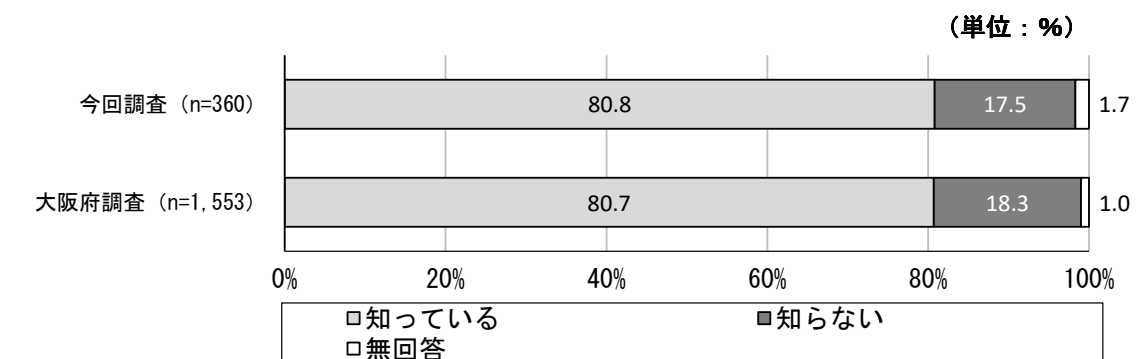
(5) 部落差別 (同和問題)



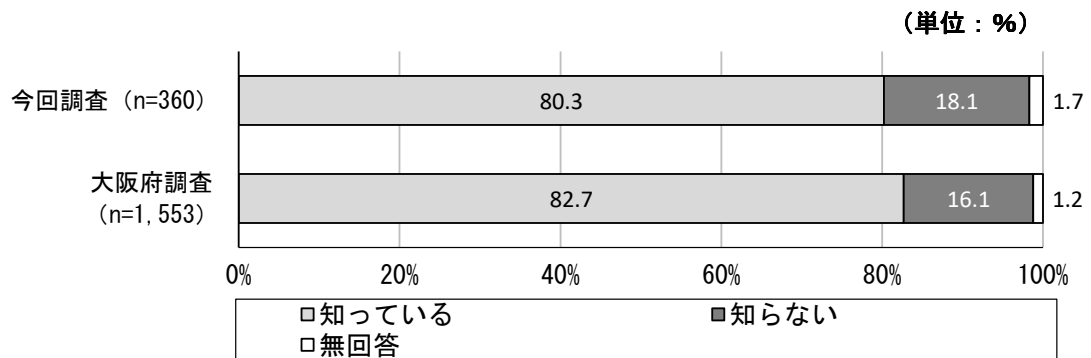
(6) 日本に居住している外国人の人権問題



(7) HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題



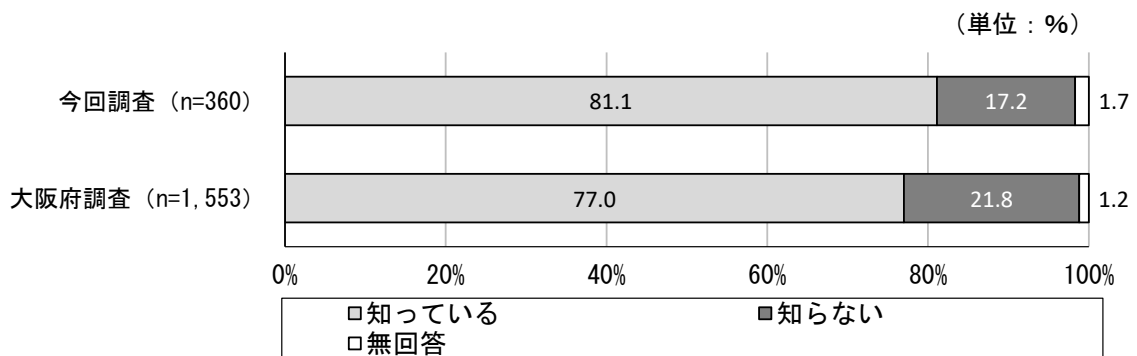
(8) こころの病（うつ病、依存症など）に関する人権問題



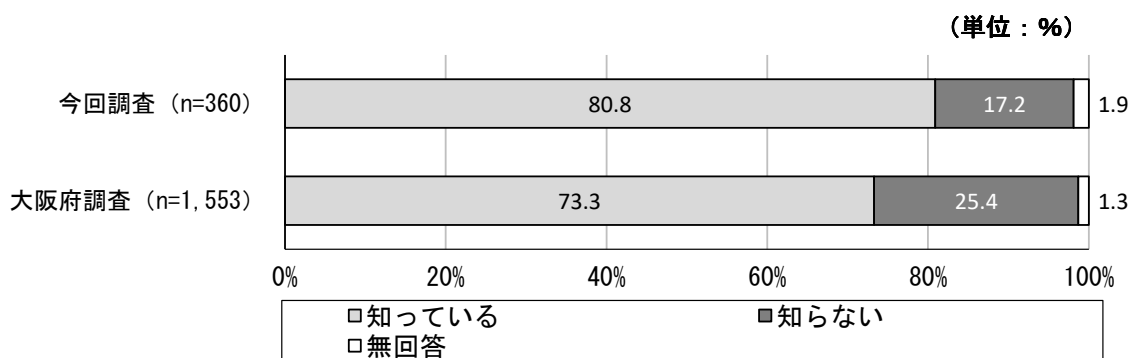
(9) 刑を終えて出所した人やその家族の人権問題

※大阪府調査で設問無しの為、この設問について比較は行っていない。

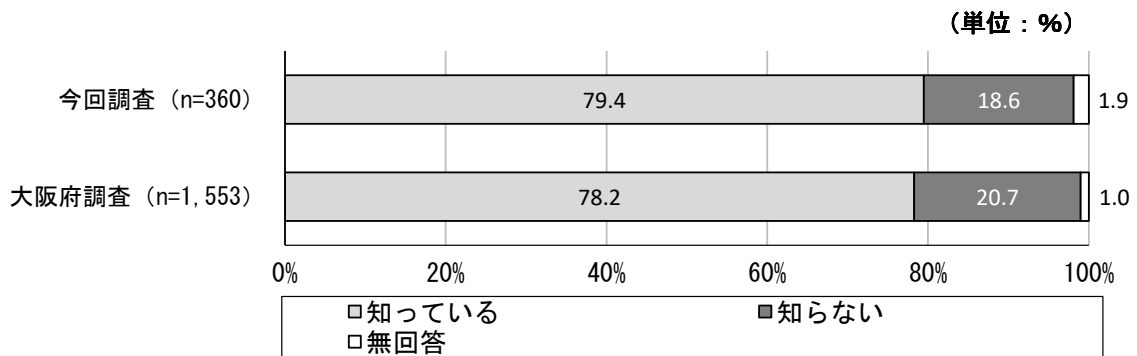
(10) 犯罪被害者やその家族の人権問題



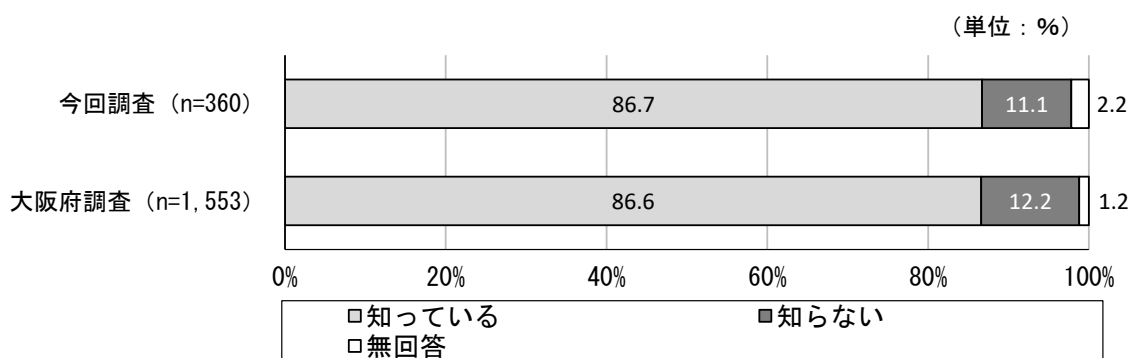
(11) ホームレスの人権問題



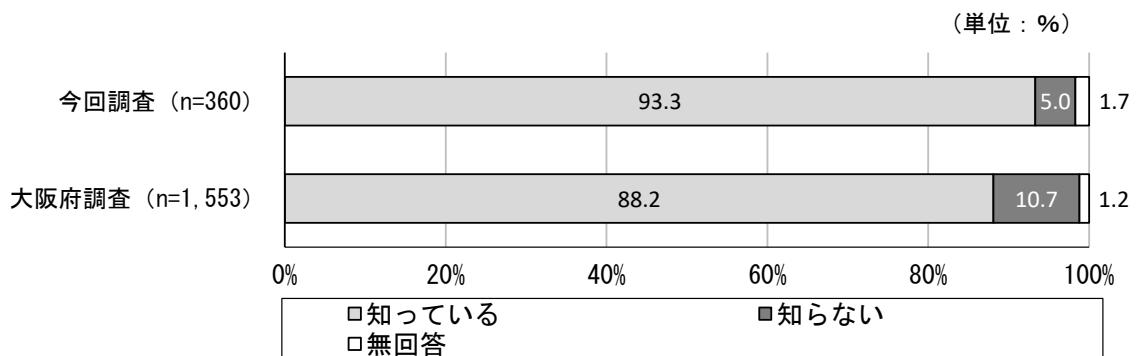
(12) 性的マイノリティの人権問題



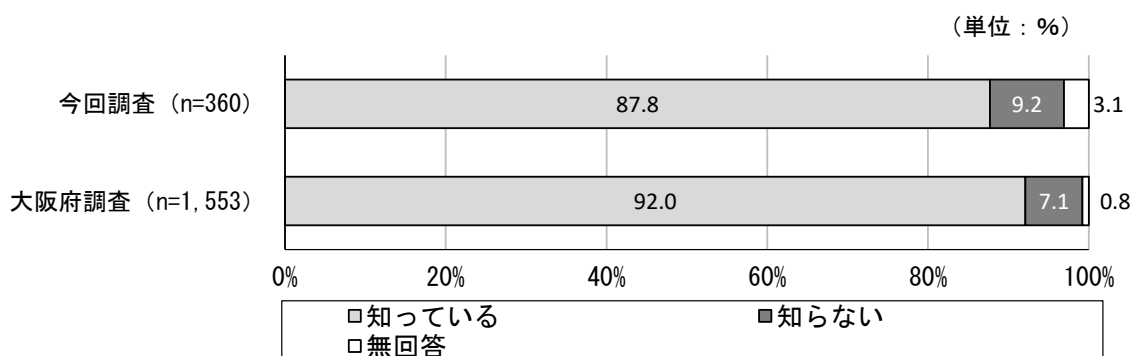
(13) 職業や雇用をめぐる人権問題



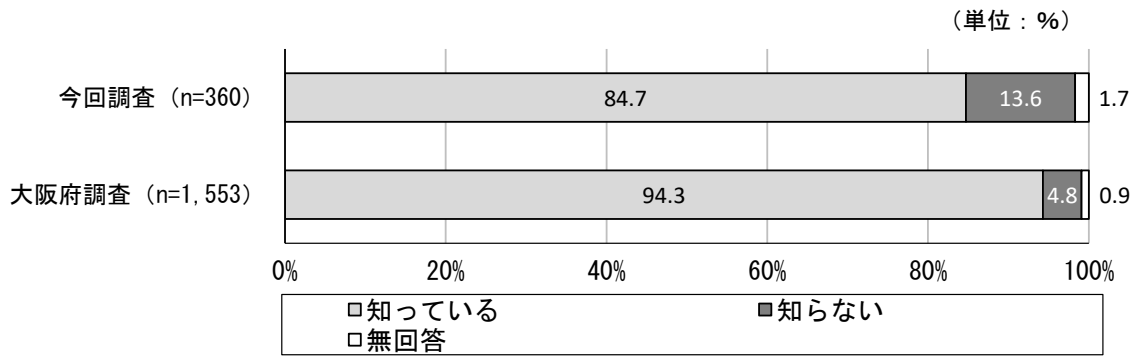
(14) セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント



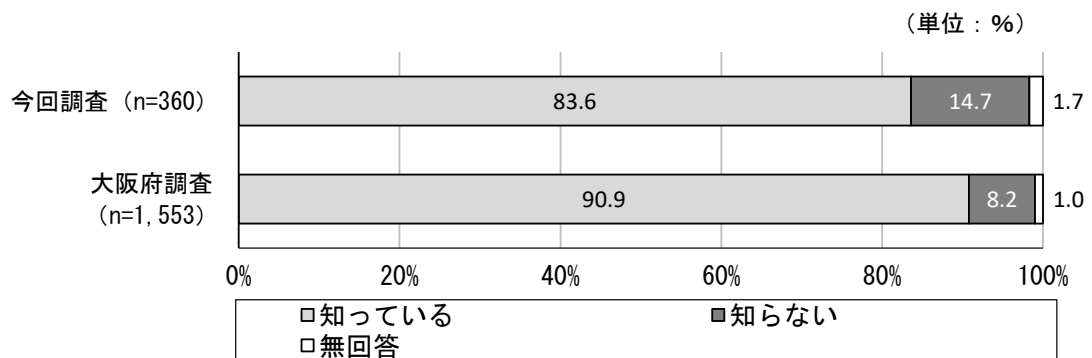
(15) インターネットにおける人権侵害



(16) ヘイトスピーチ



(17) 新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等やその家族の人権問題



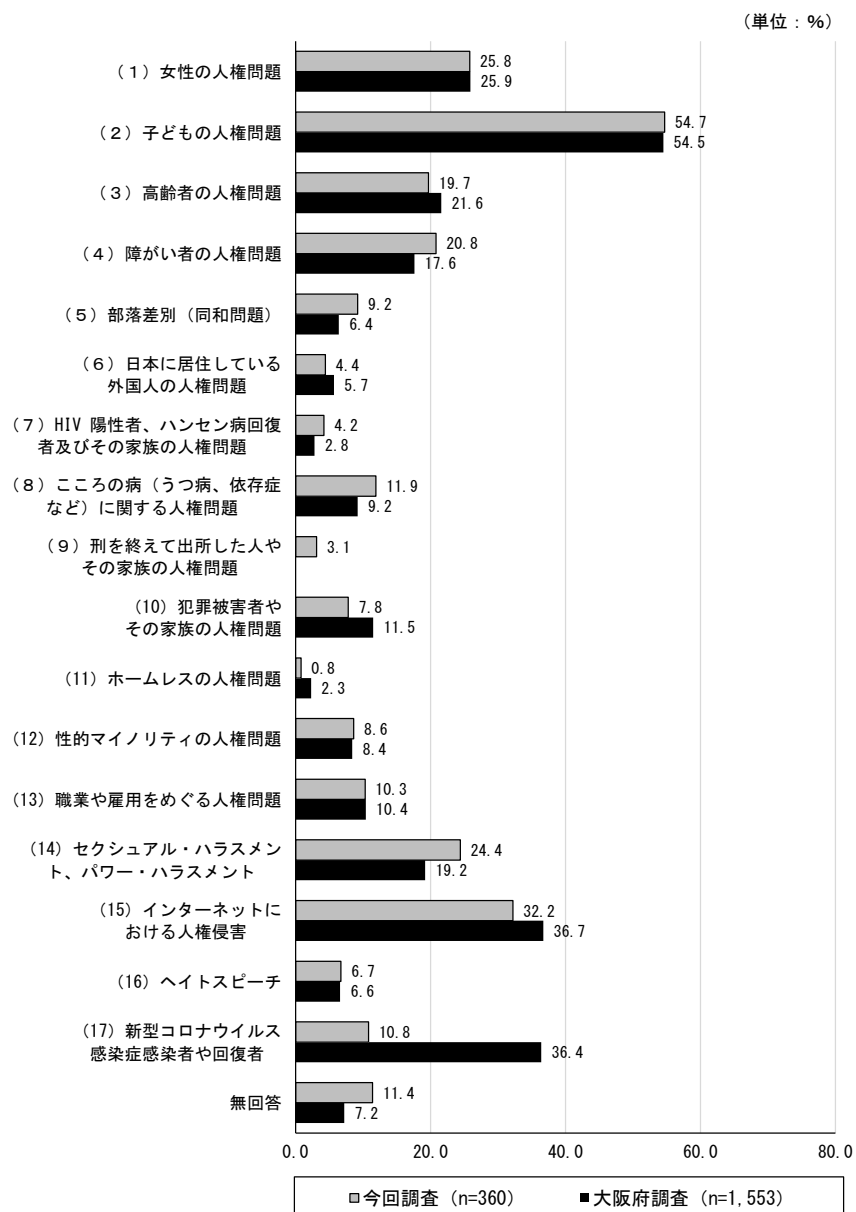
（１－１）特に人権上深刻な問題と考えられるもの

問１－１ これらのうち、特に人権上深刻な問題と考えるのはどれだと思いますか？（３つまで）

特に人権上深刻な問題と考えられるものについてみると、「子どもの人権問題」が 54.7%と最も高く、次いで「インターネットにおける人権侵害」が 32.2%、「女性の人権問題」が 25.8%の順となっている。

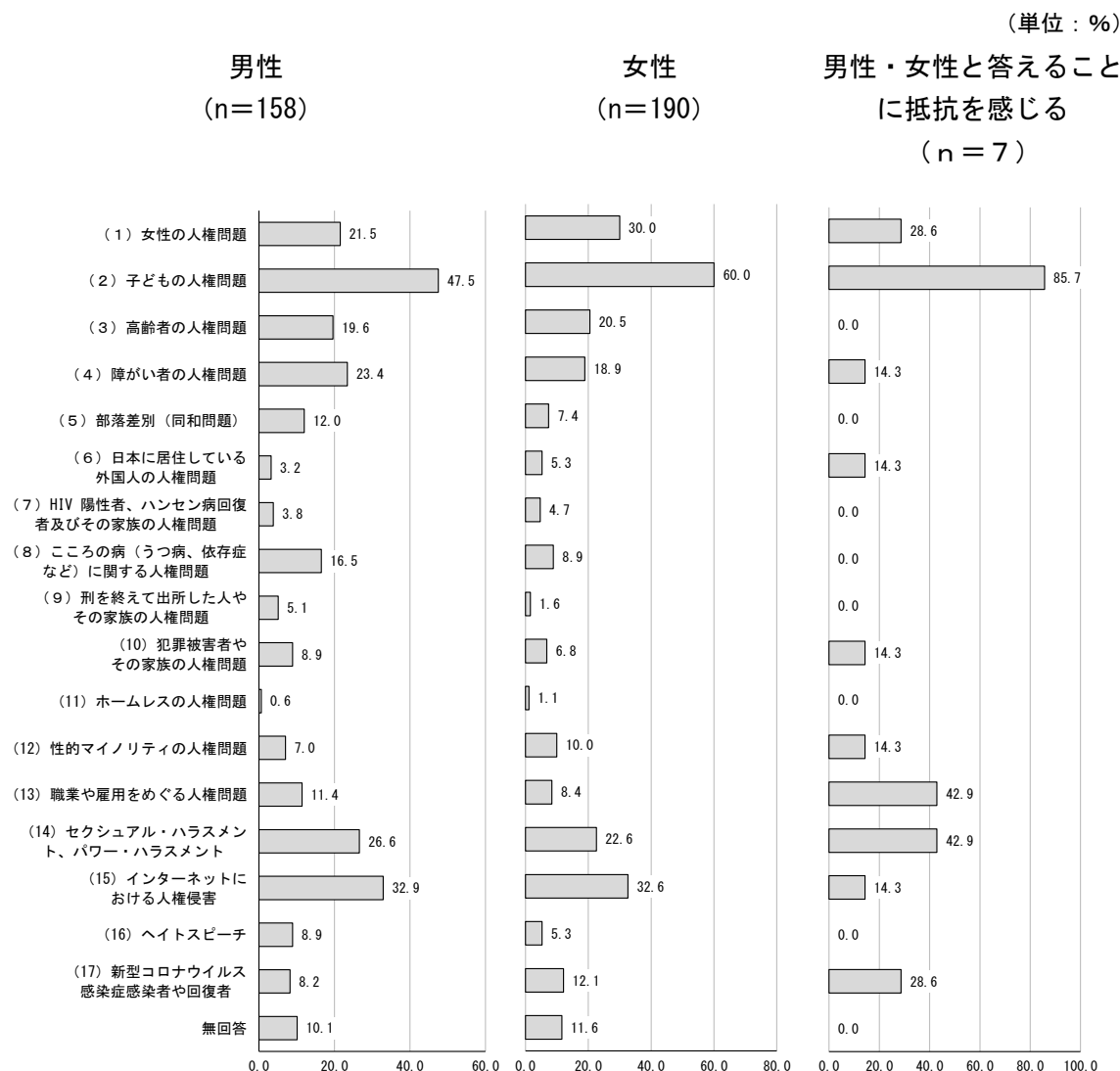
大阪府調査と比較すると、１位、２位の順は同じ順となっている。

■特に人権上深刻な問題と考えられるもの



性別にみると、『男性』で「子どもの人権問題」が47.5%、『女性』で同60.0%とそれぞれ最も高くなっている。

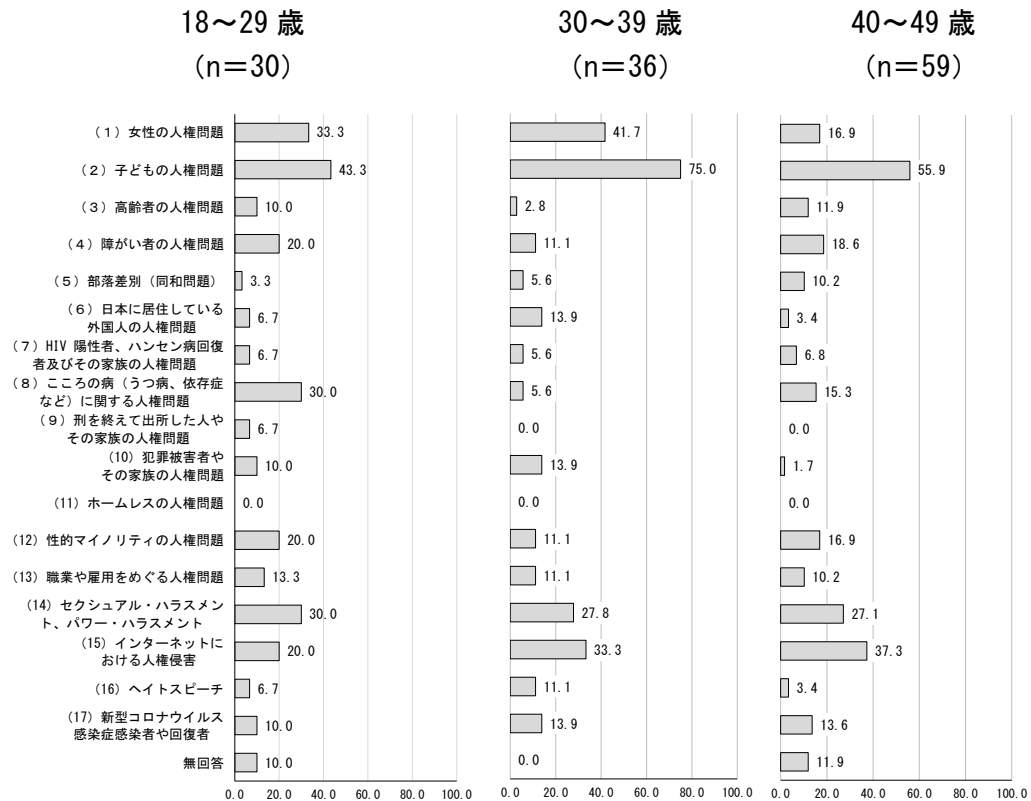
■性別 特に人権上深刻な問題と考えられるもの



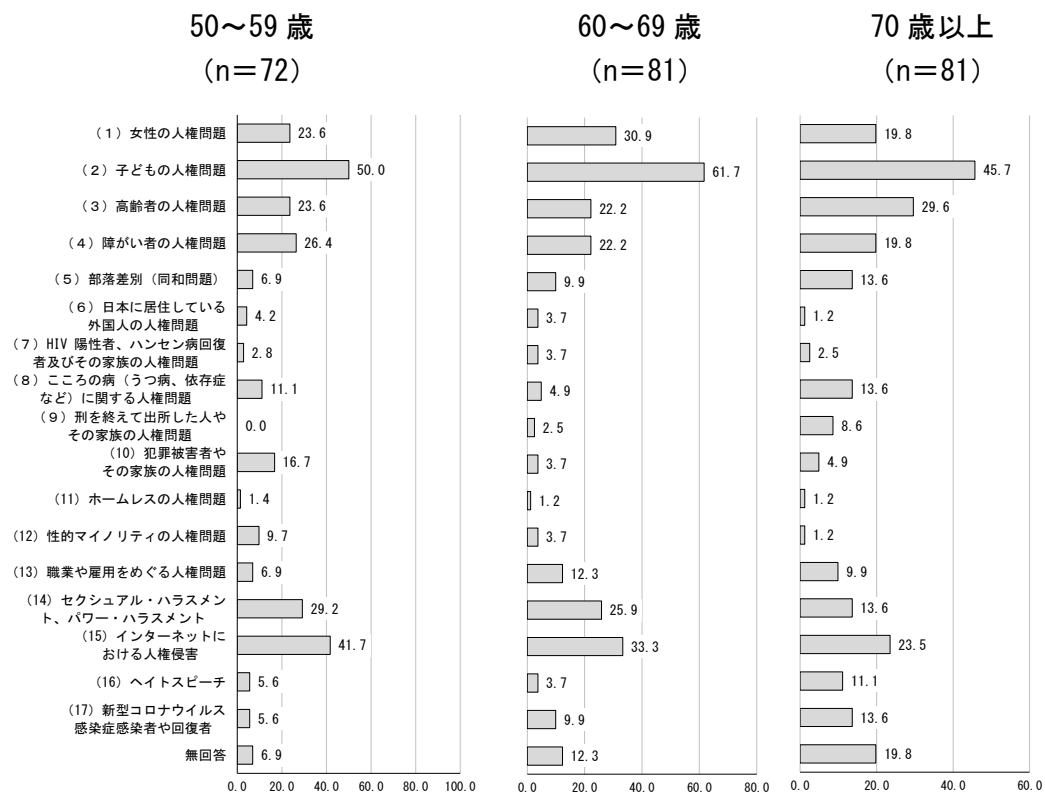
年齢別にみると、すべての年代で「子どもの人権問題」が最も高く、特に『30～39 歳』、『60～69 歳』が、それぞれ75.0%、61.7%と高くなっている。

■年齢別 特に人権上深刻な問題と考えられるもの

(単位：%)



(単位：%)

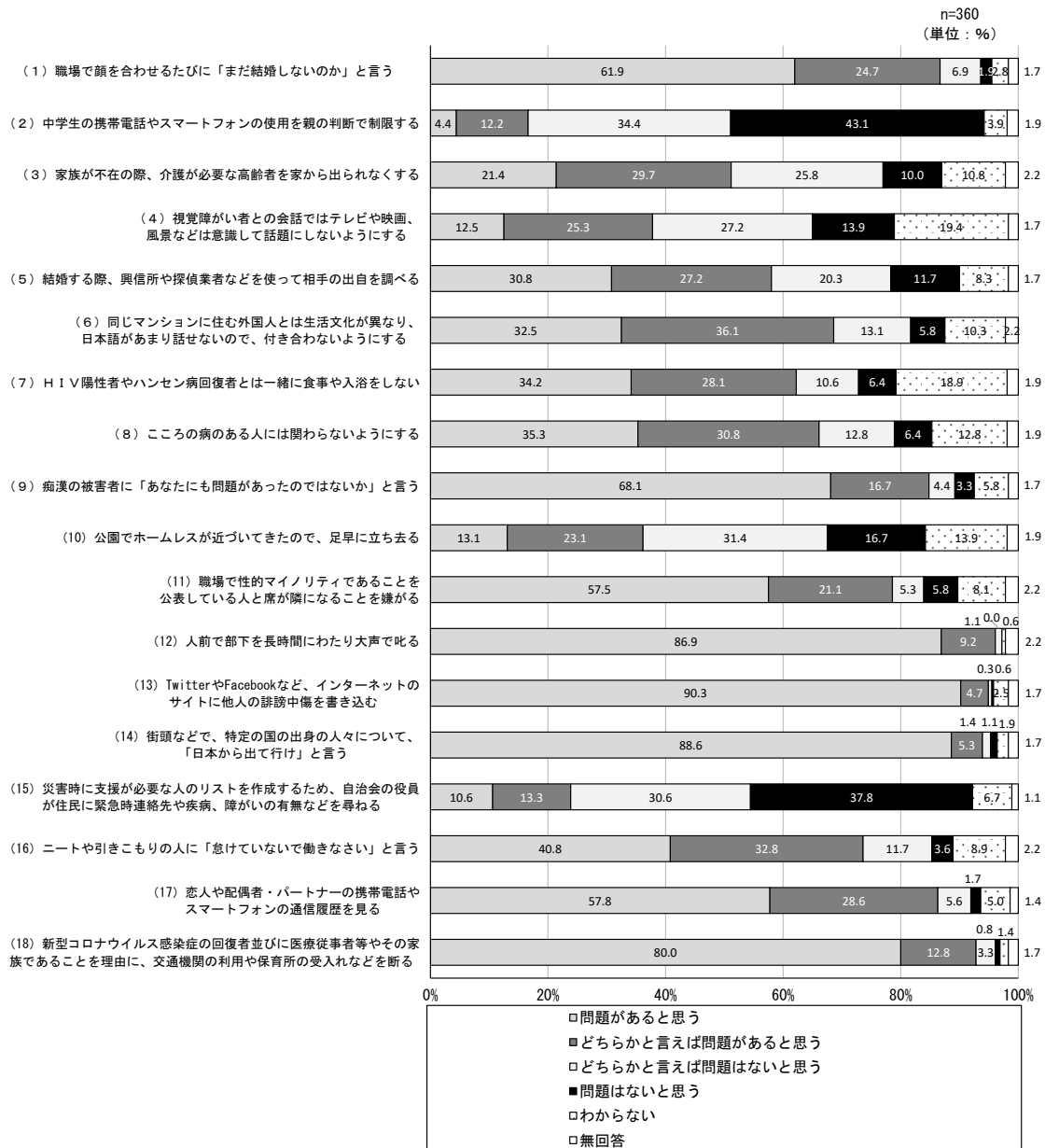


(2) 人権上問題があると思う行為

問2 あなたは、次のような行為について、人権上問題があると思いますか？
(いずれか1つに○)

人権上問題があると思う行為についてみると、“問題があると思う”(「問題があると思う」+「どちらかと言えば問題があると思う」は『人前で部下を長時間にわたり大声で叱る』が96.1%と最も高く、次いで『TwitterやFacebookなど、インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む』が95.0%、『街頭などで、特定の国の出身の人々について、「日本から出て行け」と言う』が93.9%の順となっている。

■人権上問題があると思う行為

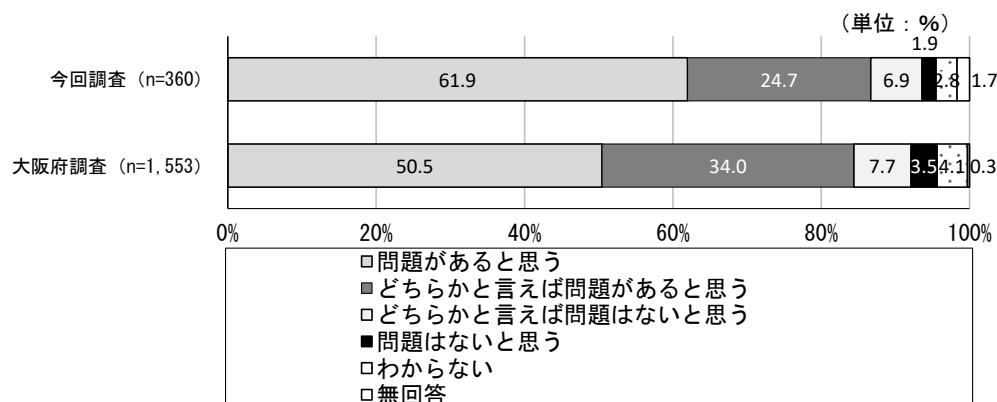


大阪府調査と比較すると、『人前で部下を長時間にわたり大声で叱る』の“問題があると思う”は今回調査 96.1%、大阪府調査 96.2%とほぼ同じ割合となっている。

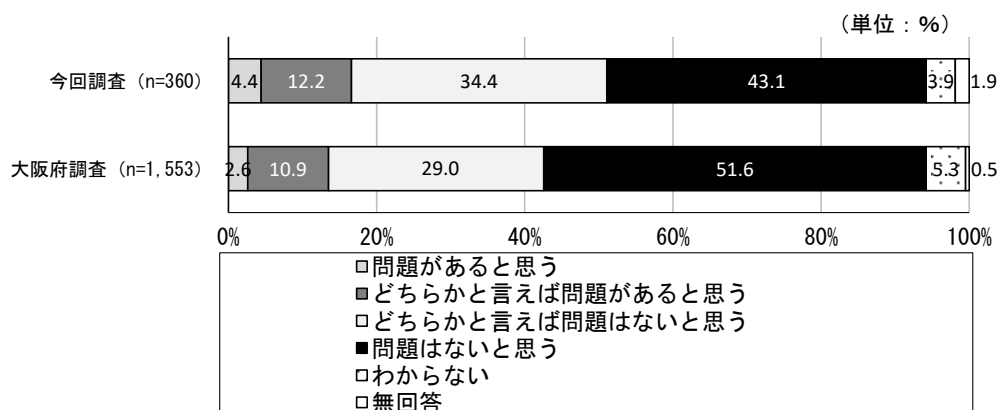
また、『TwitterやFacebook など、インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む』の“問題があると思う”が今回調査 95.0%、大阪府調査 95.9%とほぼ同じ割合となっている。

■人権上問題があると思う行為（大阪府調査との比較）

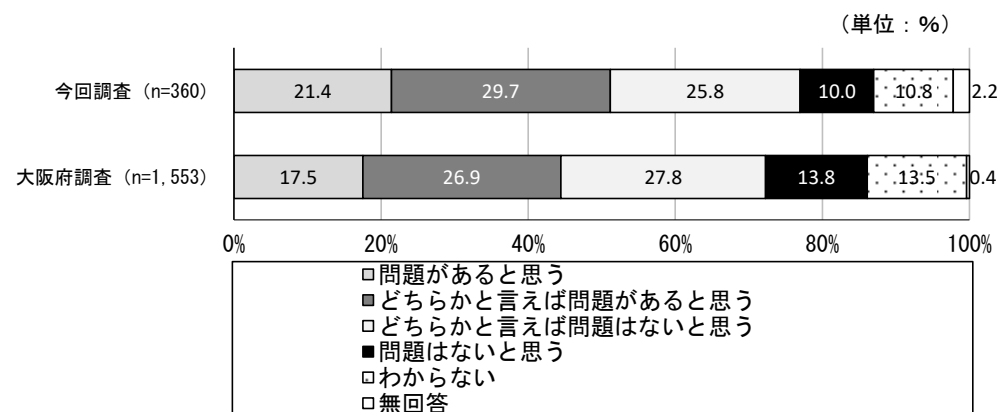
（１）職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う



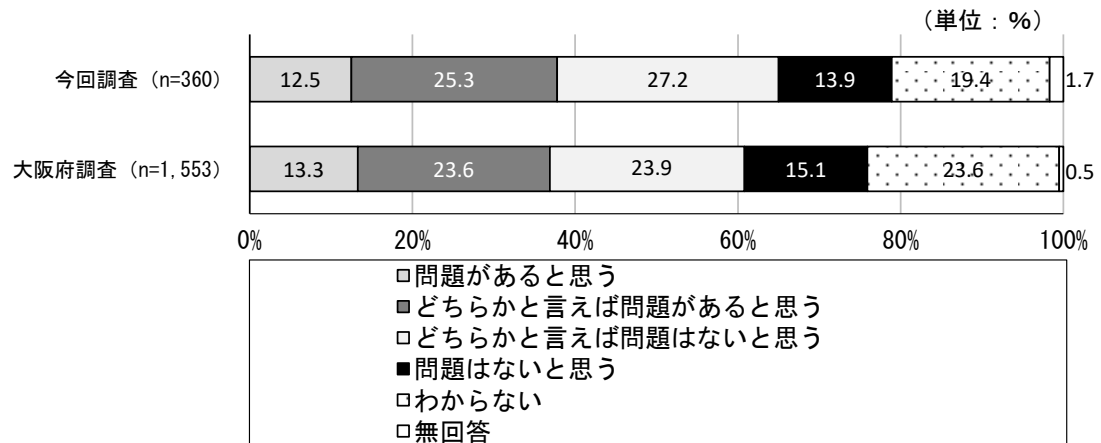
（２）中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する



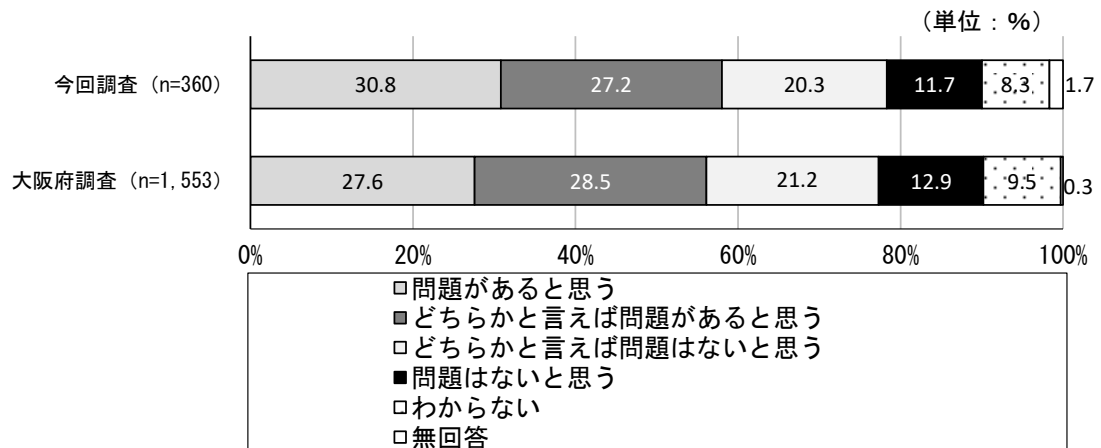
（３）家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする



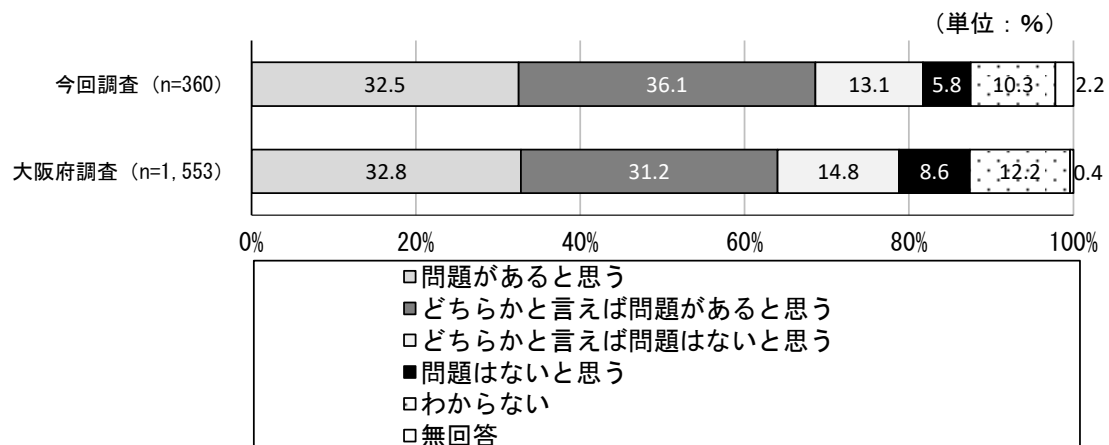
(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする



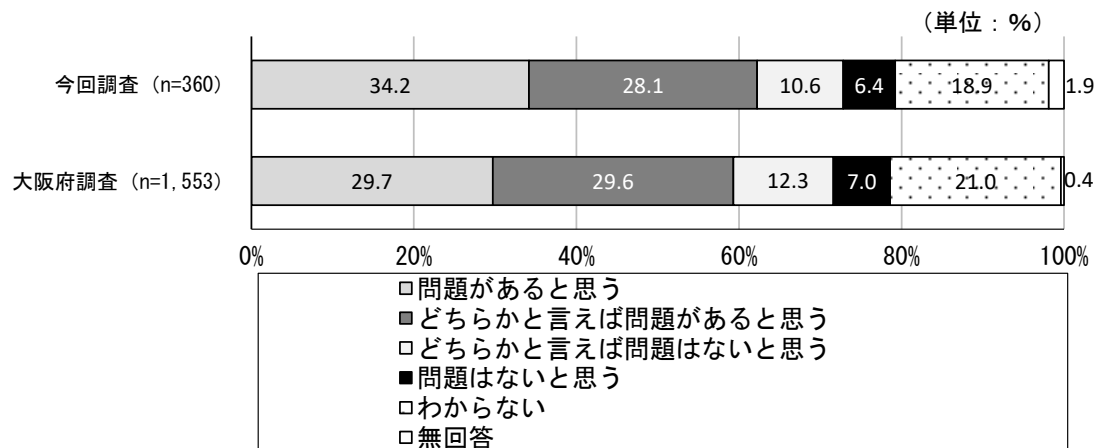
(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる



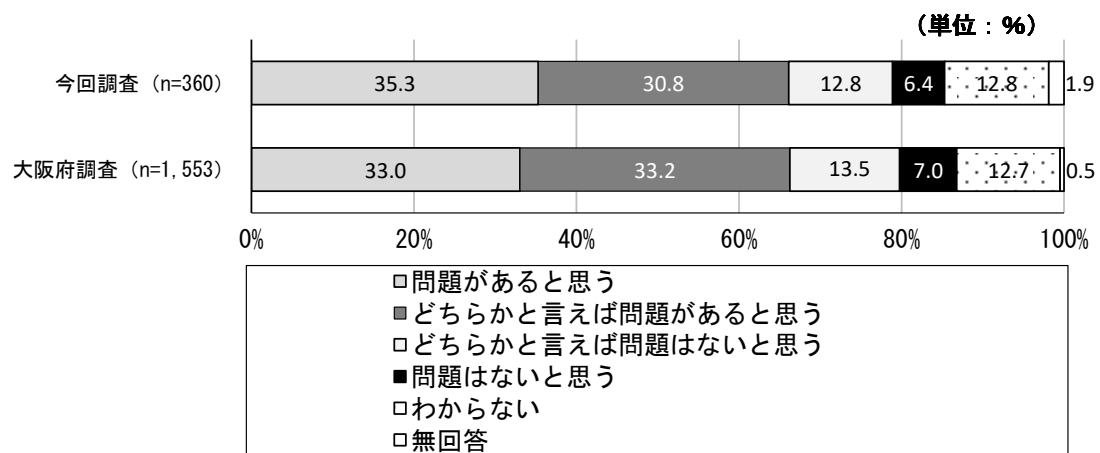
(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないの
で、付き合わないようにする



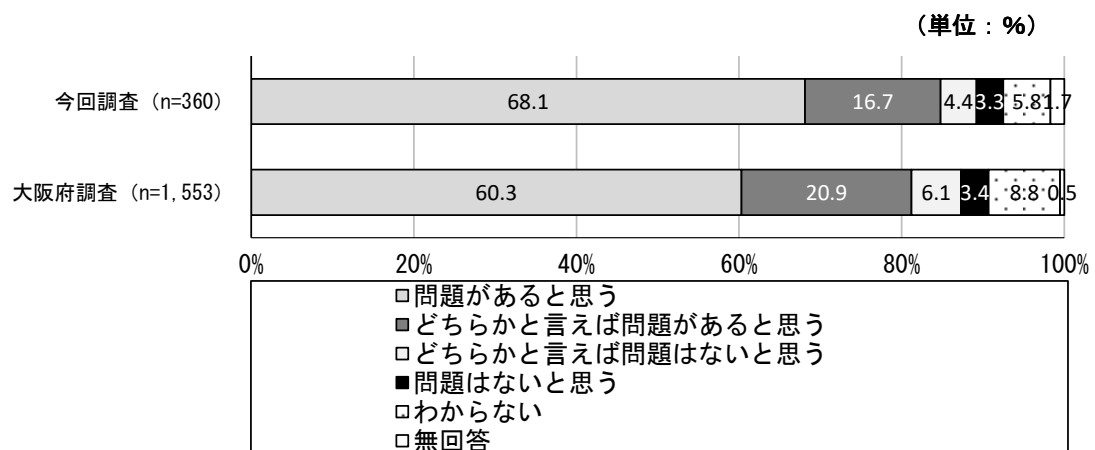
(7) HIV陽性者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない



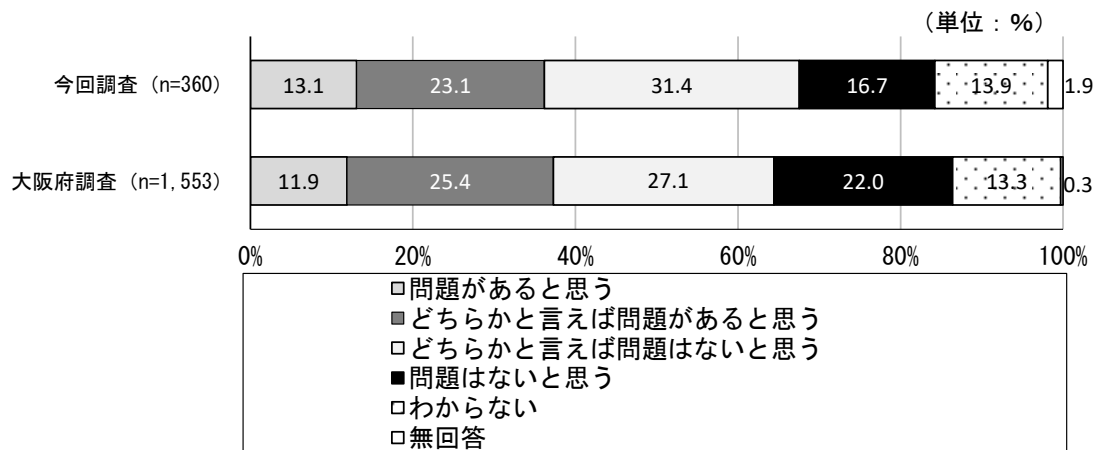
(8) こころの病のある人には関わらないようにする



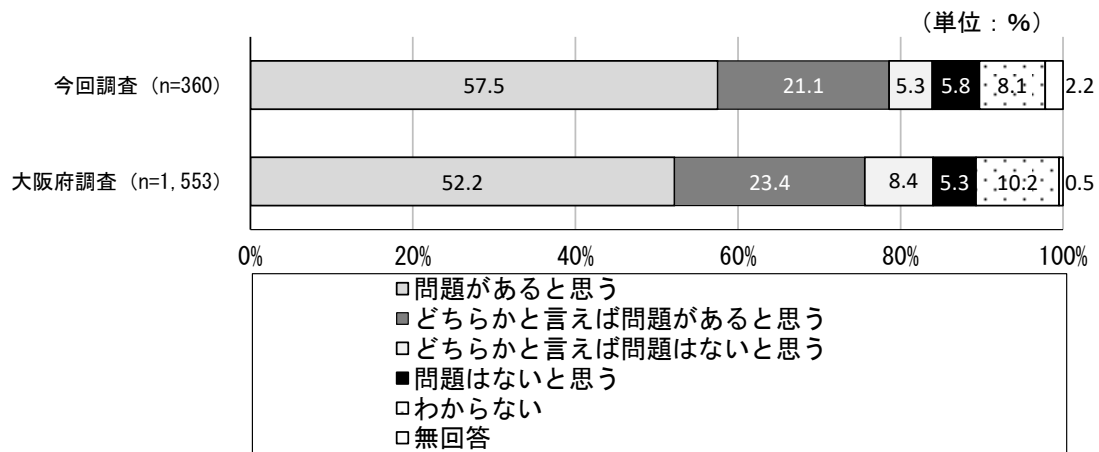
(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う



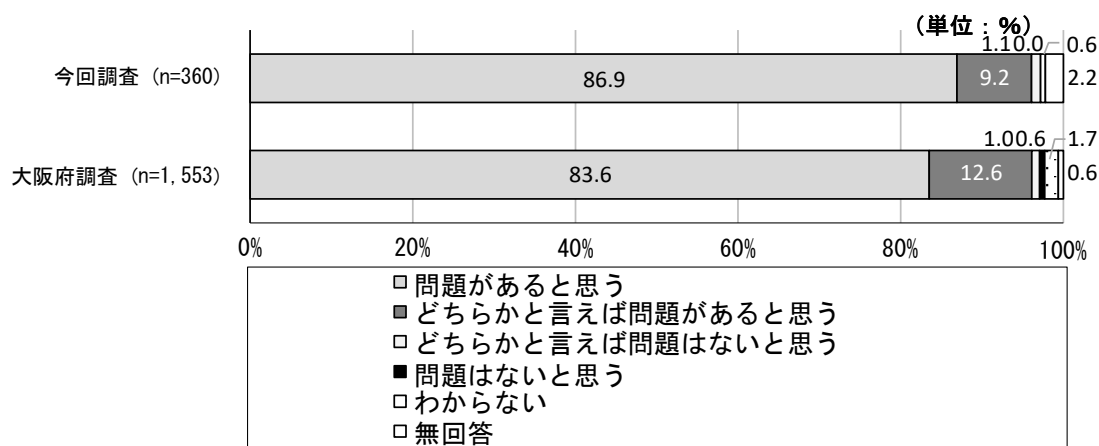
(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る



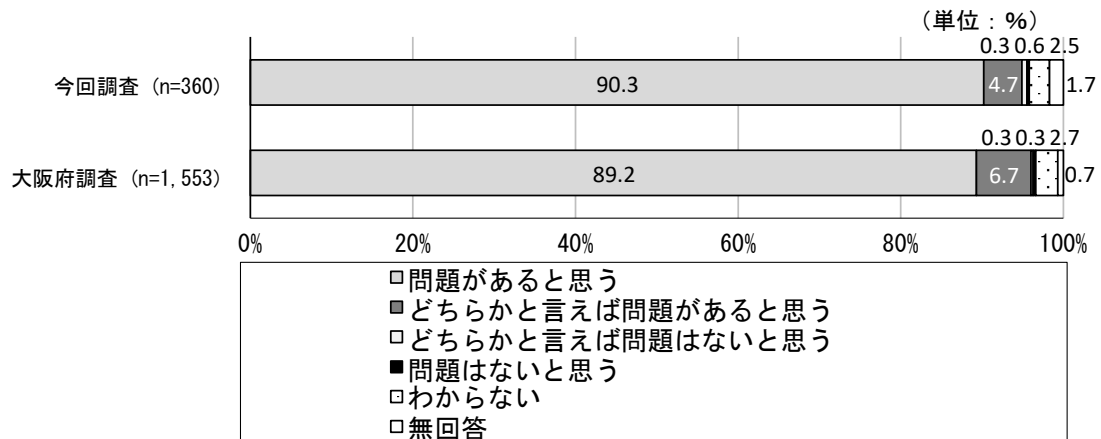
(11) 職場で性的マイノリティであることを公表している人と席が隣になることを嫌がる



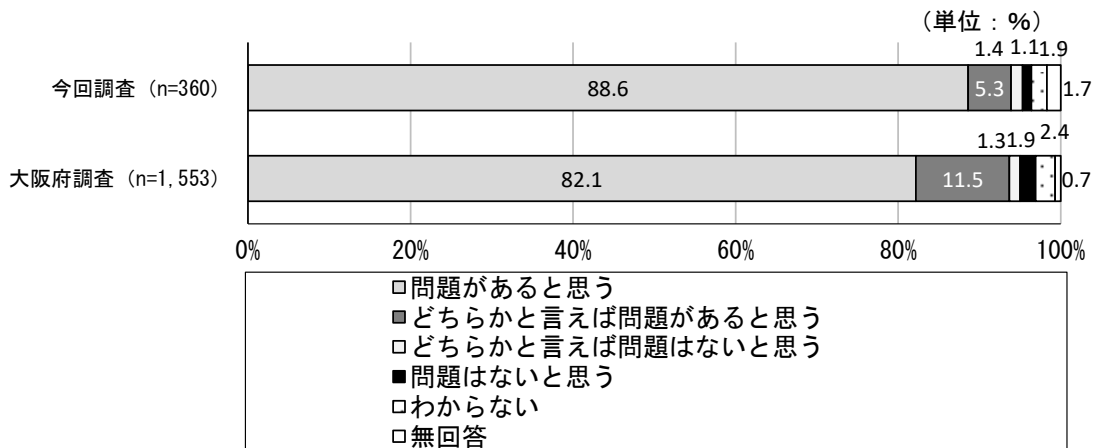
(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る



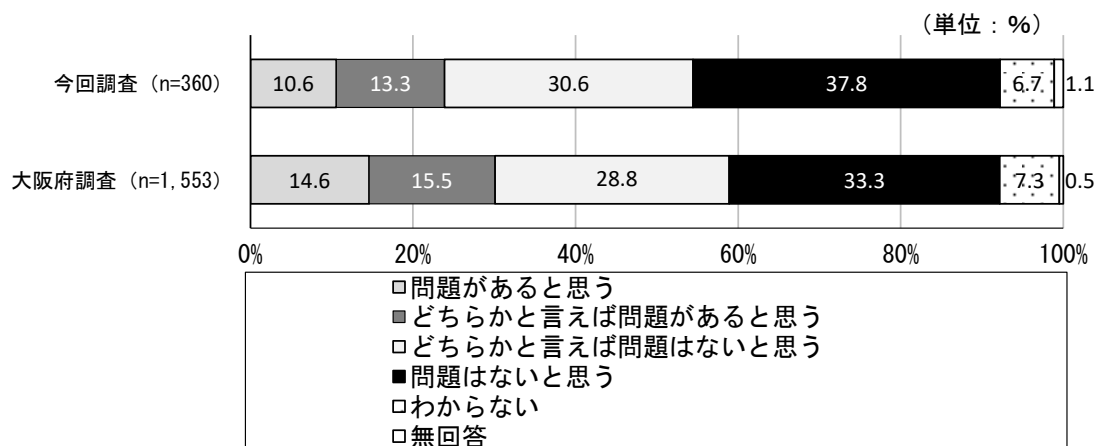
(13) Twitter や Facebook など、インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む



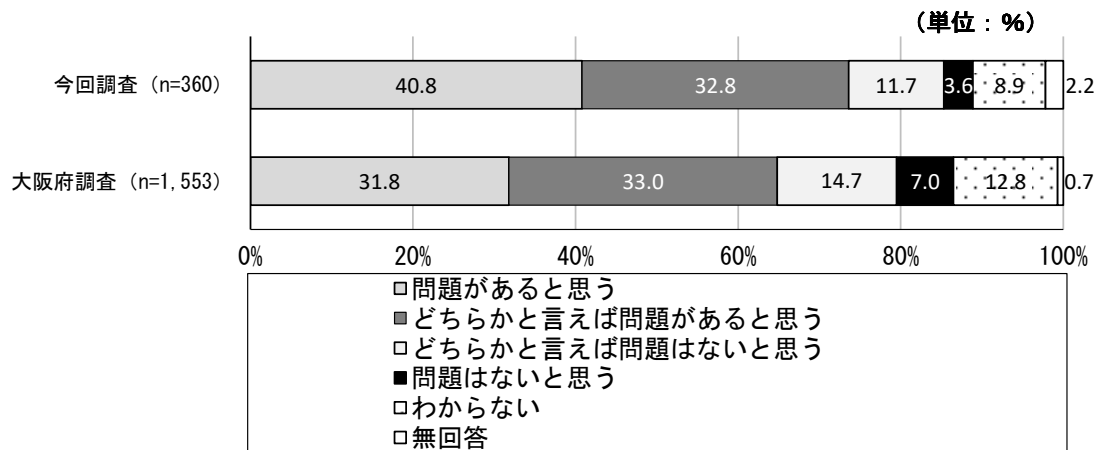
(14) 街頭などで、特定の国の出身の人々について、「日本から出て行け」と言う



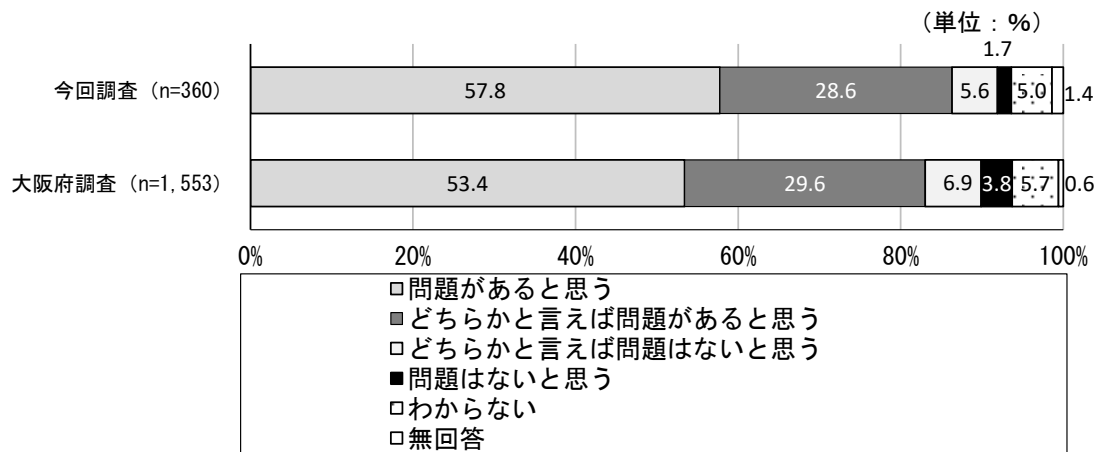
(15) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会の役員が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる



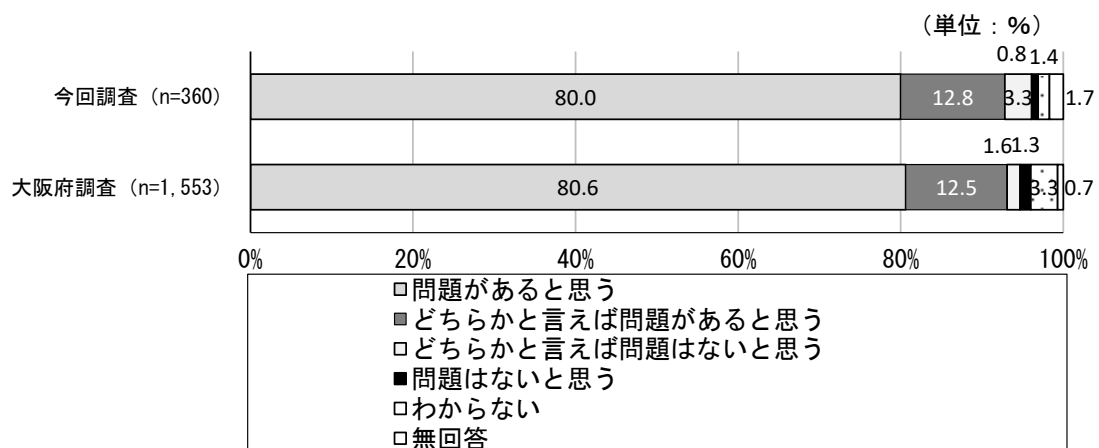
(16) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う



(17) 恋人や配偶者・パートナーの携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る



(18) 新型コロナウイルス感染症の回復者並びに医療従事者等やその家族であることを理由に、交通機関の利用や保育所の受入れなどを断る



2-2. 住まいのことや就職、結婚相手・パートナーについての意識や考え方について

(3) 家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件

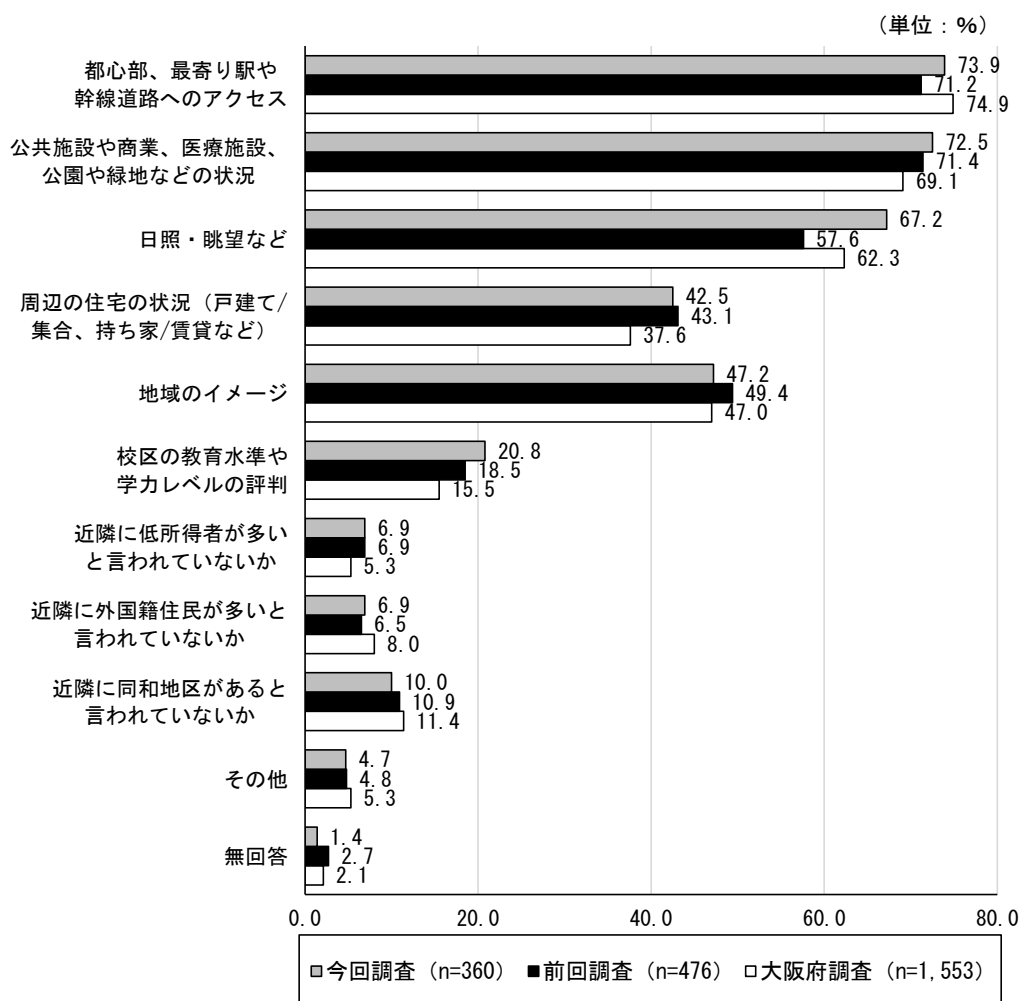
問3 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件は何ですか？(○はいくつでも)

家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件についてみると、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が73.9%と最も高く、次いで「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」が72.5%、「日照・眺望など」が67.2%の順となっている。

前回調査と比較すると、「日照・眺望など」が今回調査67.2%、前回調査57.6%と今回調査の方が9.6ポイント高くなっている。

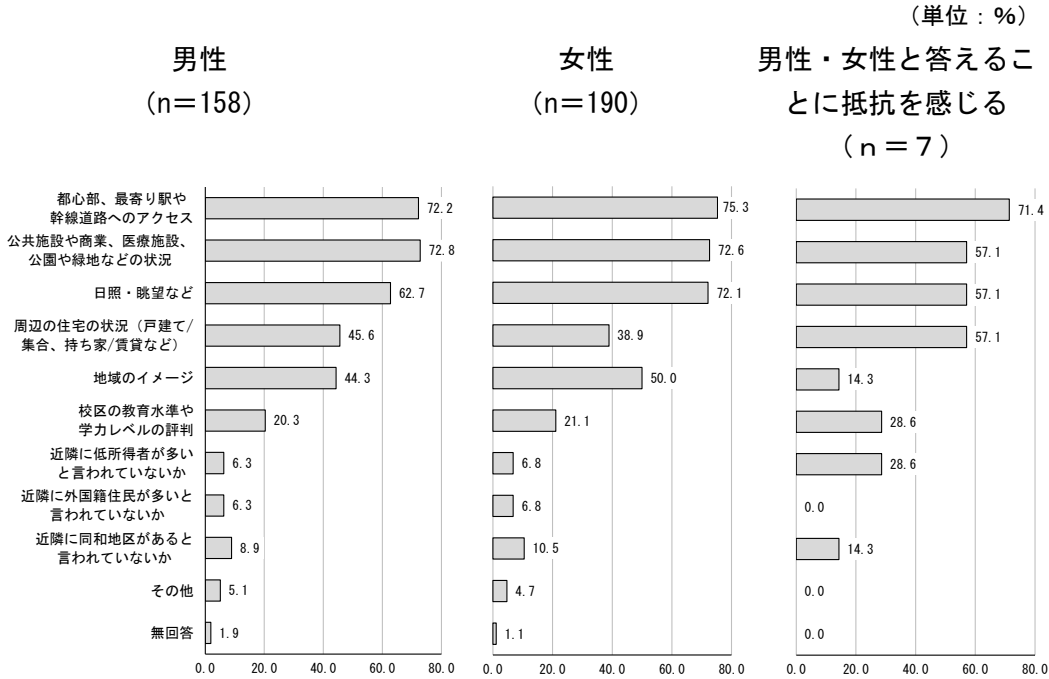
大阪府調査と比較すると、1位、2位、3位の順は大阪府調査と同じとなっている。

■家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件



性別にみると、『男性』で「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」が72.8%と最も高く、『女性』で「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が75.3%とそれぞれ最も高くなっている。

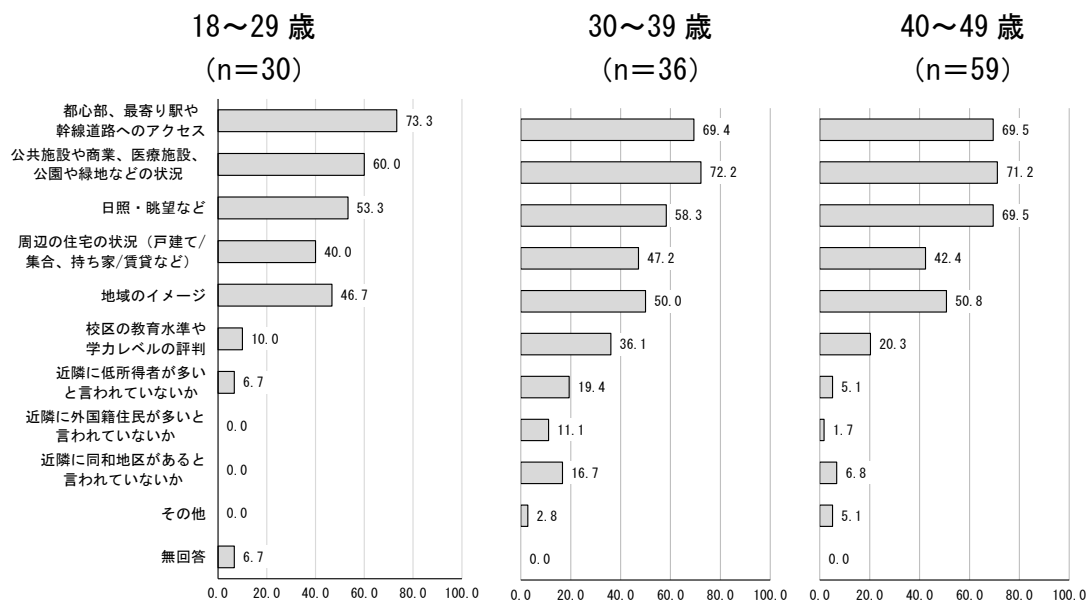
■性別 家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件



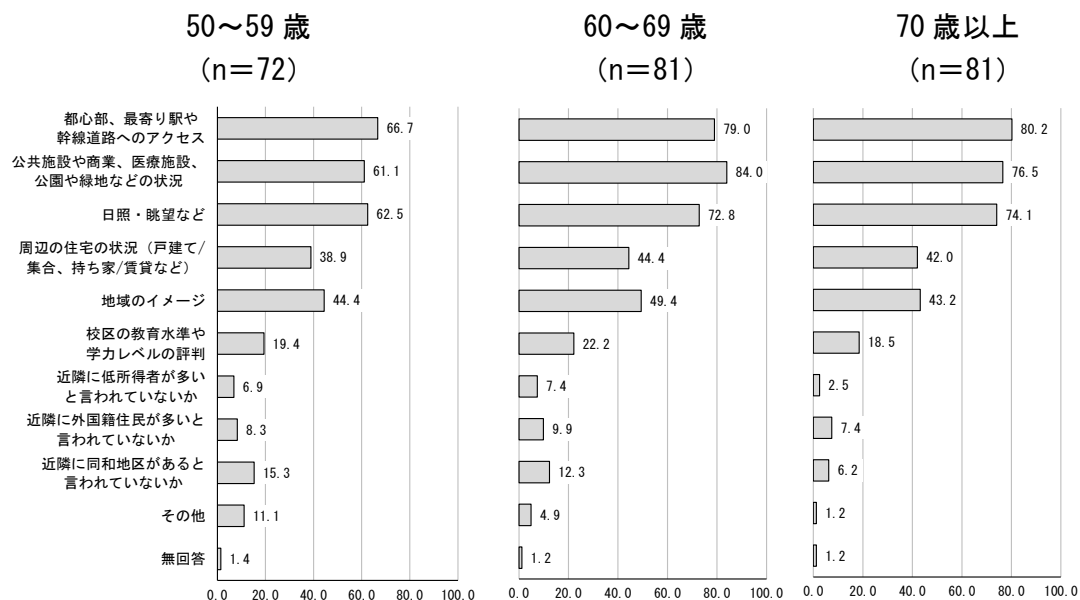
年齢別にみると、『60～69 歳』の「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」が 84.0%、『70 歳以上』の「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が 80.2%とそれぞれ最も高く、いずれも 8 割を超えている。

■年齢別 家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件

(単位：%)



(単位：%)



(4) 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと

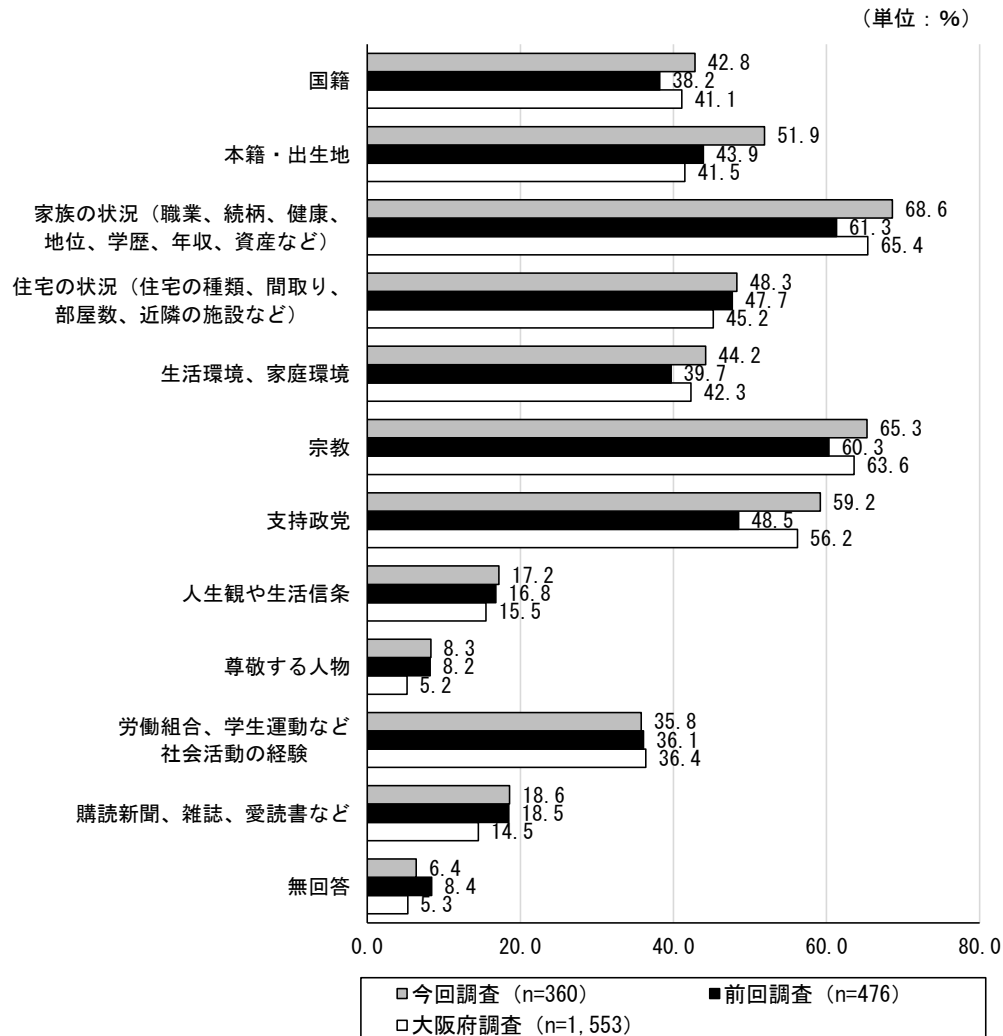
問4 採用面接における質問で、あなたが人権上問題があると思うことはどれですか？（○はいくつでも）

採用面接の質問で人権上問題があると思うことについてみると、「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」が68.6%と最も高く、次いで「宗教」が65.3%、「支持政党」が59.2%の順となっている。

前回調査と比較すると、「支持政党」が今回調査 59.2%、前回調査 48.5%と今回調査の方が10.7ポイント高くなっている。

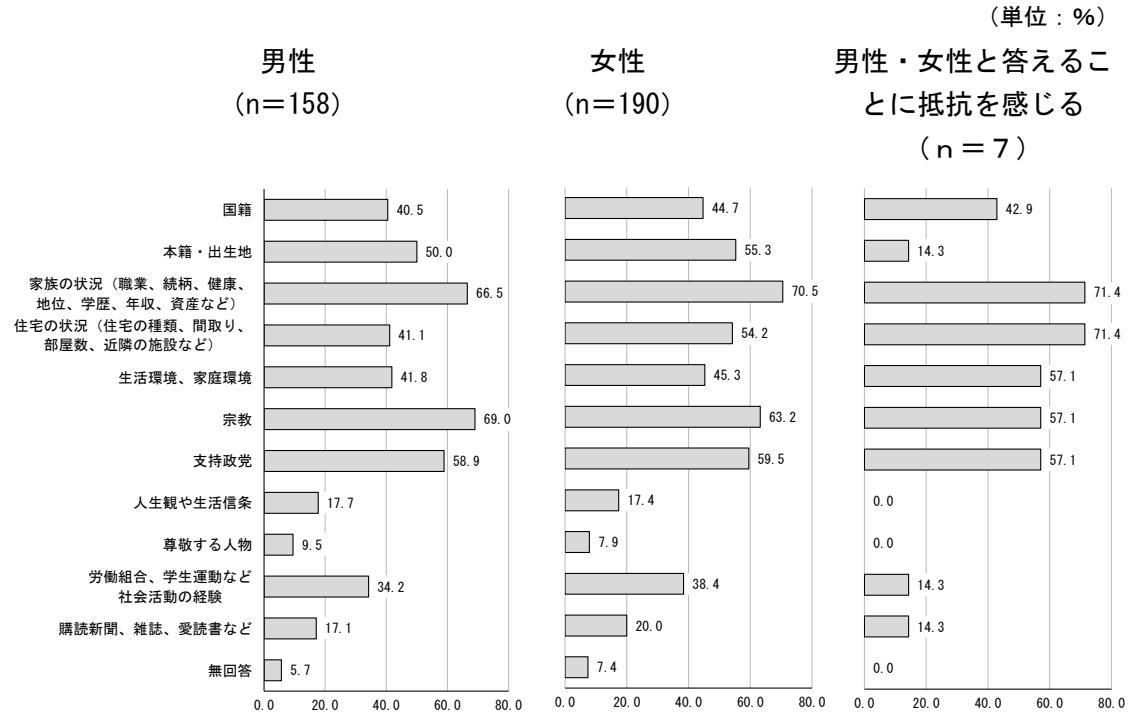
大阪府調査と比較すると、「労働組合、学生運動など社会活動の経験」は大阪府調査の方が高くなっている一方、それ以外は今回調査の方が高くなっている。

■採用面接の質問で人権上問題があると思うこと



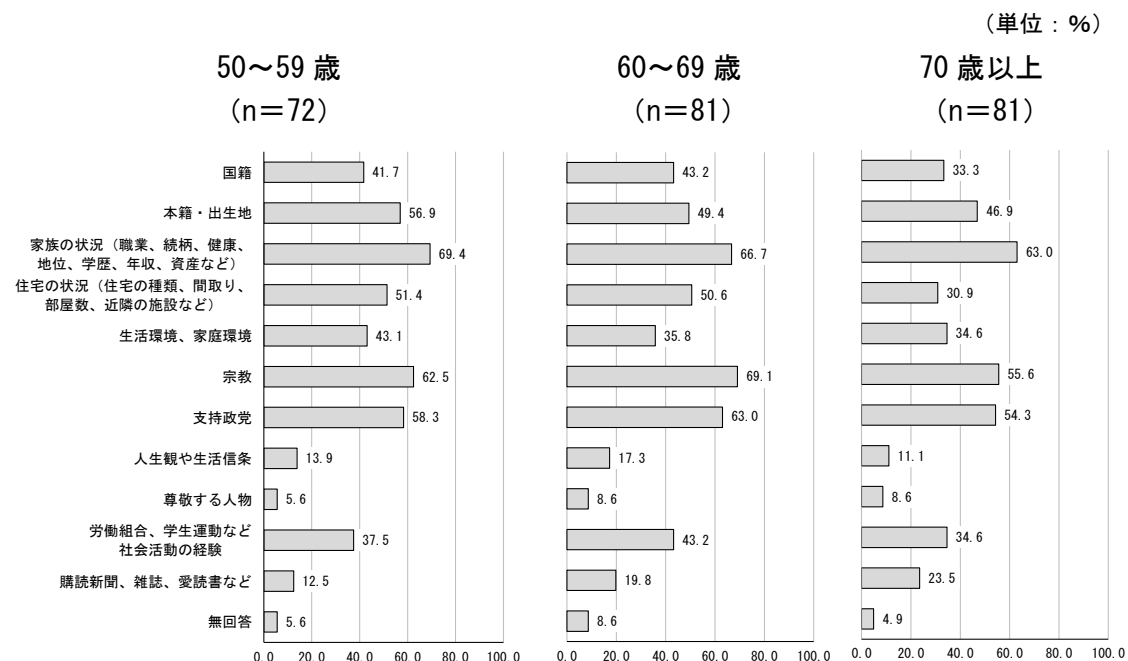
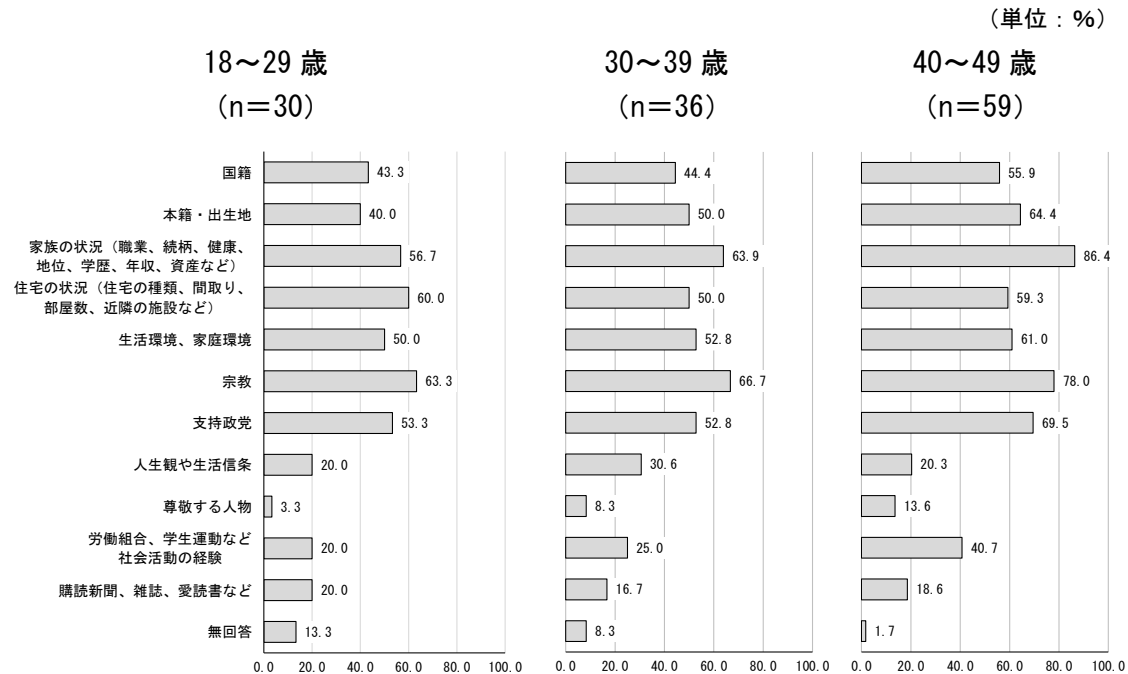
性別にみると、『男性』で「宗教」が69.0%と最も高く、『女性』で「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」が70.5%とそれぞれ最も高くなっている。

■性別 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと



年齢別にみると、『40～49 歳』の「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」が 86.4%と最も高く、8 割を超えている。

■年齢別 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと



（５）結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと

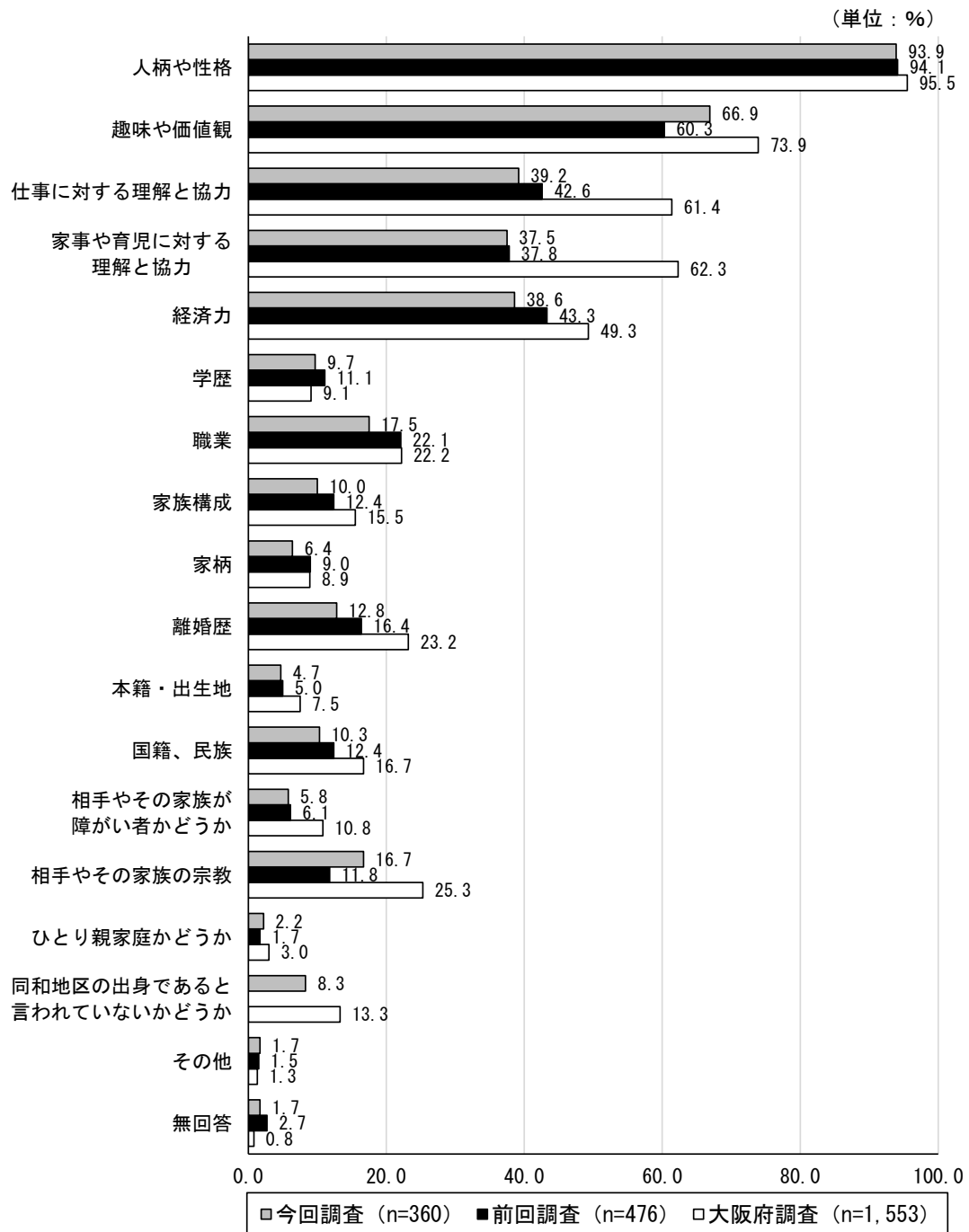
問５ あなたが結婚相手など、パートナーについて重視する（した）ことはどんなことですか？（〇はいくつでも）

結婚相手などパートナーについて重視する（した）ことについてみると、「人柄や性格」が93.9%と最も高く9割を超えており、次いで「趣味や価値観」が66.9%、「仕事に対する理解や協力」が39.2%の順となっている。

前回調査と比較をすると、「趣味や価値観」が今回調査66.9%、前回調査60.3%と今回調査の方が6.6ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「学歴」は今回調査の方が高くなっている一方、それ以外は大阪府調査の方が高くなっている。

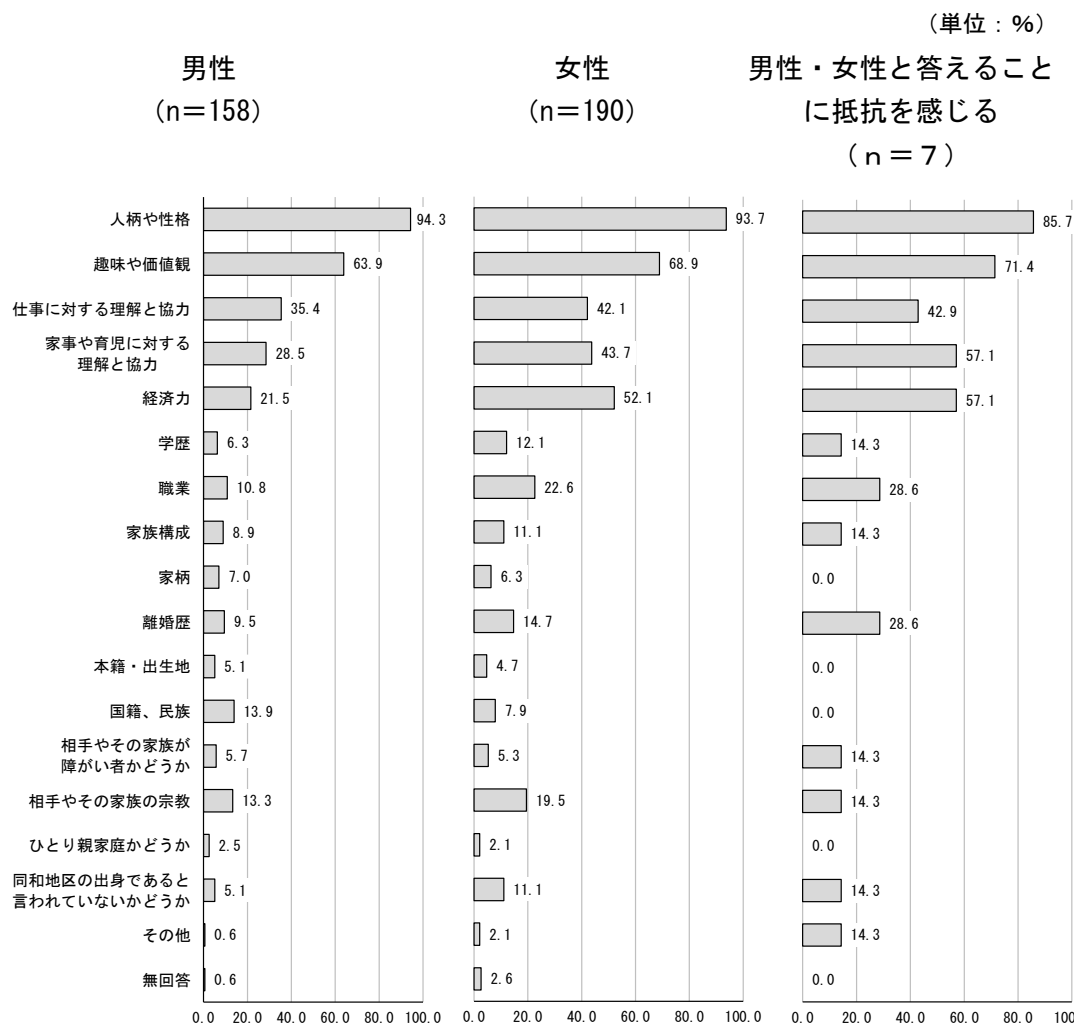
■結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと



※「同和地区の出身であると言われていないかどうか」は『前回調査』で設定なしのため、記載していない。

性別にみると、『男性』で「人柄や性格」が94.3%、『女性』で同93.7%とそれぞれ最も高く、いずれも9割を超えている。

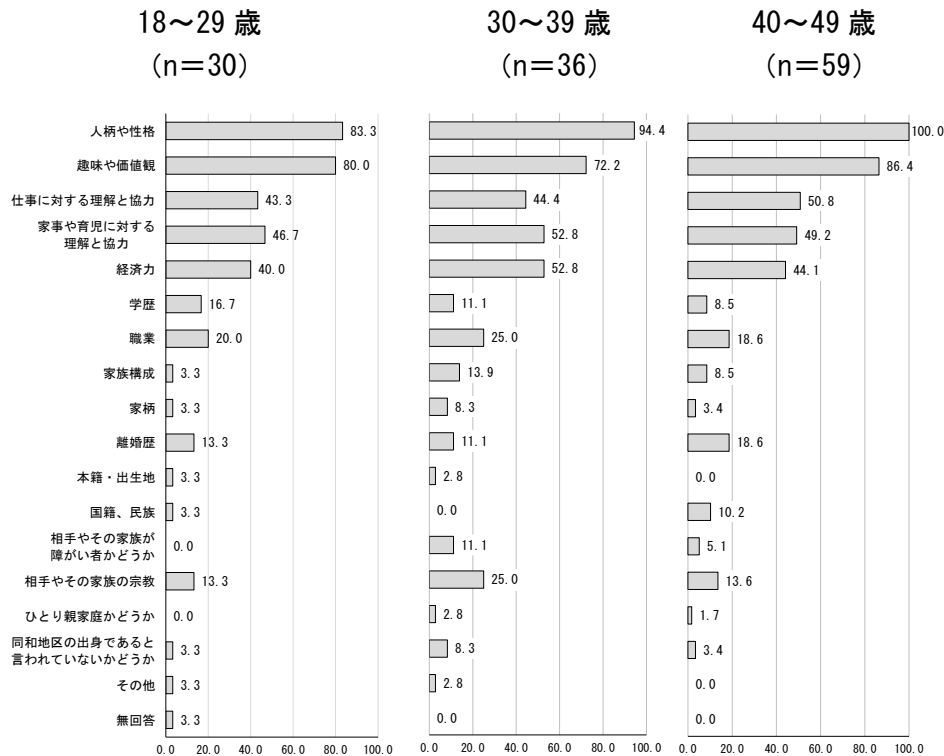
■性別 結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと



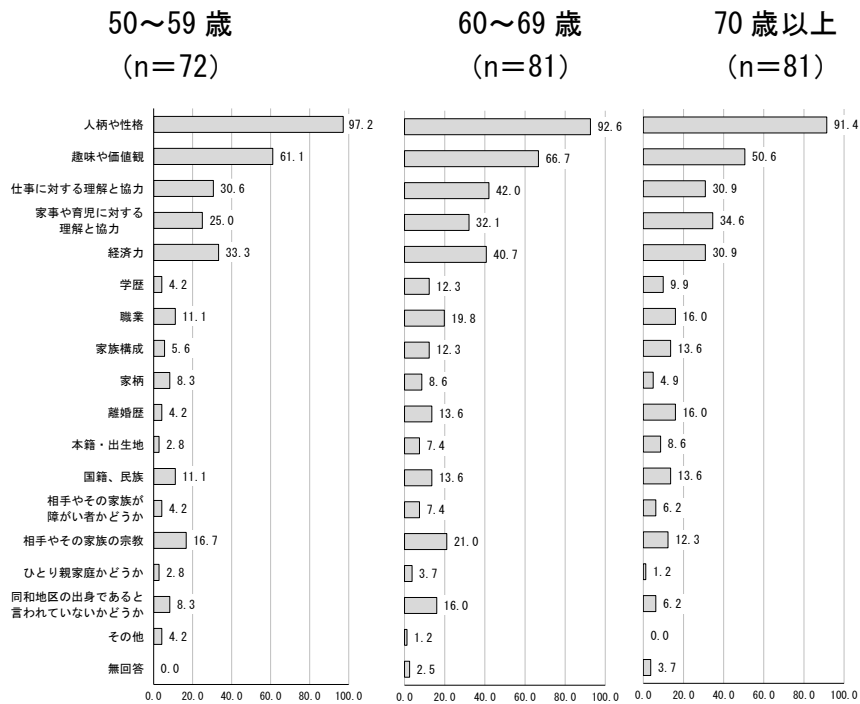
年齢別にみると、すべての年代で「人柄や性格」が最も高く、いずれも8割を超えている。

■年齢別 結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと

（単位：％）



（単位：％）



（６）結婚の合意についての考え

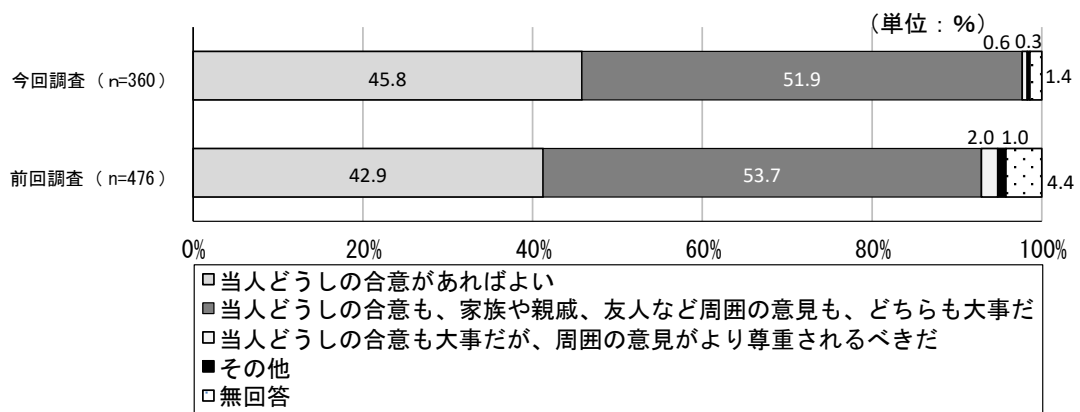
問６ 結婚について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか？
（いずれか１つに○）

結婚の合意についての考えについてみると、「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が 51.9%と最も高く、次いで「当人どうしの合意があればよい」が 45.8%、「当人どうしの合意も大事だが、周囲の意見がより尊重されるべきだ」が 0.6%の順となっている。

前回調査と比較をすると、今回調査の方が「当人どうしの合意があればよい」が 2.9 ポイント高くなっている。

また、「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が今回調査 51.9%、前回調査 53.7%と、どちらも 5 割を超えているが、今回調査の方がやや低くなっている。

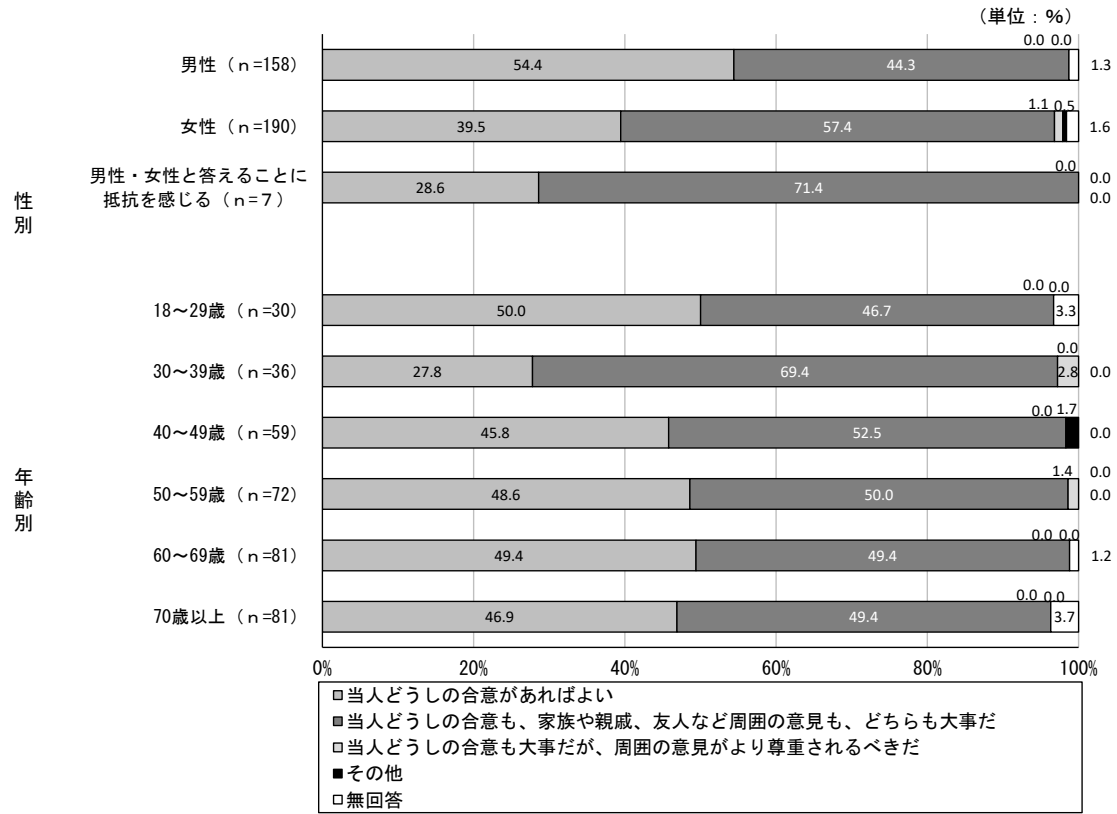
■結婚の合意についての考え



性別にみると、『男性』で「当人どうしの合意があればよい」が 54.4%、『女性』で「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が 57.4%とそれぞれ最も高くなっている。

年齢別にみると、『30～39 歳』の「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が 69.4%で最も高くなっている。

■性別 年齢別 結婚の合意についての考え



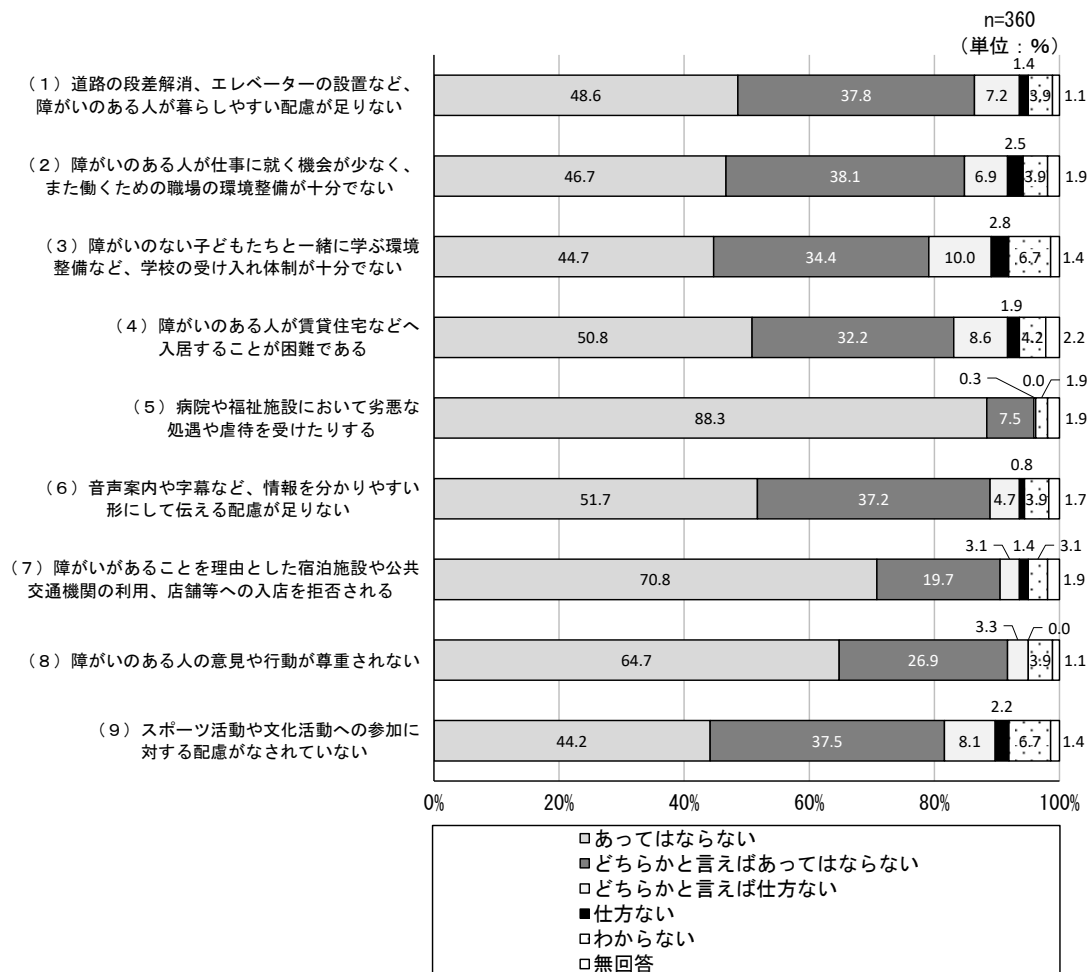
2-3. ここ5年間の人権をめぐる法律等の施行及びこれらに関する人権問題について

(7) 障がいのある人に関する人権問題

問7 障がいのある人に関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？
(いずれか1つに○)

障がいのある人に関する人権問題についてみると、“あつてはならない”（「あつてはならない」＋「どちらかと言えばあつてはならない」）は『病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けたりする』が95.8%と最も高く、次いで『障がいのある人の意見や行動が尊重されない』が91.6%、『障がいがあることを理由とした宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を拒否される』が90.5%の順となっている。

■障がいのある人に関する人権問題

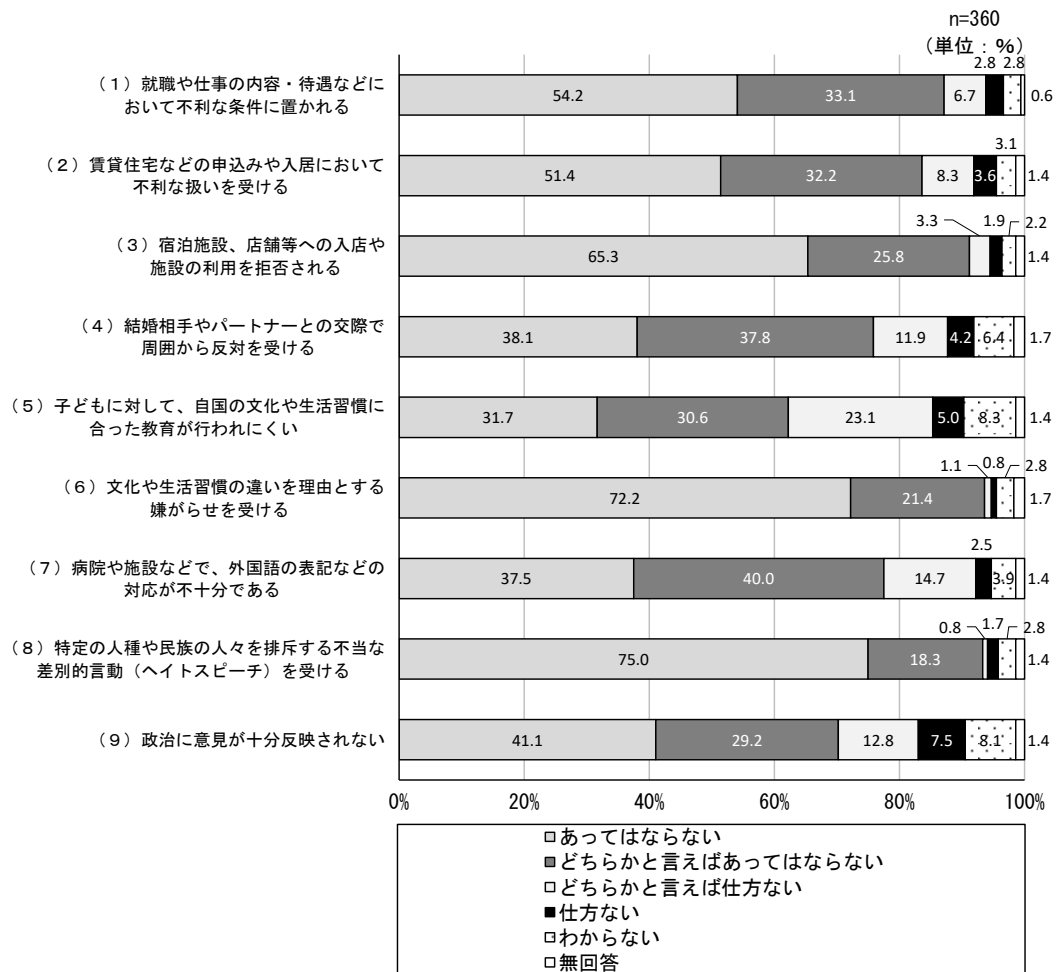


（８）日本に居住している外国人に関する人権問題

問 8 日本に居住している外国人に関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？（いずれか１つに○）

日本に居住している外国人に関する人権問題についてみると、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は『文化や生活習慣の違いを理由とする嫌がらせを受ける』が 93.6%と最も高く、次いで『特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）を受ける』が 93.3%、『宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される』が 91.1%の順となっている。

■日本に居住している外国人に関する人権問題

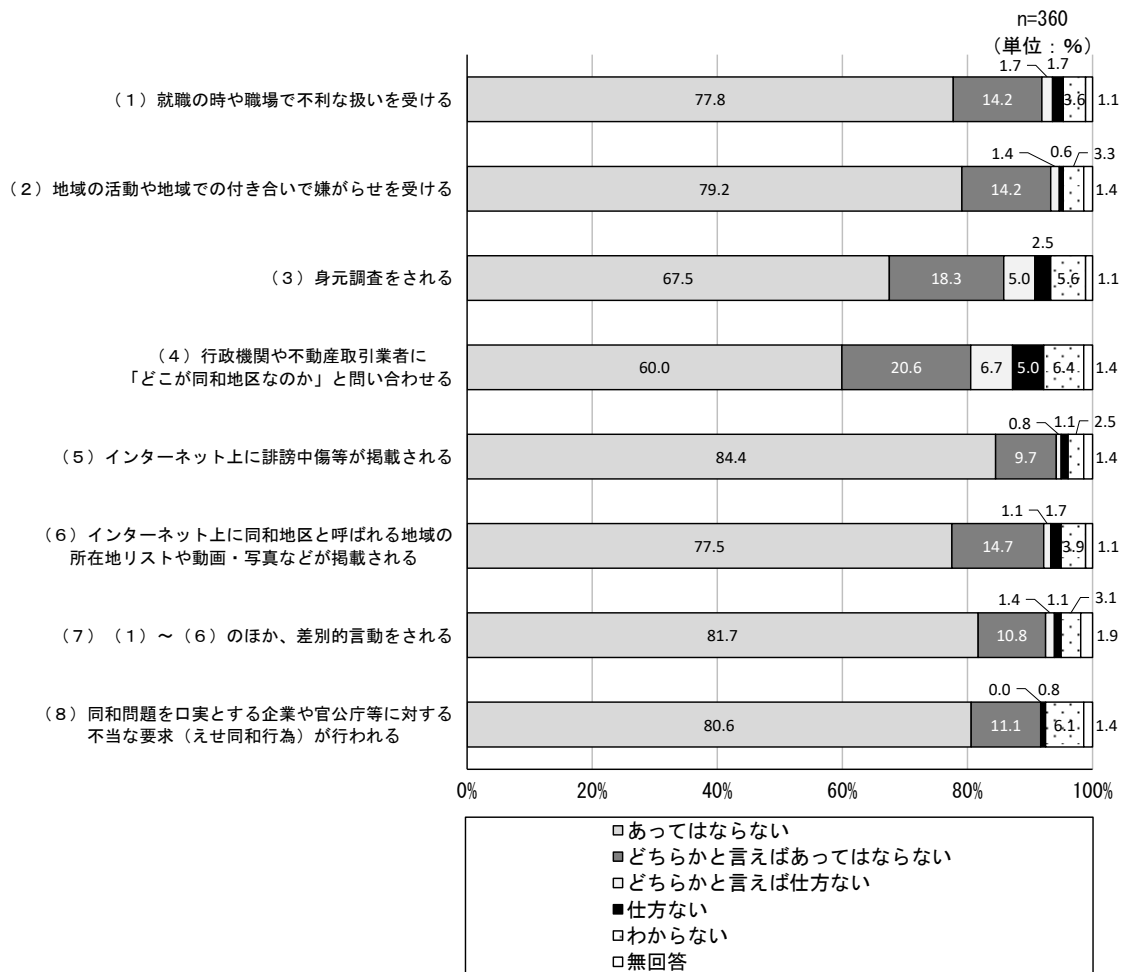


（９）部落差別（同和問題）に関する人権問題

問９ 部落差別（同和問題）に関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？（いずれか１つに○）

部落差別（同和問題）に関する人権問題についてみると、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は『インターネット上に誹謗中傷等が掲載される』が94.1%と最も高く、次いで『地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受ける』が93.4%、『（１）～（６）のほか、差別的言動をされる』が92.5%の順となっている。

■部落差別（同和問題）に関する人権問題

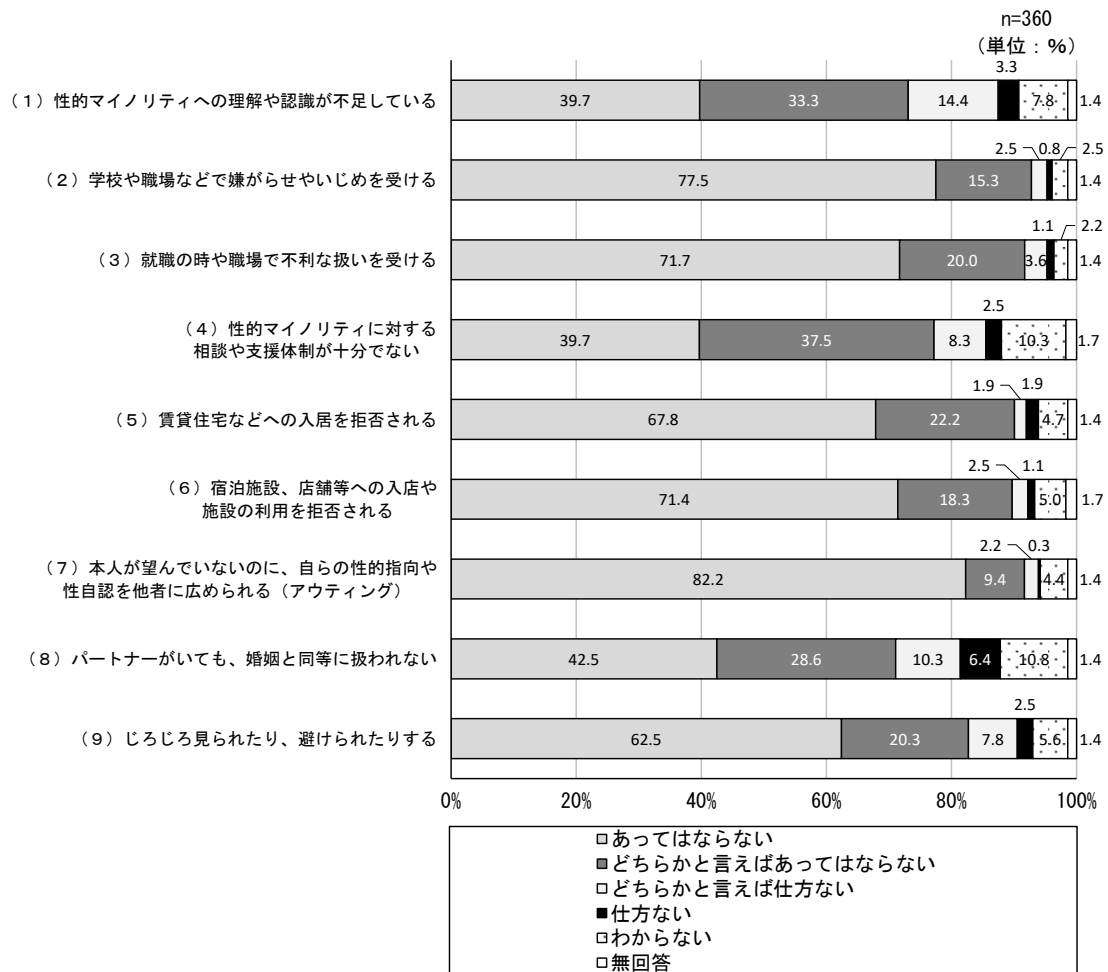


(10) 性的マイノリティに関する人権問題

問 10 性的マイノリティに関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？（いずれか1つに○）

性的マイノリティに関する人権問題についてみると、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は『学校や職場などで嫌がらせやいじめを受ける』が92.8%と最も高く、次いで『就職の時や職場で不利な扱いを受ける』が91.7%、『本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められる（アウトティング）』が91.6%の順となっている。

■性的マイノリティに関する人権問題

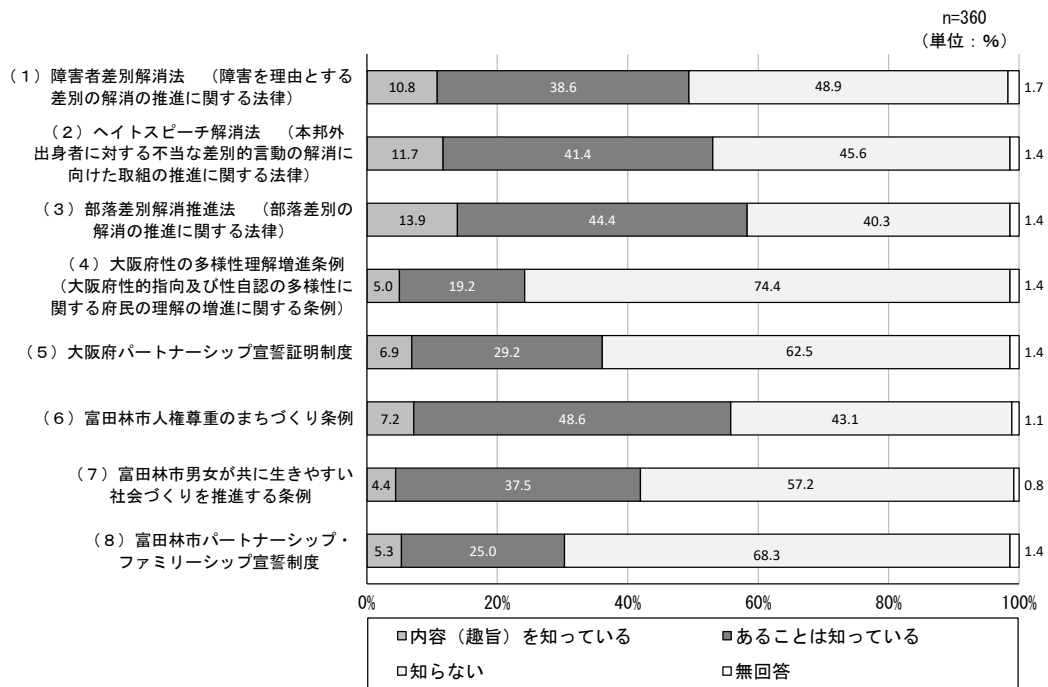


(11) 法律や条例、制度の認知

問 11 あなたは、次の法律や条例、制度について知っていますか？（いずれか１つに○）

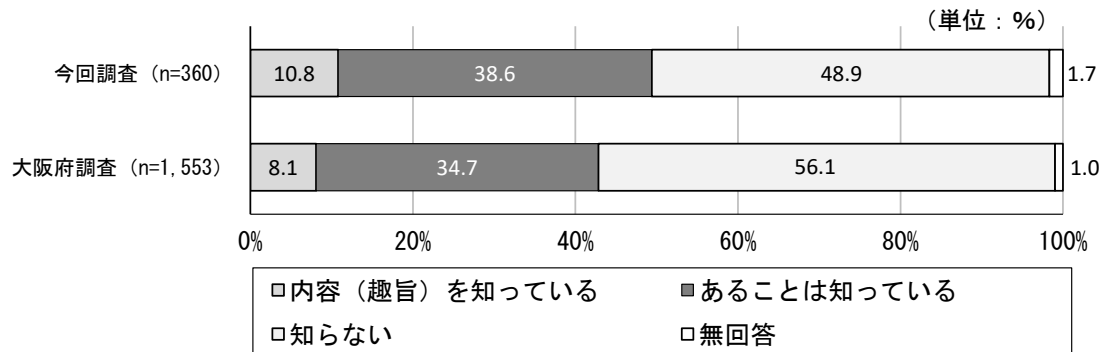
法律や条例、制度の認知についてみると、「知らない」は『大阪府性の多様性理解増進条例（大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例）』が74.4%と最も高く、次いで『富田林市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度』が68.3%、『大阪府パートナーシップ宣誓証明制度』が62.5%の順となっている。

■法律や条例、制度の認知

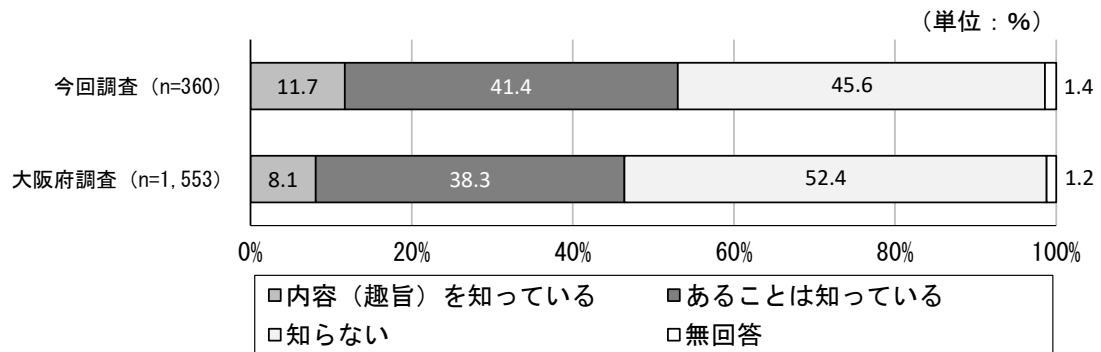


大阪府調査と比較すると、『大阪府性の多様性理解増進条例』は「あることは知っている」が、今回調査74.4%、大阪府調査68.0%と、今回調査の方が6.4ポイント高くなっている。

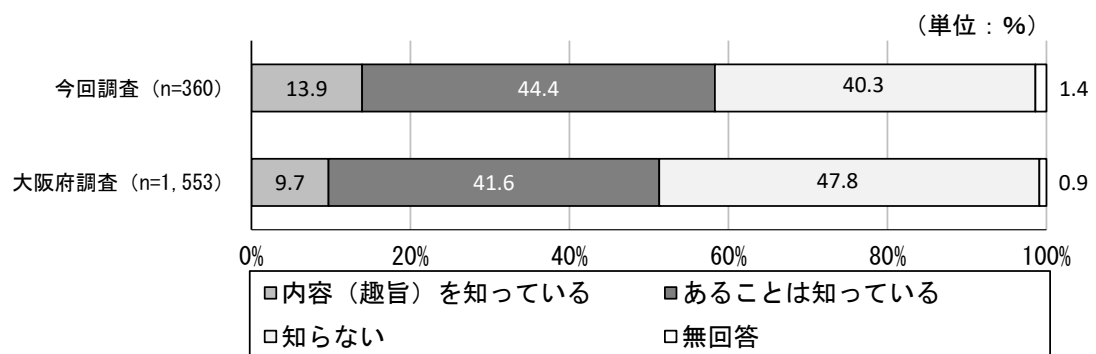
(1) 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）



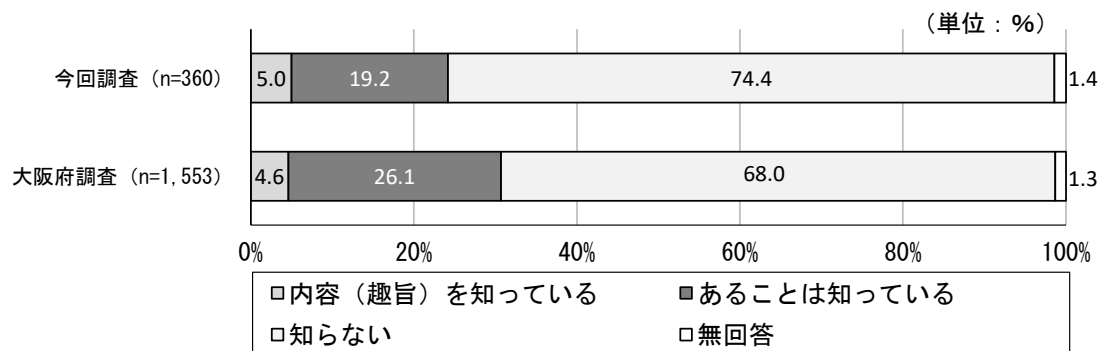
(2) ヘイトスピーチ解消法 (本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)



(3) 部落差別解消推進法 (部落差別の解消の推進に関する法律)



(4) 大阪府性の多様性理解増進条例 (大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例)



※大阪府調査と比較のできる(1)～(4)のみ比較を行った。

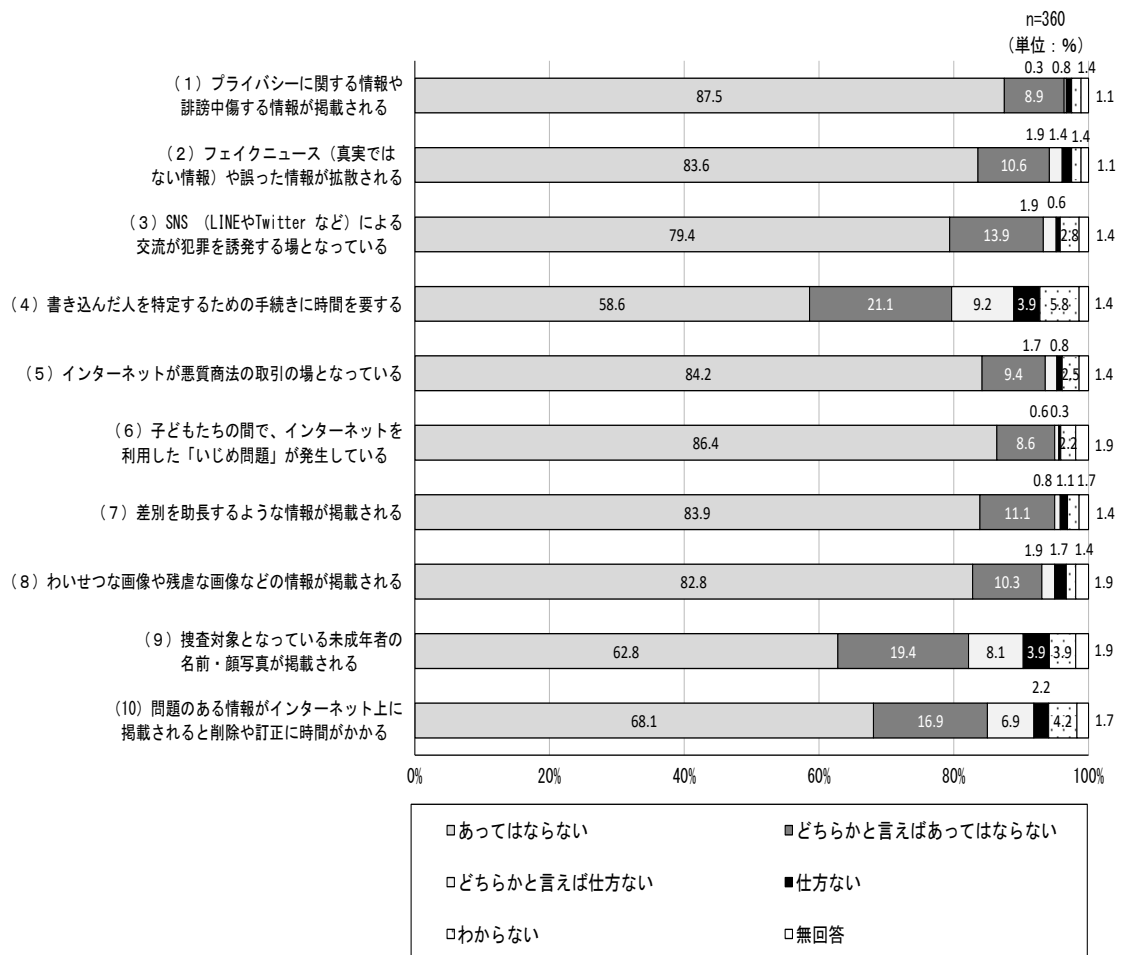
2-4. インターネットにおける人権侵害について

(12) インターネットに関する人権問題

問 12 インターネットに関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？（いずれか1つに○）

インターネットに関する人権問題についてみると、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は『プライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載される』が 96.4%と最も高く、次いで『差別を助長するような情報が掲載される』、『子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している』が 95.0%、『フェイクニュース（真実ではない情報）や誤った情報が拡散される』が 94.2%の順となっている。

■インターネットに関する感想



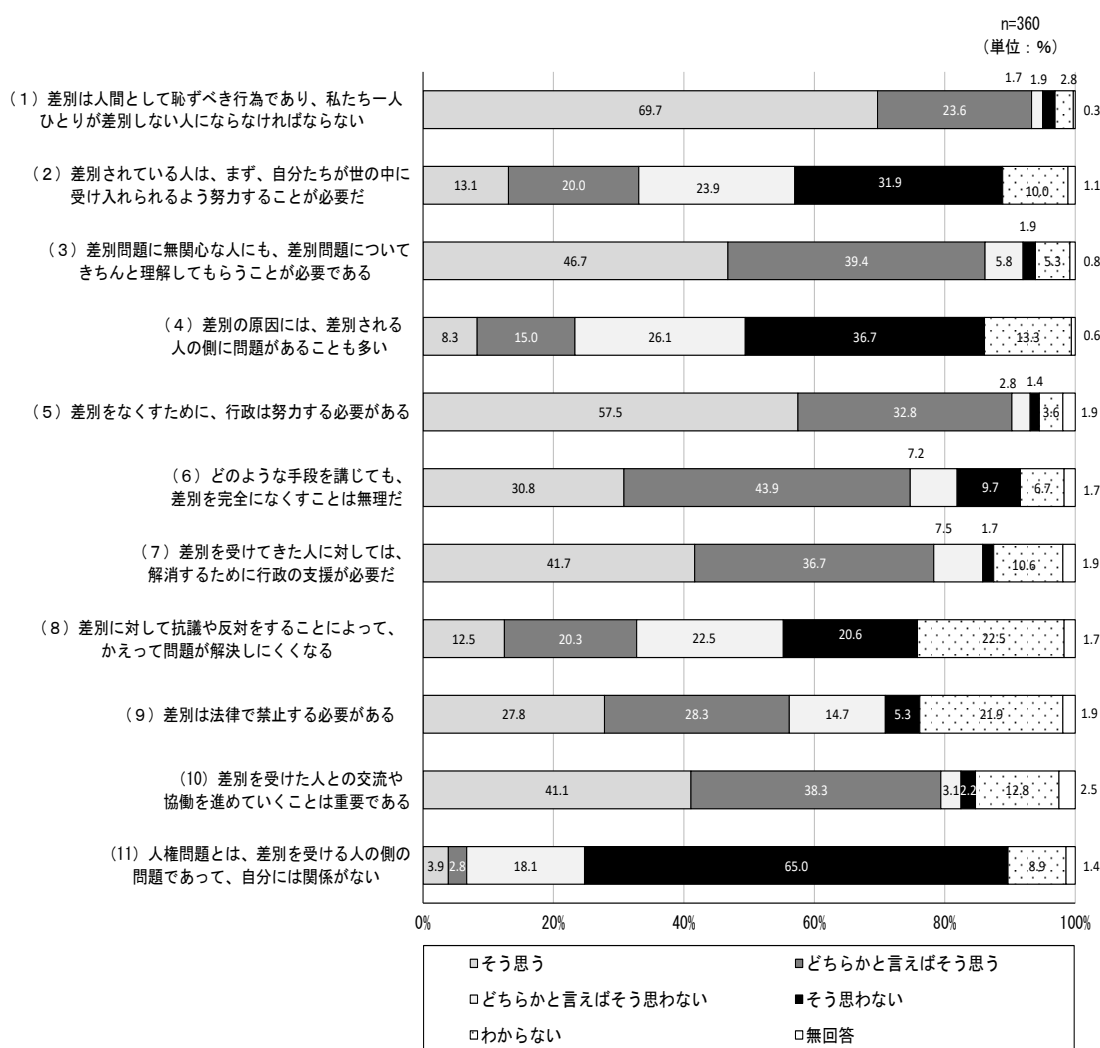
2-5. 人権や差別に関する考え方について

(13) 人権や差別についての考え

問 13 人権や差別について、あなたの考えに最も近いのはどれですか？
(いずれか1つに○)

人権や差別についての考えについてみると、“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）は『差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』が 93.3%と最も高く、次いで『差別をなくすために、行政は努力する必要がある』が 90.3%、『差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である』が 86.1%の順となっている。

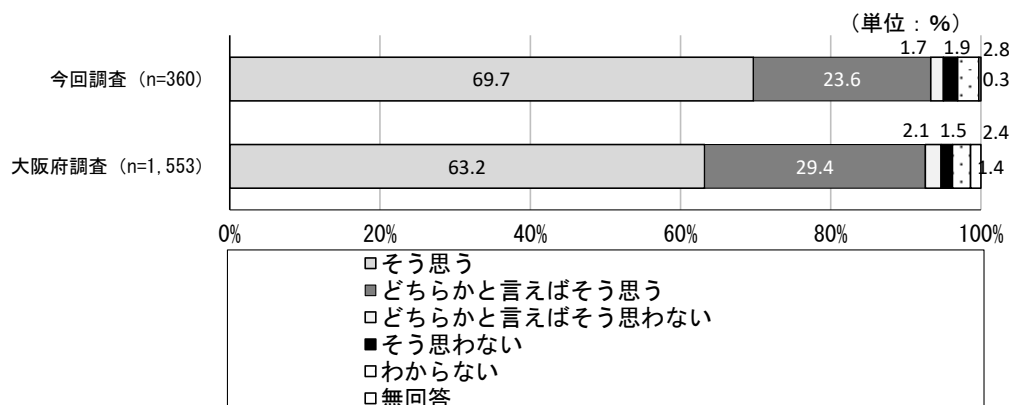
■人権や差別についての考え



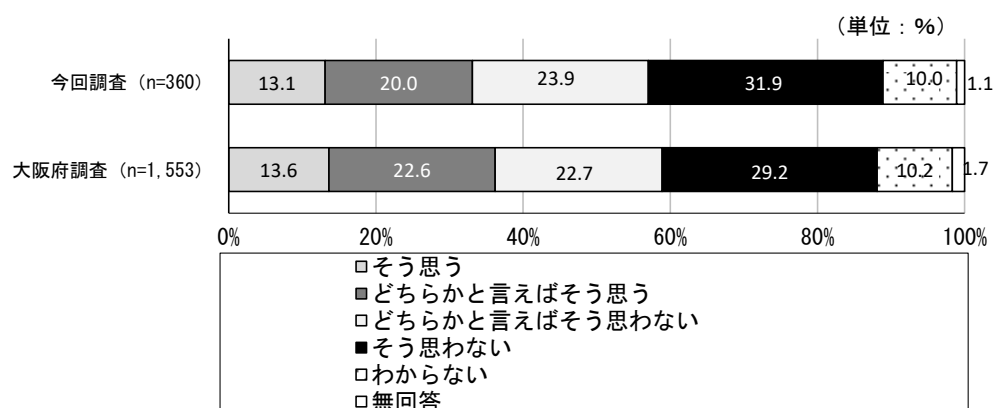
大阪府調査と比較すると、『差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ』の“そう思う”が今回調査 78.4%、大阪府調査 66.7%と今回調査が 11.7 ポイント高くなっている。

■人権や差別についての考え（大阪府調査との比較）

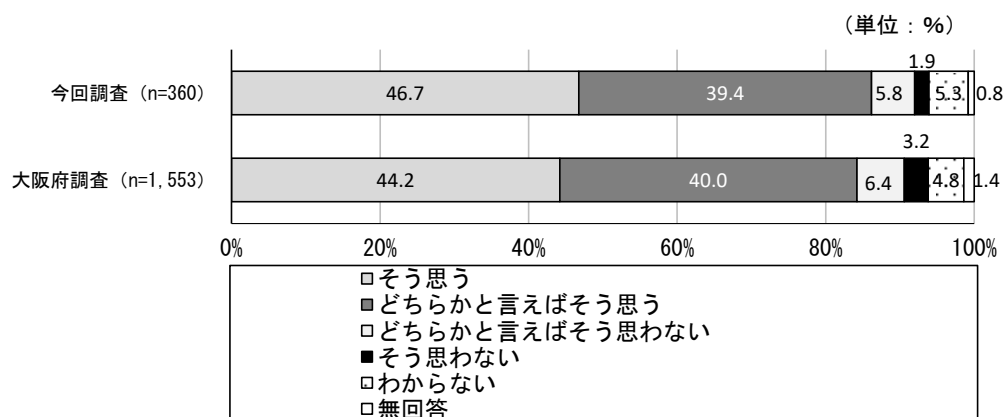
（１）差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない



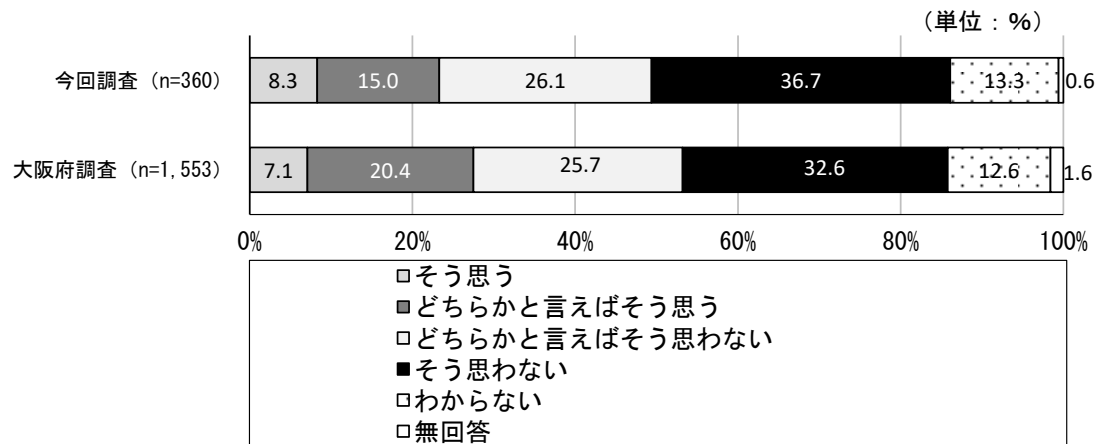
（２）差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ



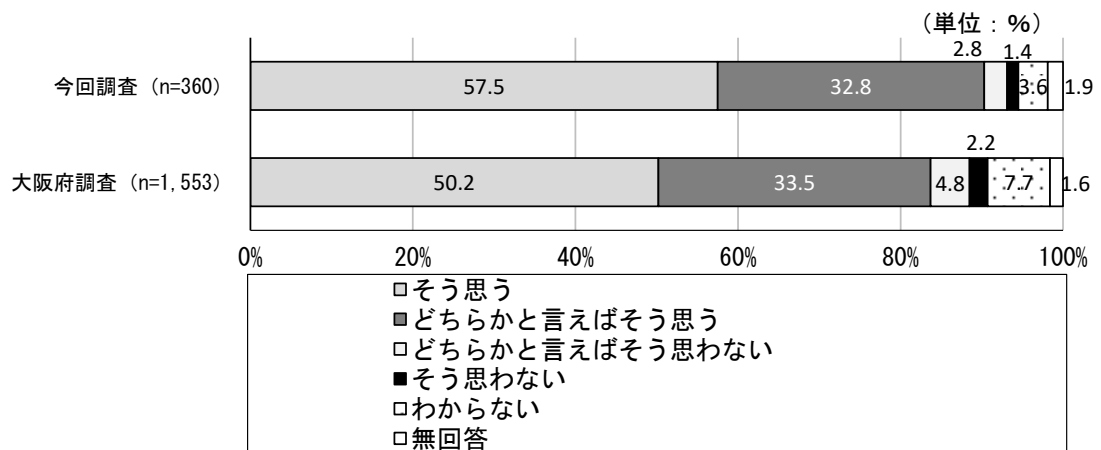
（３）差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である



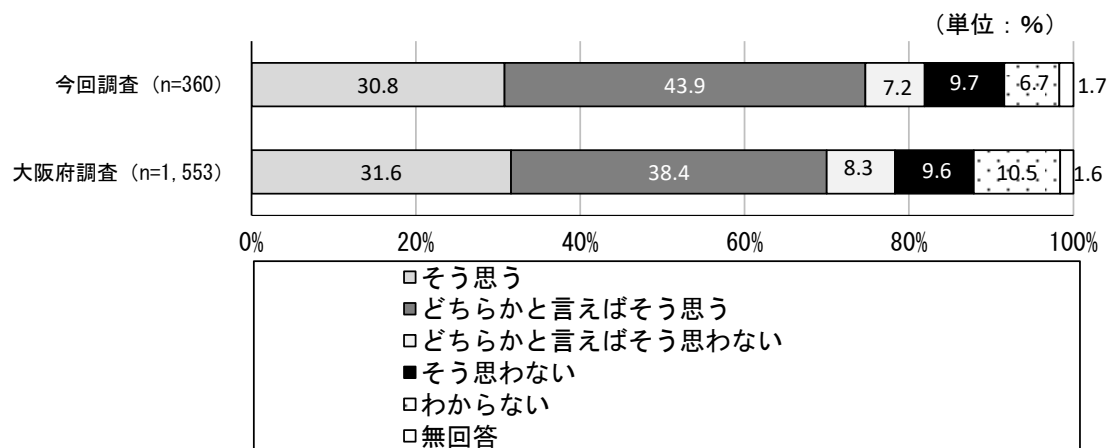
(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い



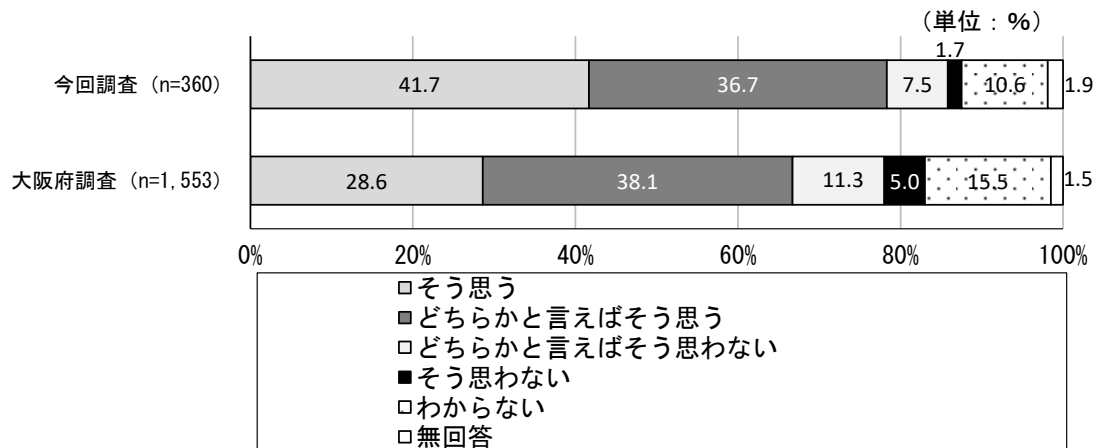
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある



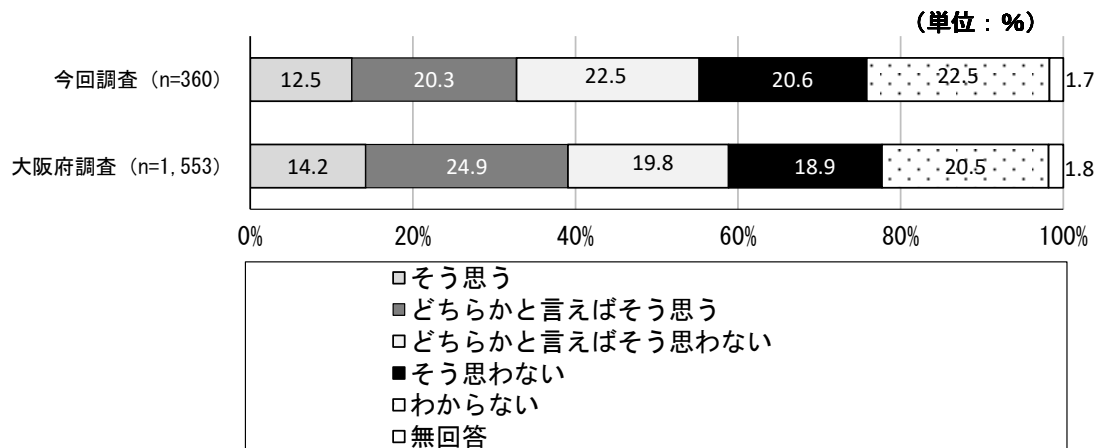
(6) どのような手段を講じてても、差別を完全になくすことは無理だ



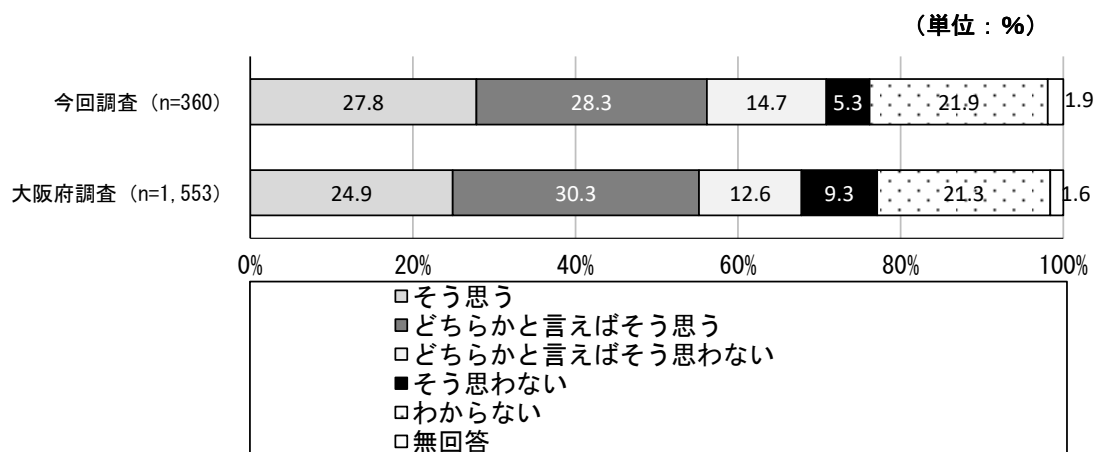
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ



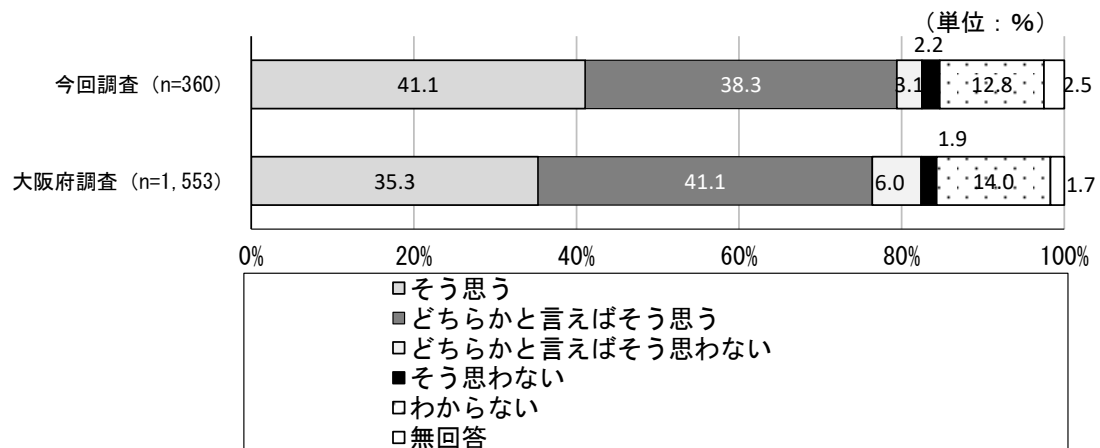
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる



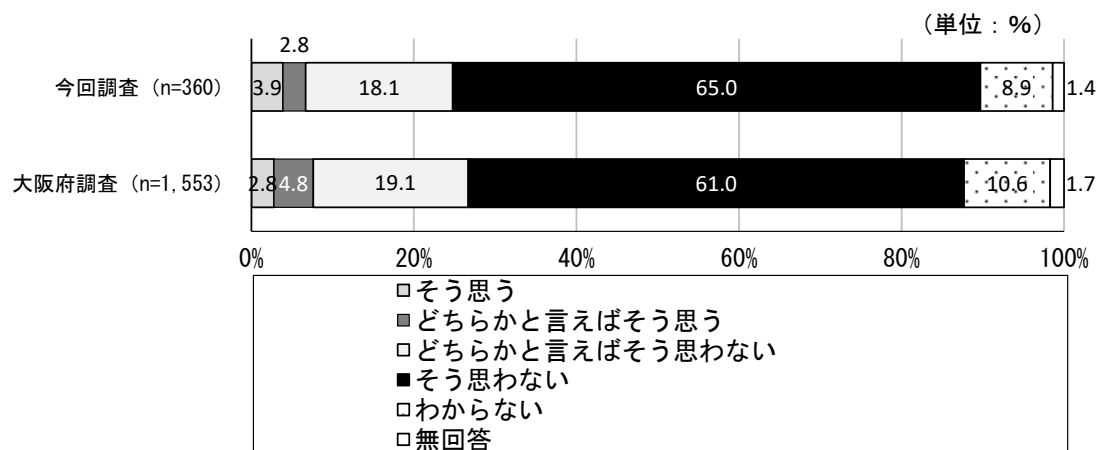
(9) 差別は法律で禁止する必要がある



(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である



(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない



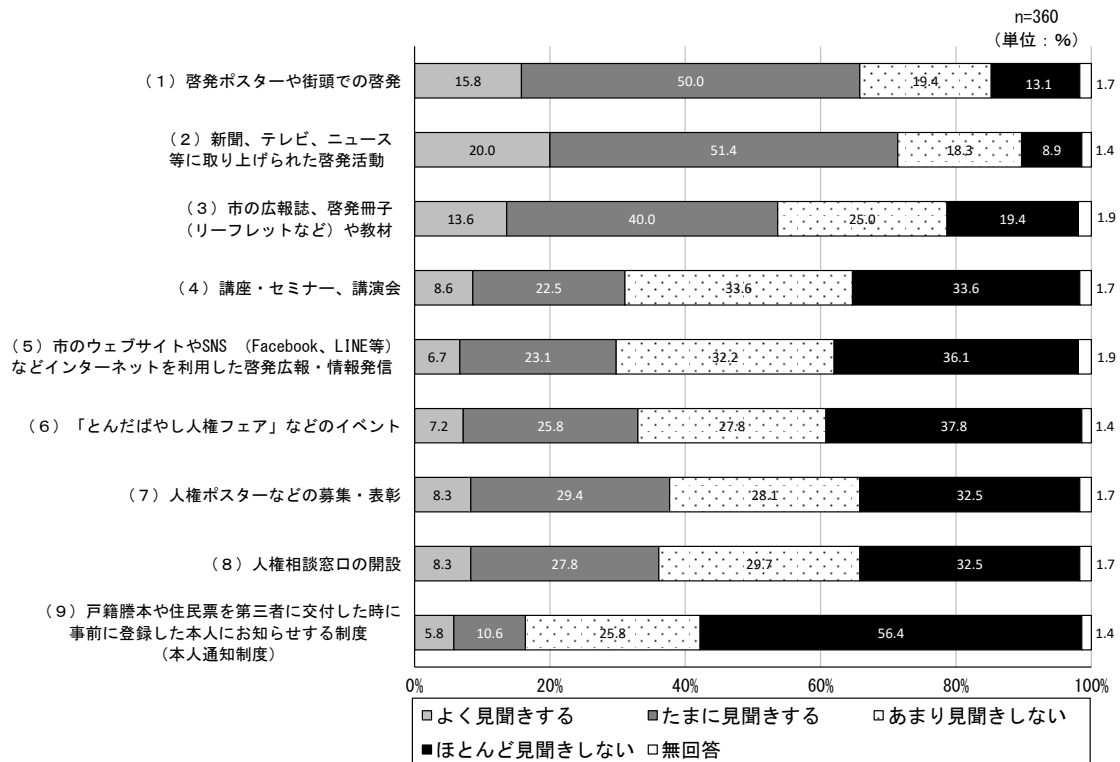
2-6. 人権問題の解決に向けた行政の取組みについて

(14) 人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無

問 14 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような行政の取組みについて、見聞きする（した）ことがありますか？（いずれか1つに○）

人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無についてみると、“見聞きする”（「よく見聞きする」＋「たまに見聞きする」）は『新聞、テレビ、ニュース等に取り上げられた啓発活動』が71.4%と最も高く、次いで『啓発ポスターや街頭での啓発』が65.8%、『市の広報誌、啓発冊子（リーフレットなど）や教材』が53.6%の順となっている。

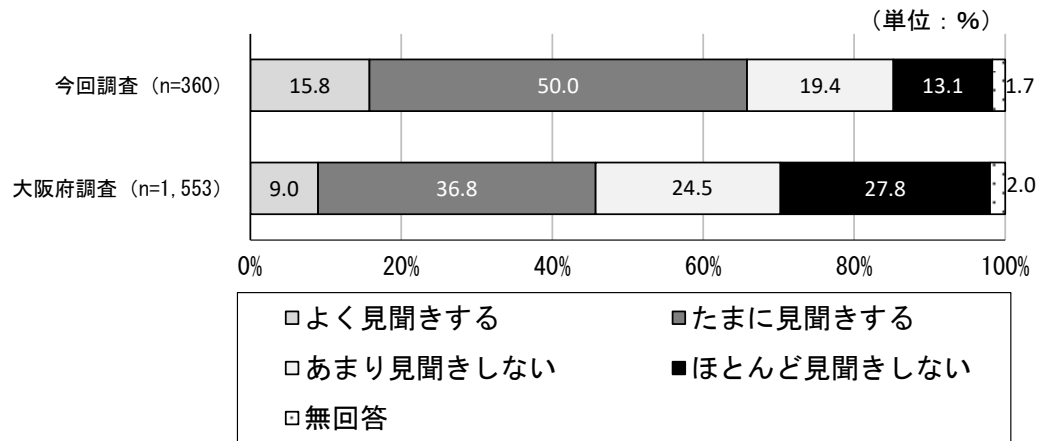
■人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無



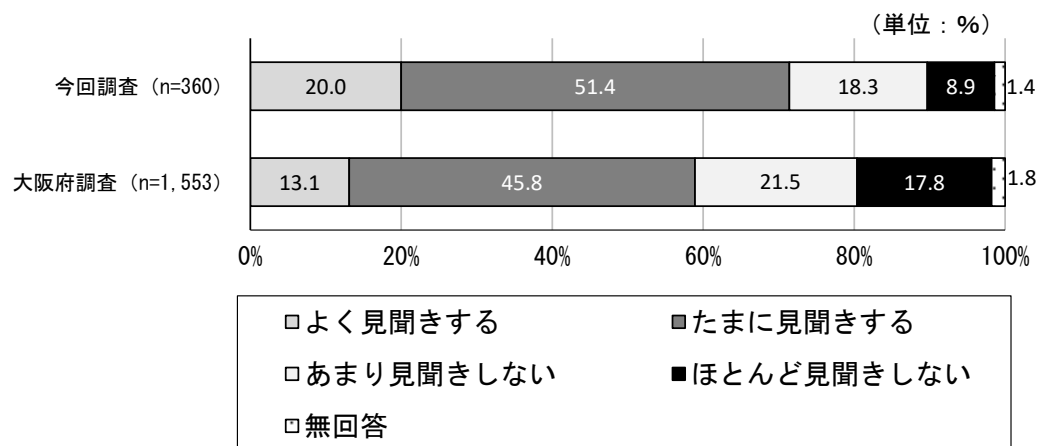
大阪府調査と比較すると、『啓発ポスターや街頭での啓発』の“見聞きする”が今回調査 65.8%、大阪府調査 45.8%と今回調査の方が 20.0 ポイント高くなっている。

■人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無（大阪府調査との比較）

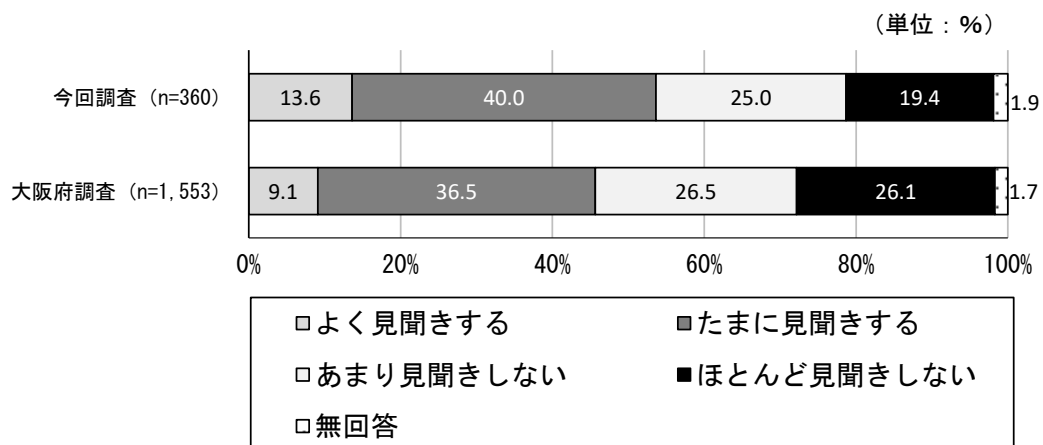
（１）啓発ポスターや街頭での啓発



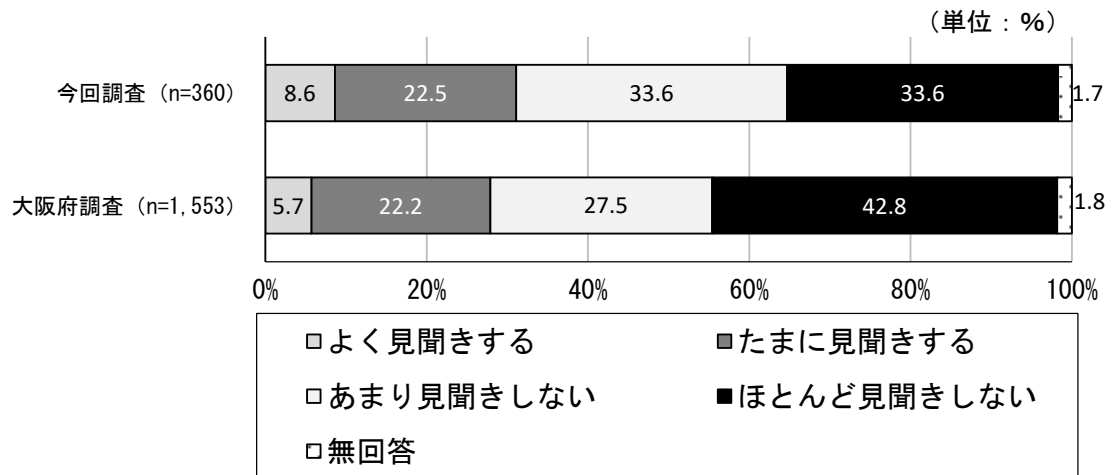
（２）新聞、テレビ、ニュース等に取り上げられた啓発活動



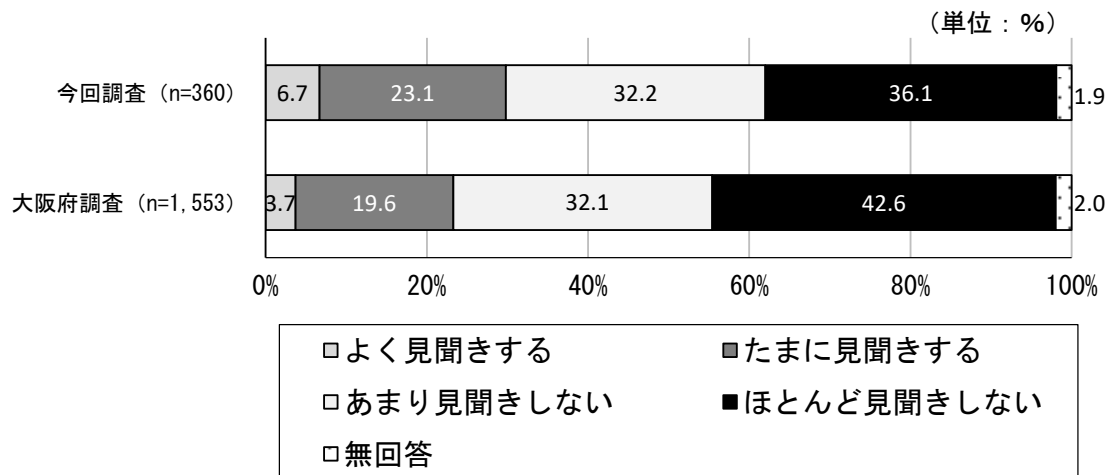
（３）市の広報誌、啓発冊子（リーフレットなど）や教材



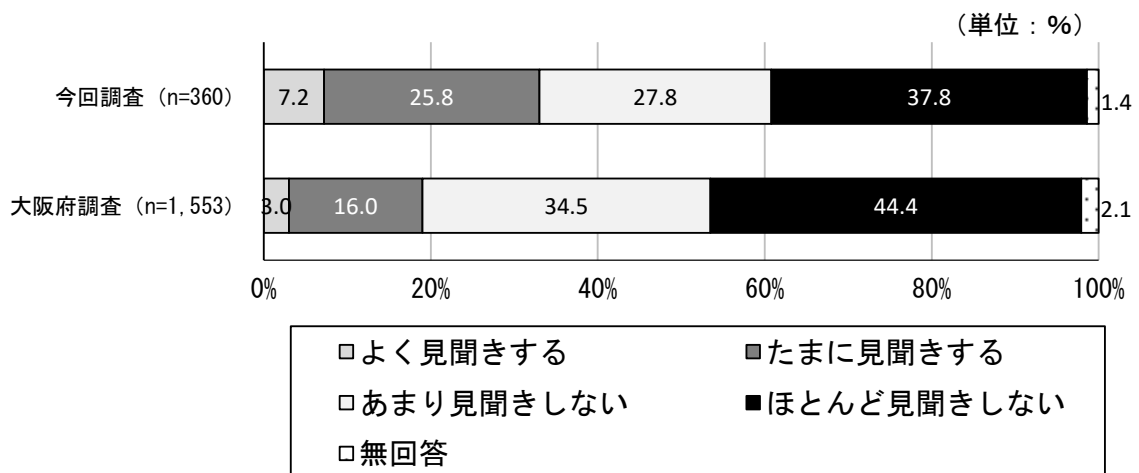
(4) 講座・セミナー、講演会



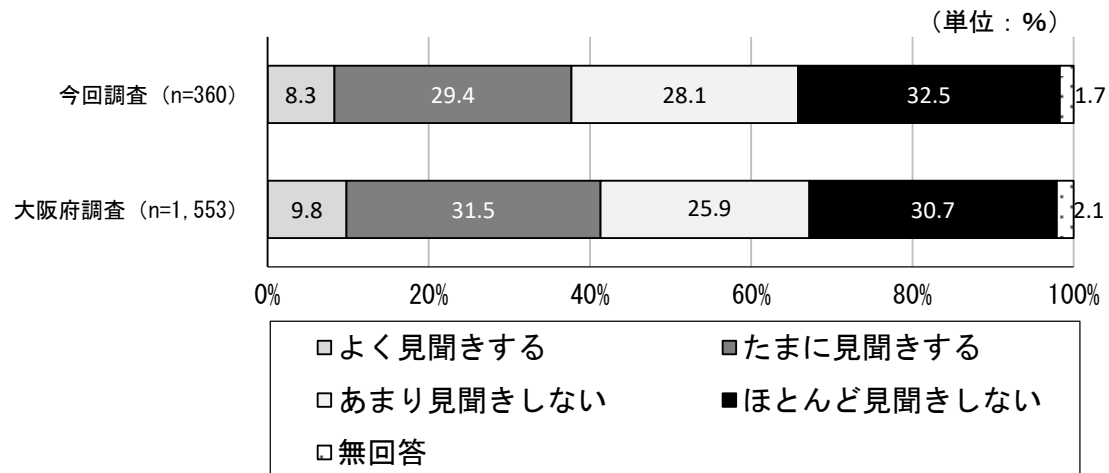
(5) 市のウェブサイトや SNS (Facebook、LINE 等) などインターネットを利用した啓発広報・情報発信



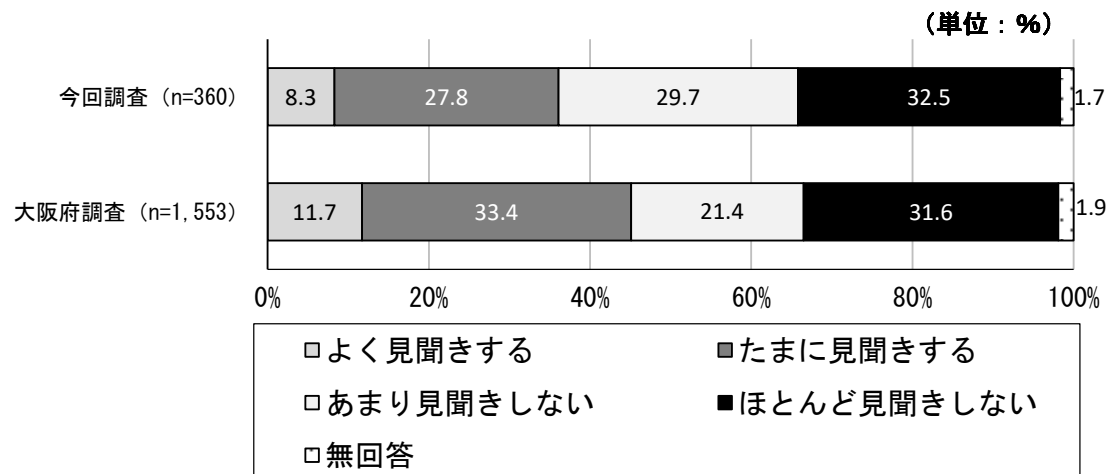
(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント



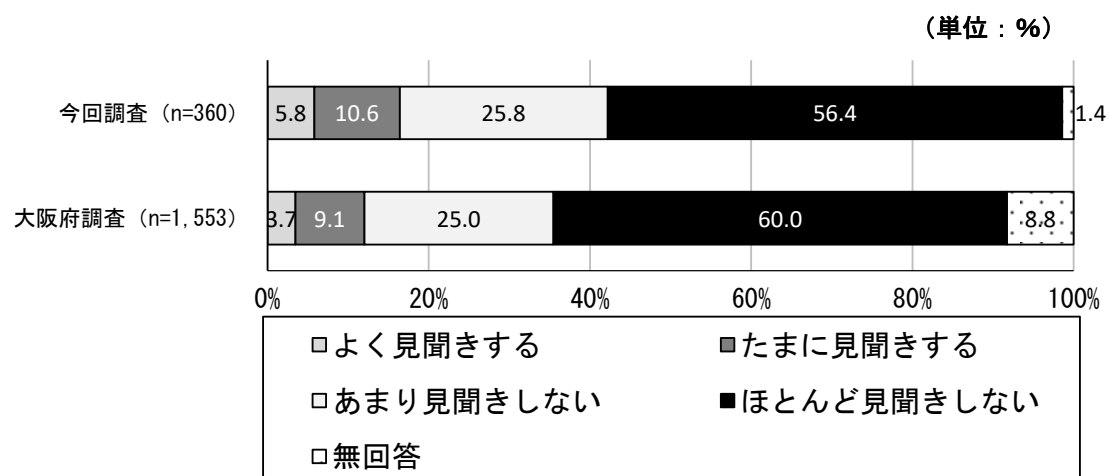
(7) 人権ポスターなどの募集・表彰



(8) 人権相談窓口の開設



(9) 戸籍謄本や住民票を第三者に交付した時に事前に登録した本人にお知らせする制度 (本人通知制度)

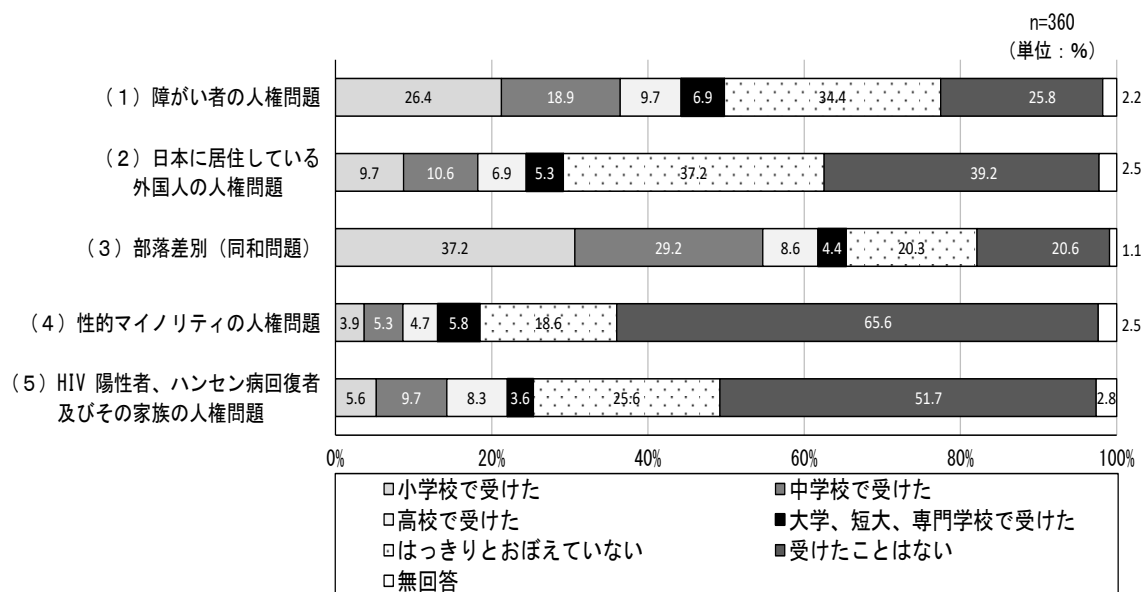


(15) 学校で人権学習を受けたことの有無

問 15 あなたは、学校で、次にあげる人権学習を受けたことはありますか。(○はいくつでも)

学校で人権学習を受けたことの有無についてみると、「受けたことはない」は『性的マイノリティの人権問題』が 65.6%と最も高く、次いで『H I V陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題』が 51.7%、『日本に居住している外国人の人権問題』が 39.2%の順となっている。

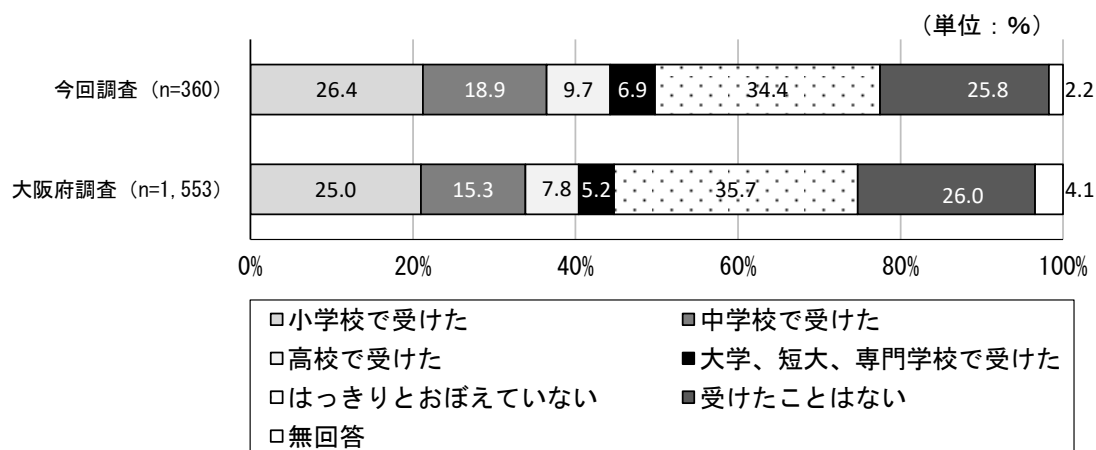
■学校で人権学習を受けたことの有無



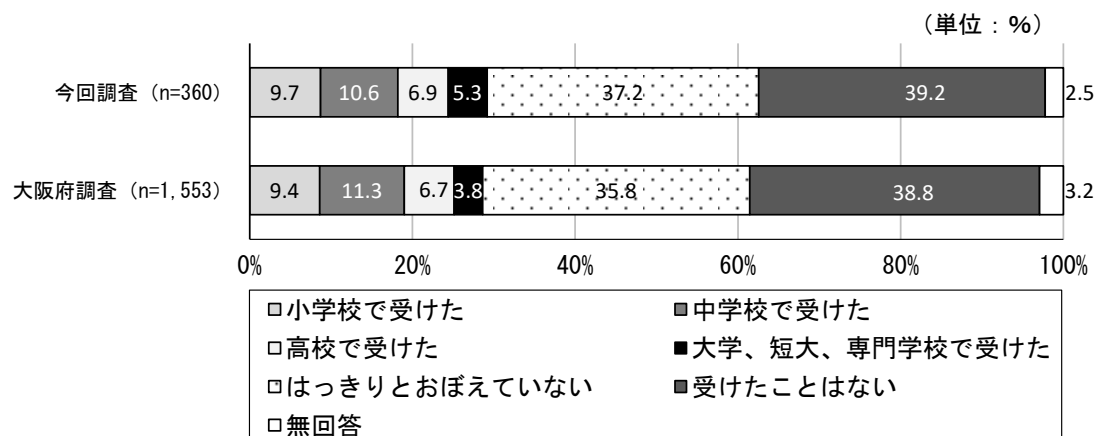
大阪府調査と比較すると、『性的マイノリティの人権問題』の「受けたことはない」が今回調査 65.6%、大阪府調査 62.3%と、今回調査の方が 3.3 ポイント高くなっている。

■学校で人権学習を受けたことの有無（大阪府調査との比較）

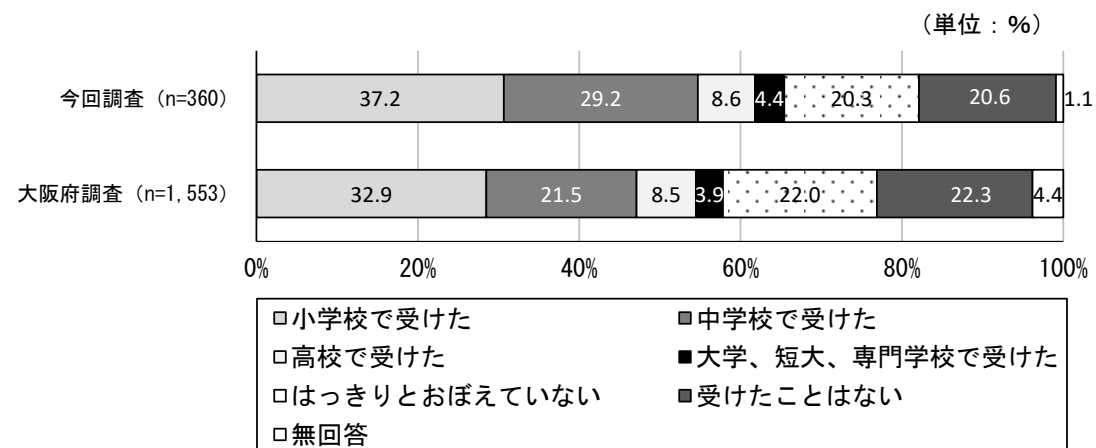
（１）障がい者の人権問題



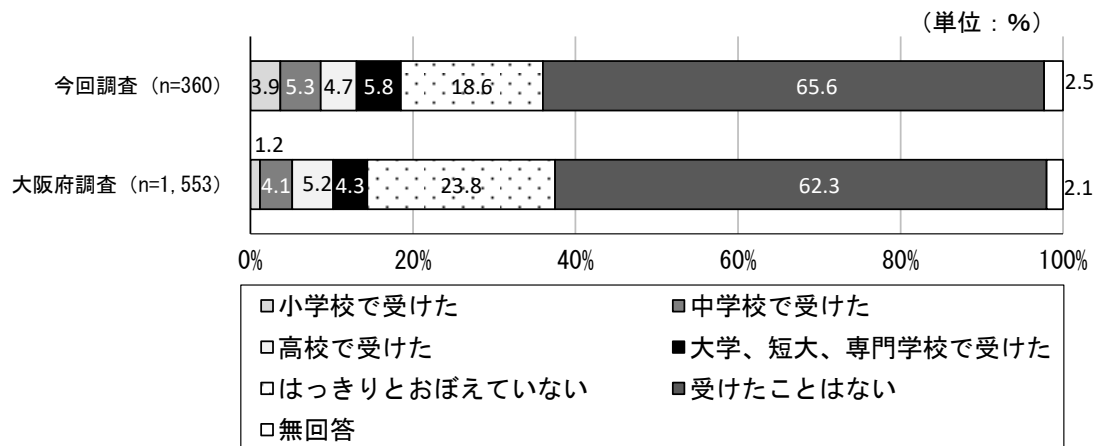
（２）日本に居住している外国人の人権問題



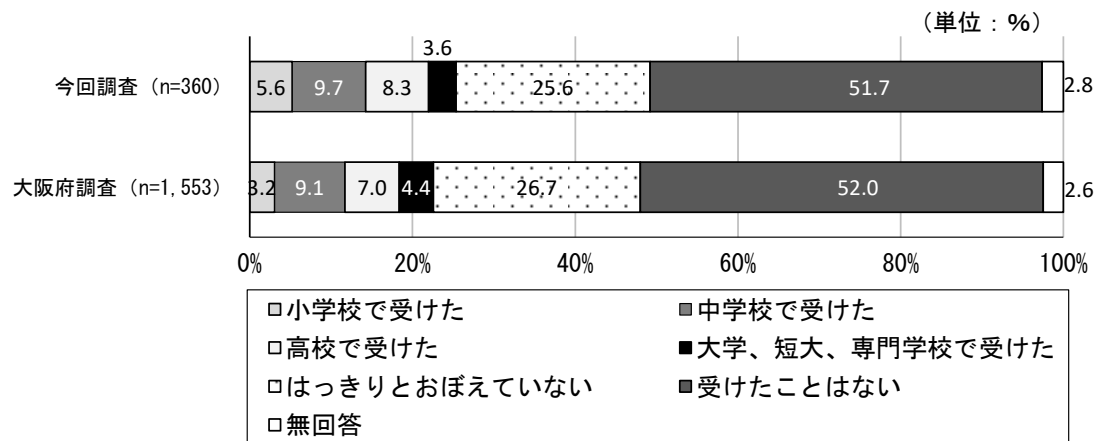
（３）部落差別（同和問題）



(4) 性的マイノリティの人権問題



(5) HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題

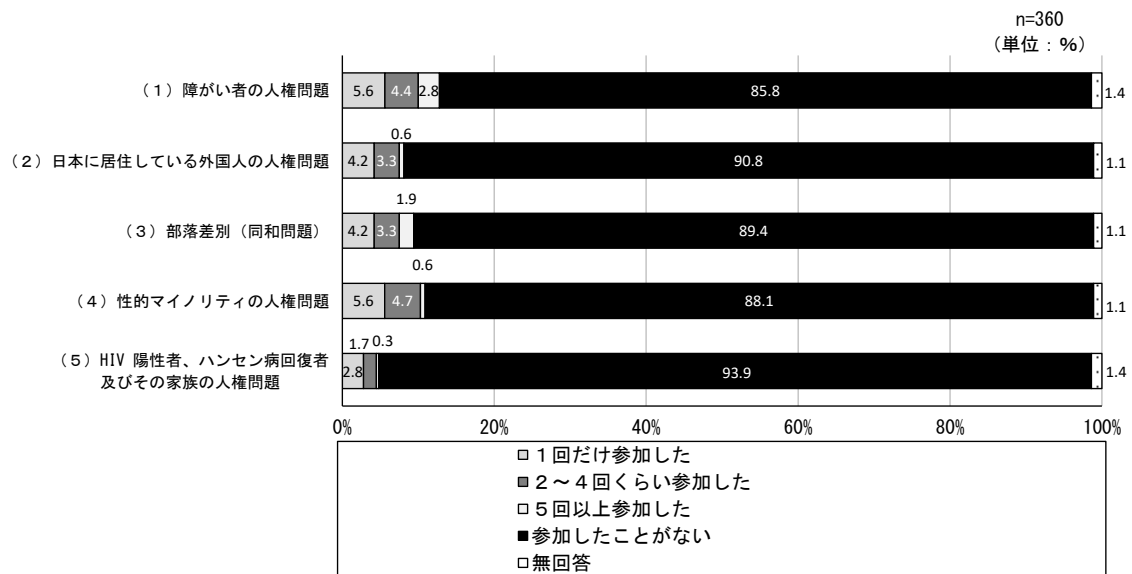


(16) 最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無

問 16 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことはありますか。(いずれか1つに○)

最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無についてみると、「参加したことがない」は『H I V陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題』が93.9%と最も高く、次いで『日本に居住している外国人の人権問題』が90.8%、『部落差別（同和問題）』が89.4%の順となっている。

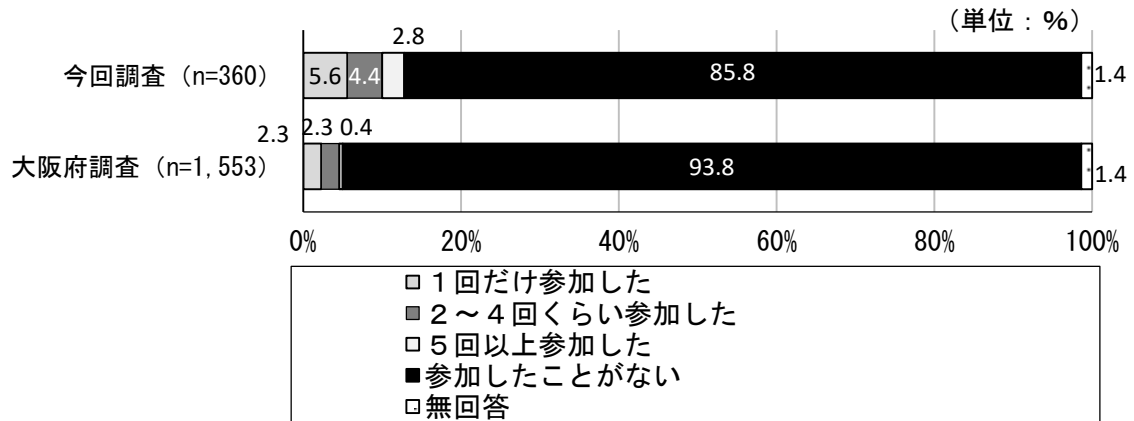
■最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無



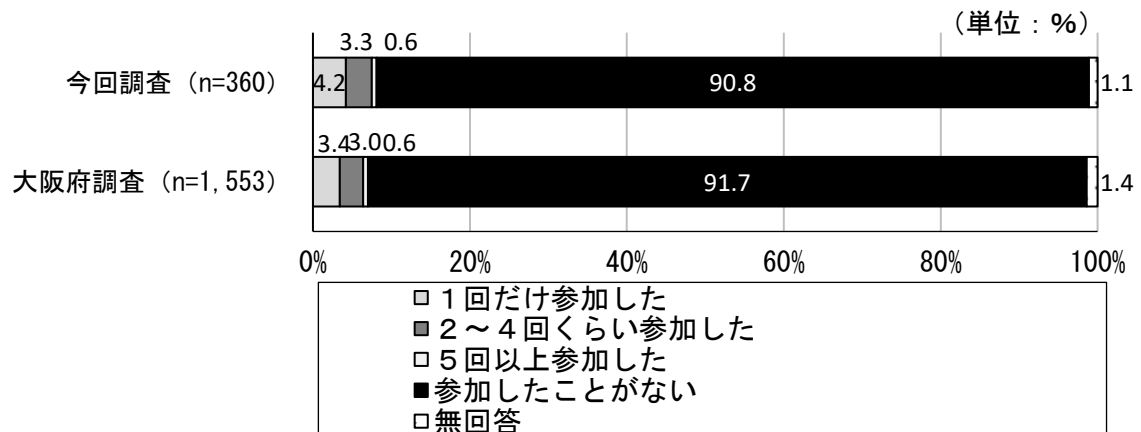
大阪府調査と比較すると、『障がい者の人権問題』の「参加したことがない」が今回調査 85.8%、大阪府調査 93.8%と大阪府調査の方が 8.0 ポイント高くなっている。

■最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無（大阪府調査との比較）

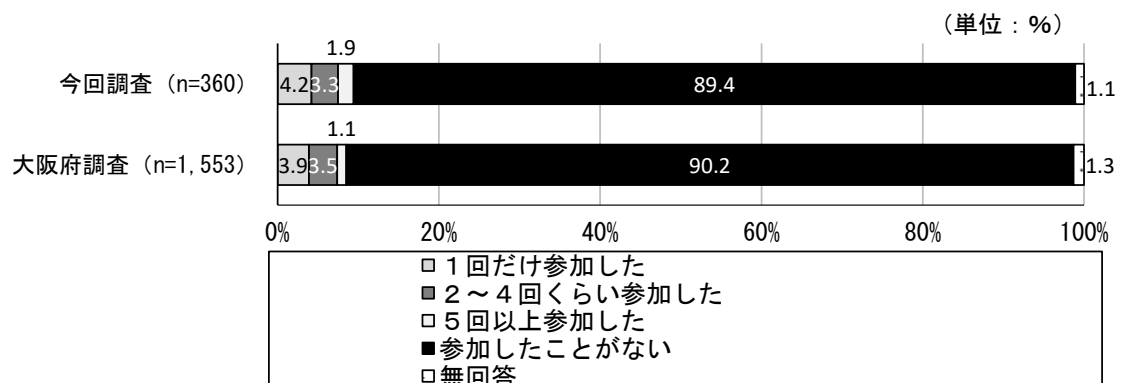
（1）障がい者の人権問題



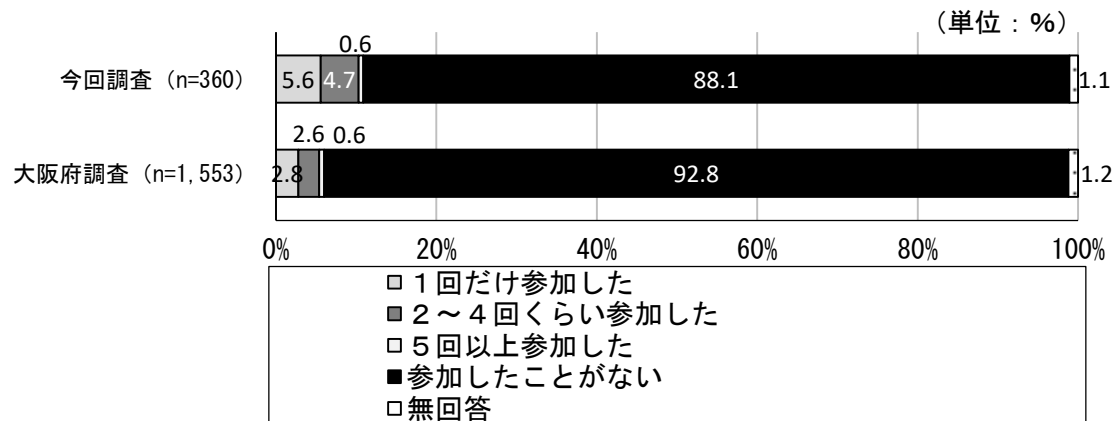
（2）日本に居住している外国人の人権問題



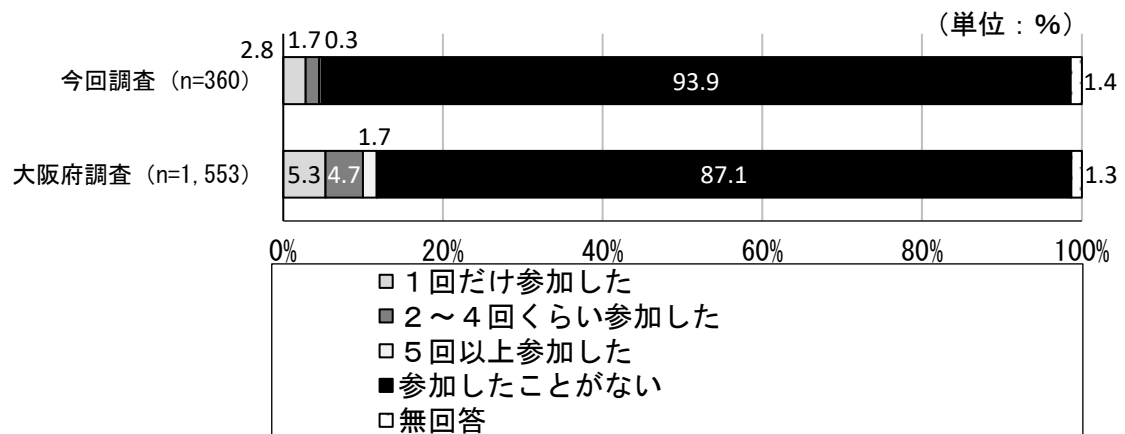
（3）部落差別（同和問題）



(4) 性的マイノリティの人権問題



(5) HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題



2-7. 人権侵害について

(17) 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無

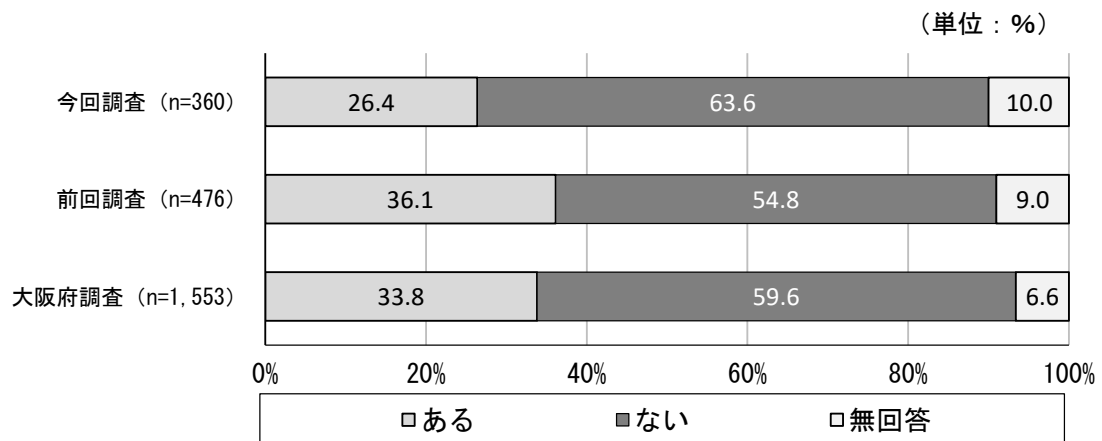
問 17 あなたは、最近5年間に人権上問題と思われる言動を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか？複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。（いずれか1つに○）

最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無についてみると、「ある」が26.4%、「ない」が63.6%となっている。

前回調査と比較すると、「ある」が今回調査 26.4%、前回調査 36.1%と今回調査の方が9.7ポイント低くなっている。

大阪府調査と比較すると、「ある」が今回調査 26.4%、大阪府調査 33.8%と今回調査の方が7.4ポイント低くなっている。

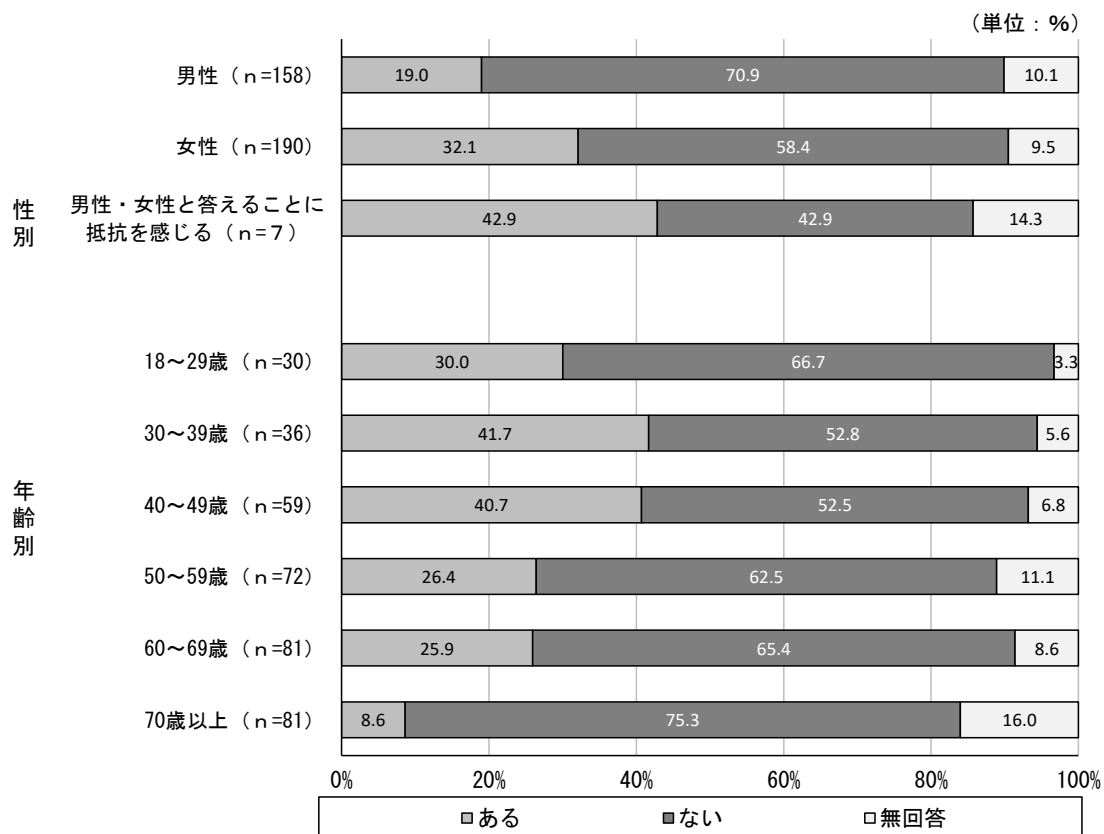
■最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無



性別にみると、『男性』で「ある」が19.0%、『女性』で同32.1%と『女性』の方が13.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『30～39歳』で「ある」が41.7%、『70歳以上』で同8.6%と、『30～39歳』の方が33.1ポイント高くなっている。

■性別 年齢別 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無



(17-1) 人権侵害の事象分野

問17で「1. ある」と回答された方におたずねします。

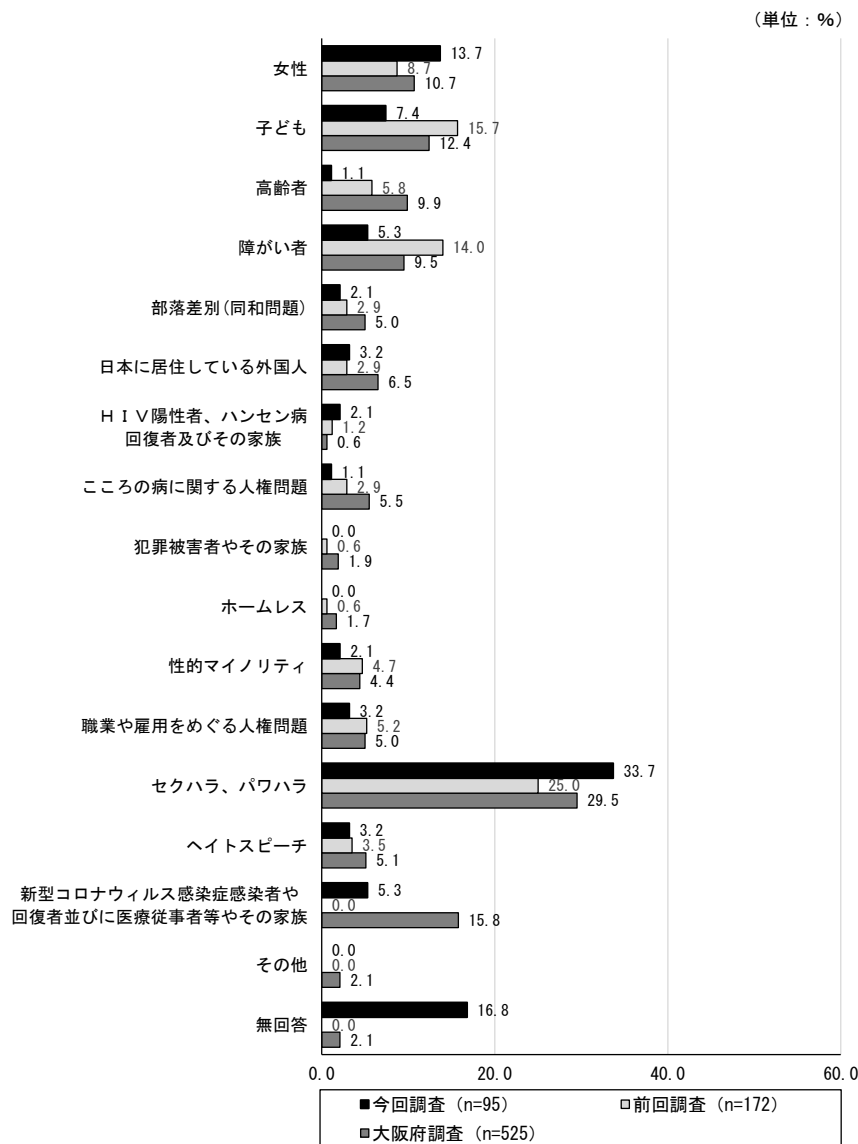
問17-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか？（いずれか1つに○）

人権侵害の事象分野についてみると、「セクハラ、パワハラ」が33.7%と最も高く、次いで「女性」が13.7%、「子ども」が7.4%の順となっている。

前回調査と比較をすると、「セクハラ、パワハラ」が今回調査33.7%、前回調査25.0%と最も高いが、今回調査の方が8.7ポイント高くなっている。

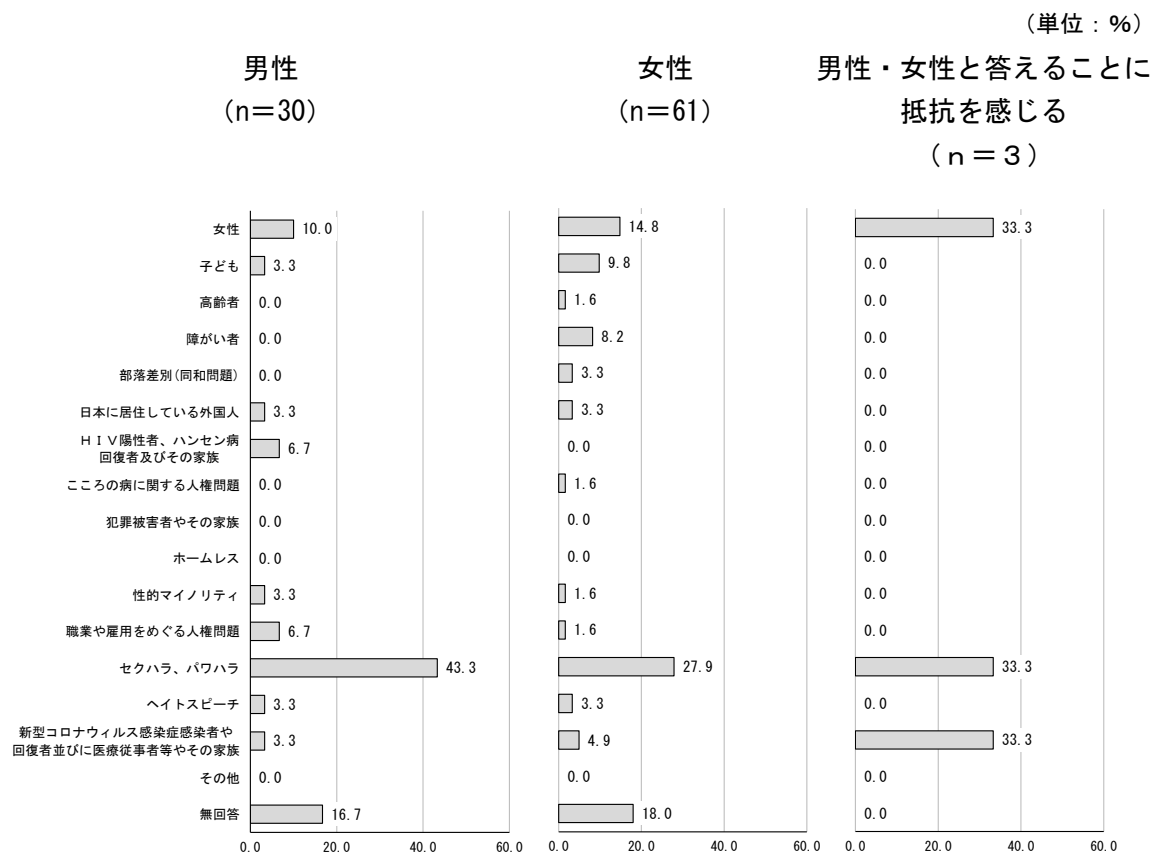
大阪府調査と比較をすると、「セクハラ、パワハラ」が今回調査33.7%、大阪府調査29.5%と今回調査の方が4.2ポイント高くなっている。

■人権侵害の事象分野



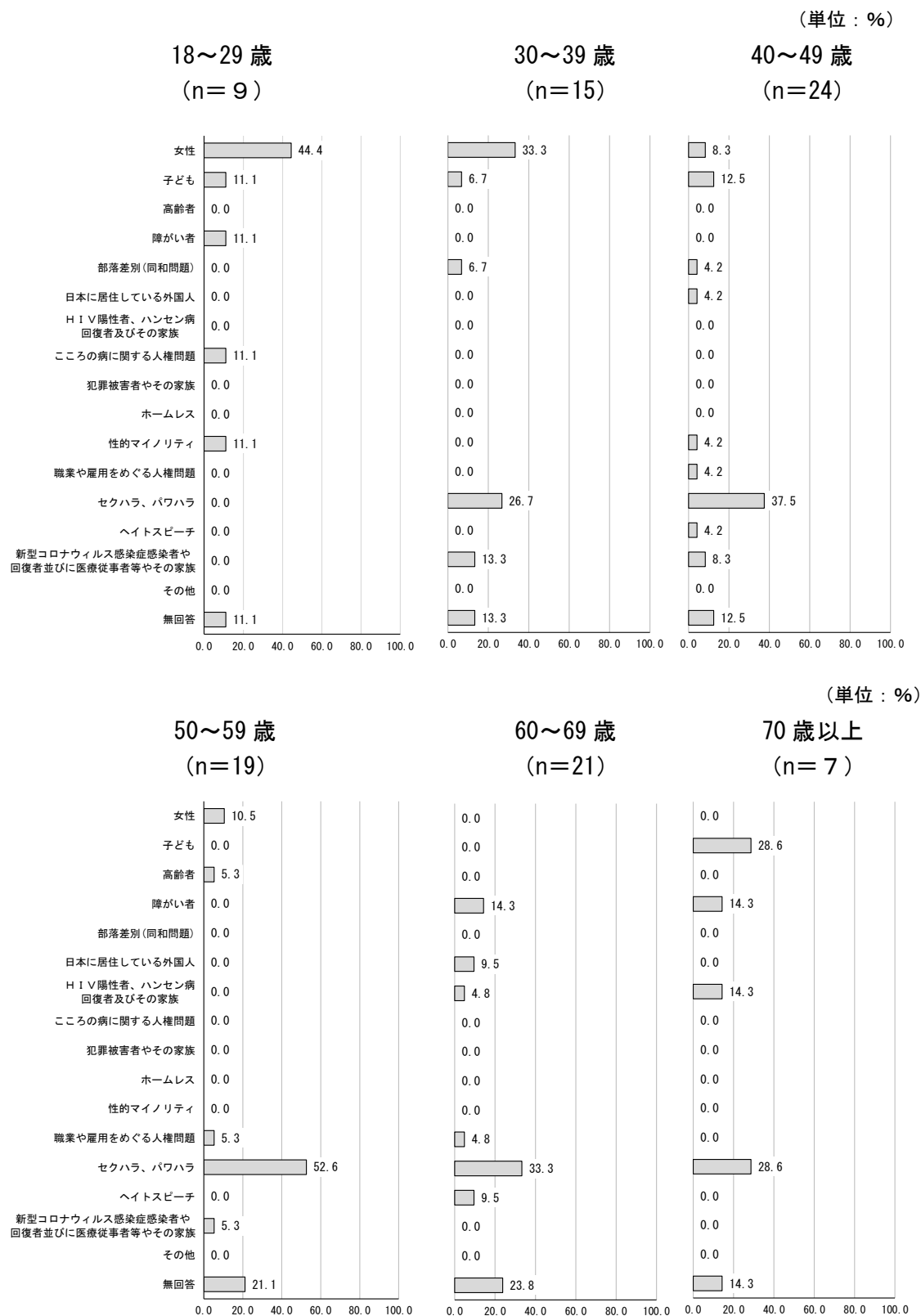
性別にみると、『男性』『女性』とも「セクハラ、パワハラ」がそれぞれ 43.3%、27.9%と最も高くなっている。

■性別 人権侵害の事象分野



年齢別にみると、『40 歳～49 歳』から『60 歳～69 歳』にかけて「セクハラ、パワハラ」が最も高くなっている。

■年齢別 人権侵害の事象分野



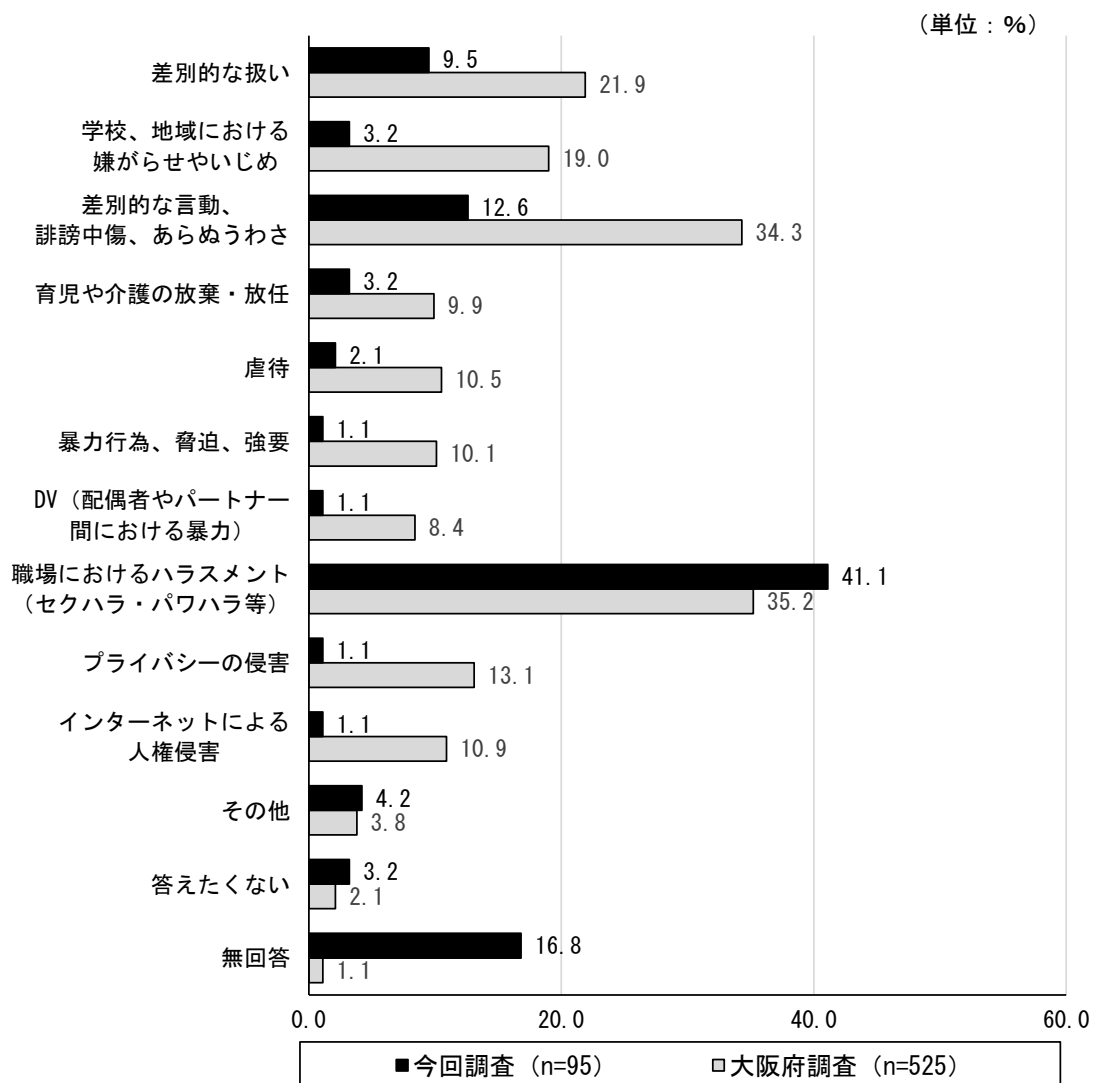
(17-2) 人権侵害の内容

問 17-2 それはどのような内容でしたか？（いずれか1つに○）

人権侵害の内容についてみると、「職場におけるハラスメント（セクハラ・パワハラ等）」が 41.1%と最も高く、次いで「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が 12.6%、「差別的な扱い」が 9.5%の順となっている。

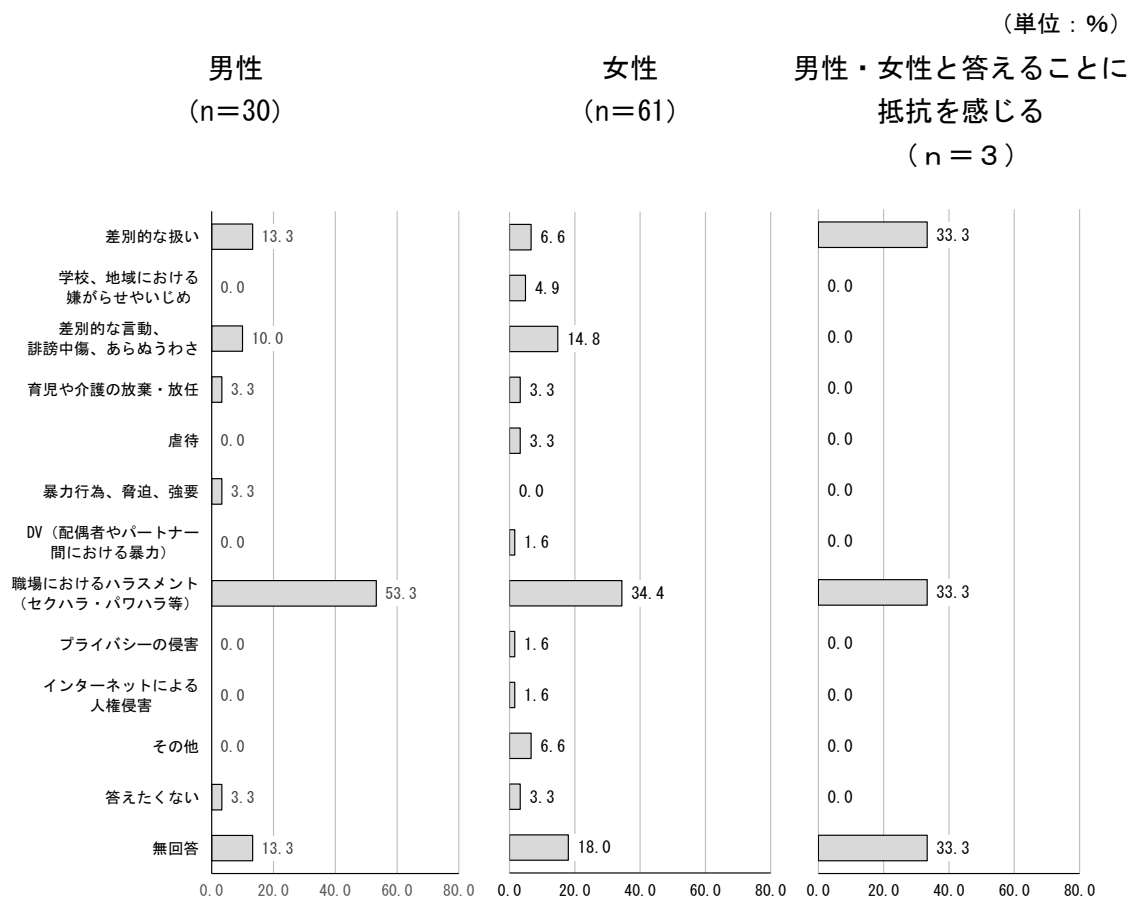
大阪府調査と比較すると、「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が今回調査 12.6%、大阪府調査 34.3%と大阪府調査の方が 21.7 ポイント高くなっている。

■人権侵害の内容



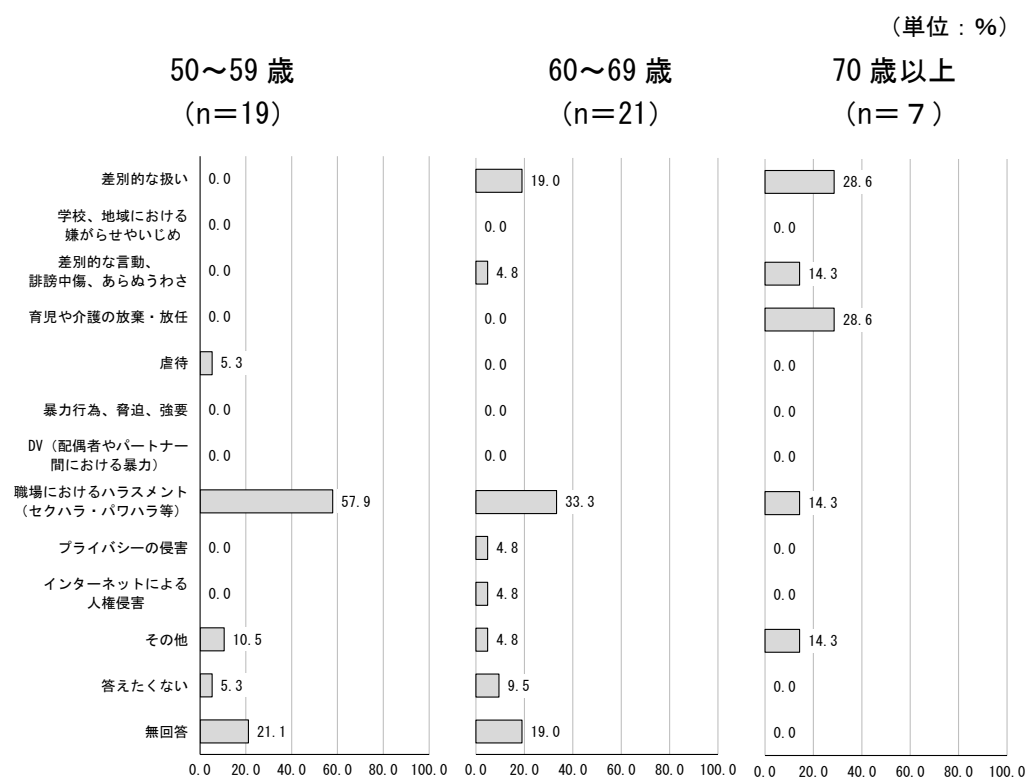
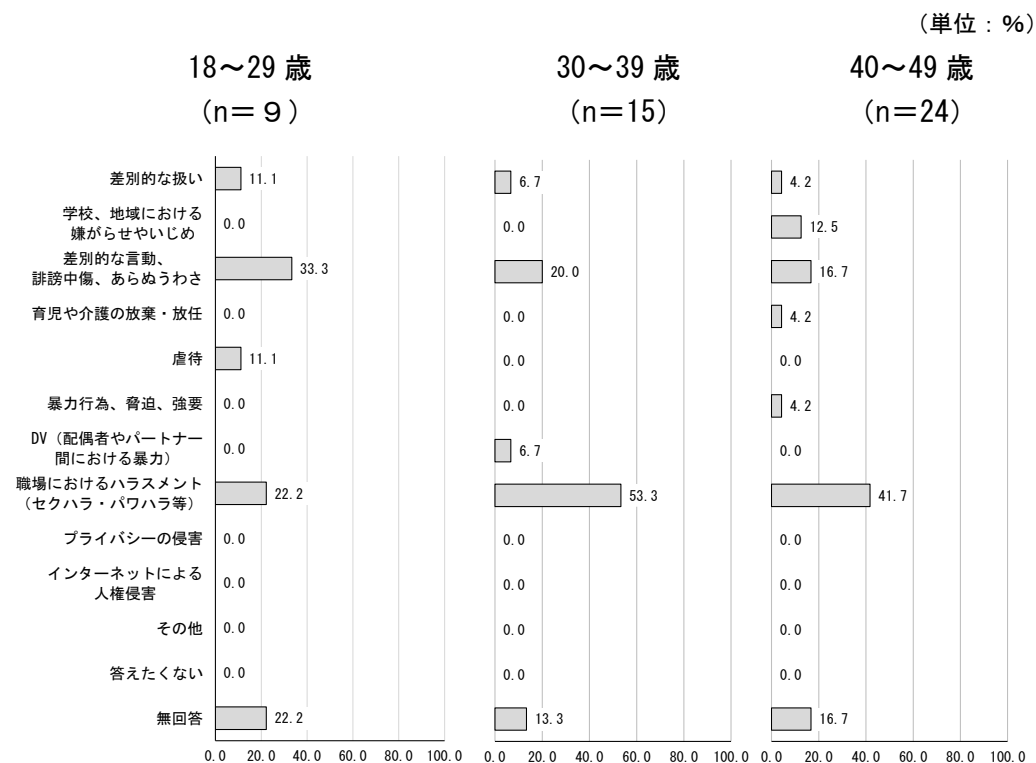
性別にみると、『男性』『女性』とも「職場におけるハラスメント（セクハラ・パワハラ等）」がそれぞれ 53.3%、34.4%と最も高くなっている。

■性別 人権侵害の内容



年齢別にみると、『30歳～39歳』から『60歳～69歳』にかけて「職場におけるハラスメント（セクハラ・パワハラ等）」が最も高くなっている。

■年齢別 人権侵害の内容



（17－3）人権侵害が自身へのものかどうかの有無

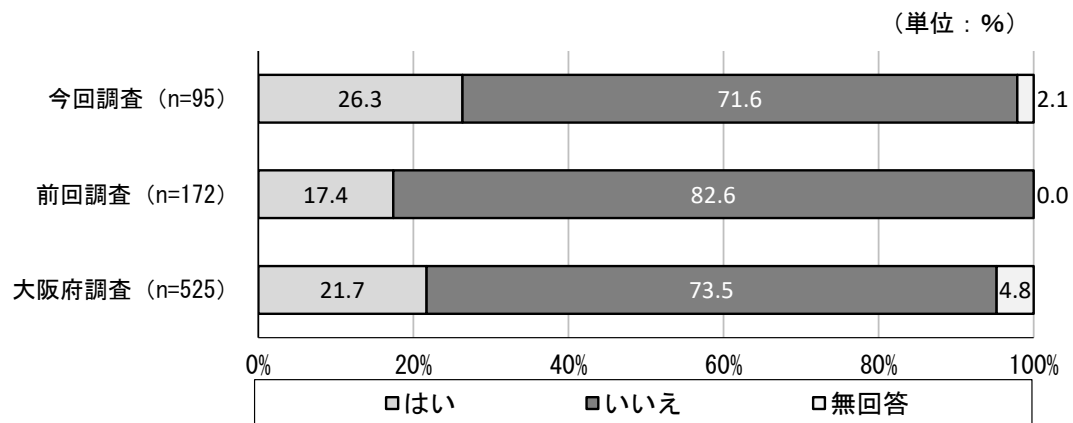
問 17－3 それはあなた自身に対するものでしたか？（いずれか 1 つに○）

人権侵害が自身へのものかどうかの有無についてみると、「はい」が 26.3%、「いいえ」が 71.6%となっている。

前回調査と比較すると、「はい」が今回調査 26.3%、前回調査 17.4%と今回調査の方が 8.9 ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「はい」が今回調査 26.3%、大阪府調査 21.7%と今回調査の方が 4.6 ポイント高くなっている。

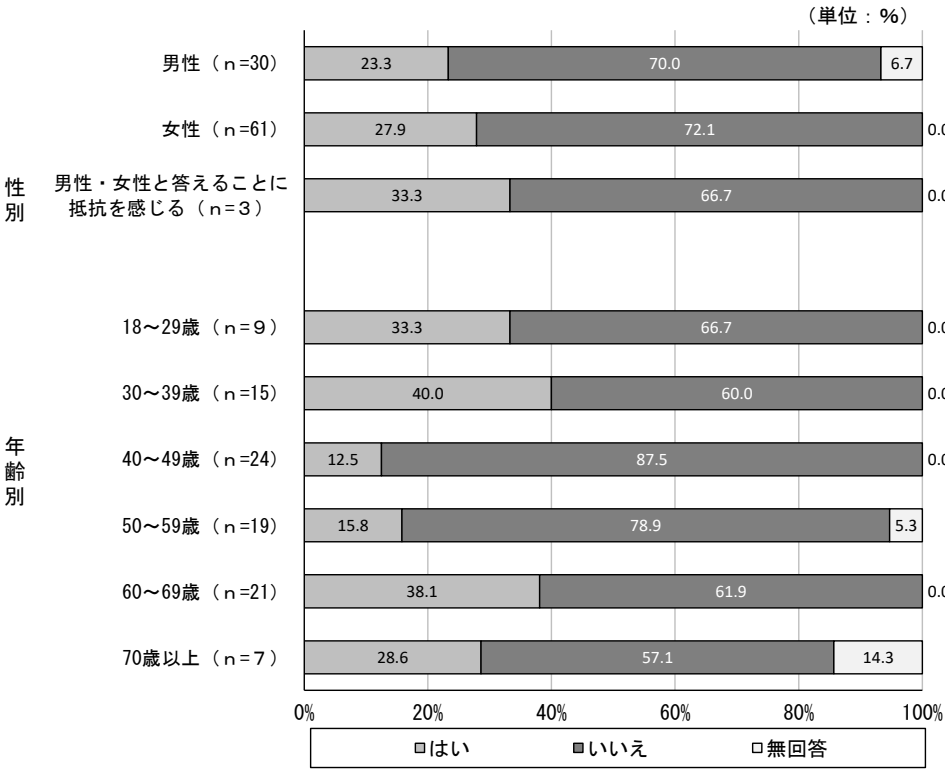
■人権侵害が自身へのものかどうかの有無



性別にみると、『男性』で「はい」が 23.3%、『女性』で同 27.9%と『男性』の方が 4.6 ポイント低くなっている。

年齢別にみると、『30～39 歳』で「ある」が 40.0%と、他の年齢層と比べても高くなっている。

■性別 年齢別 人権侵害が自身へのものかどうかの有無



(17－4) 自身のものであったときの対応

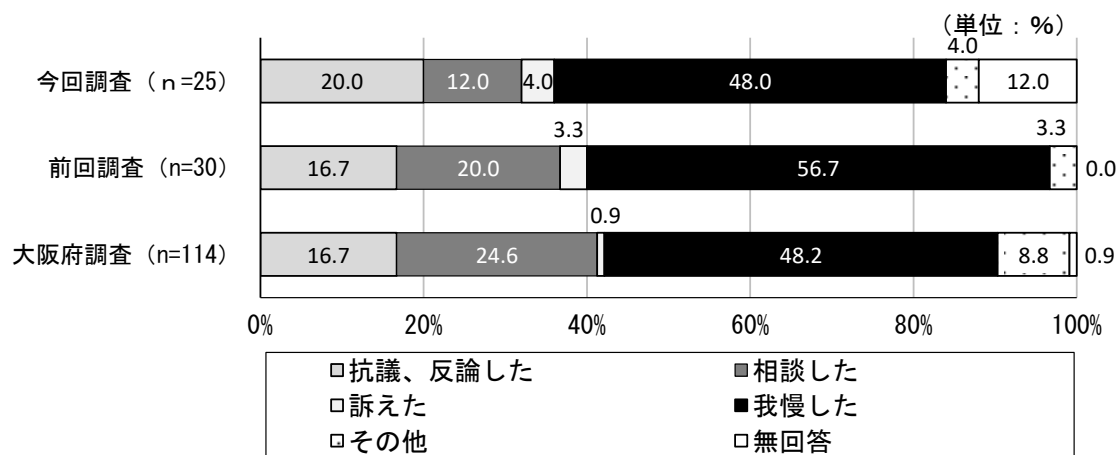
問 17－3 a どう対応しましたか？（いずれか 1 つに○）

自身のものであったときの対応についてみると、「我慢した」が 48.0%と最も高く、次いで「抗議、反論した」が 20.0%、「相談した」が 12.0%の順となっている。

前回調査と比較すると、「我慢した」が今回調査 48.0%、前回調査 56.7%と、前回調査の方が 8.7 ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「我慢した」が今回調査 48.0%、大阪府調査 48.2%と、ほぼ同じ割合となっている。

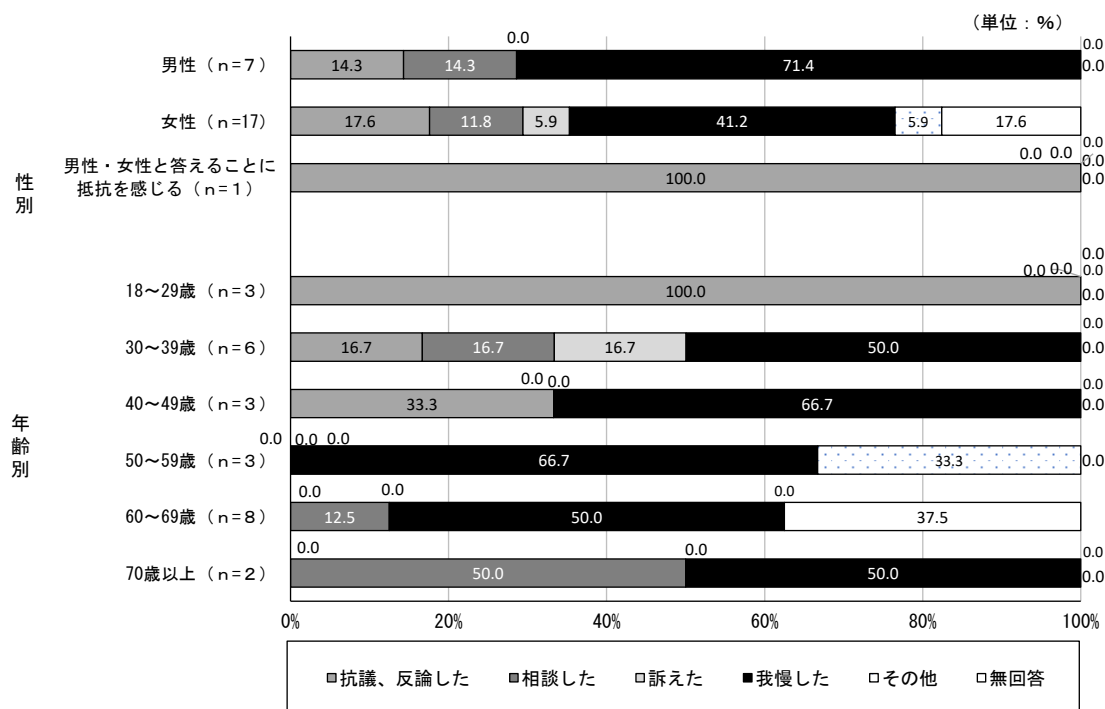
■ 自身のものであったときの対応



性別にみると、『男性』で「我慢した」が71.4%、『女性』で同41.2%と『男性』の方が30.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『40～49歳』と『50～59歳』で「我慢した」がいずれも66.7%で、他の年齢と比べて最も高くなっている。

■性別 年齢別 自身のものであったときの対応



(17-5) 自身のものであったときの解決したかの有無

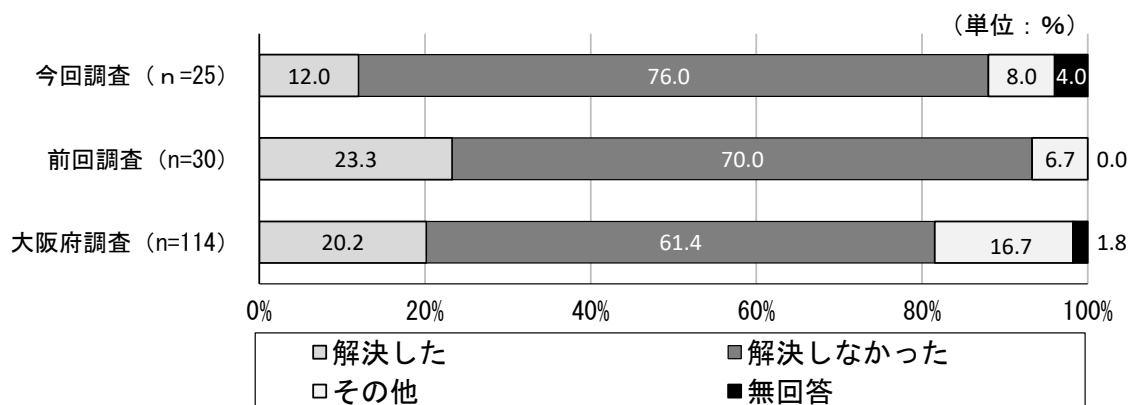
問 17-3 b 最終的に解決しましたか？（いずれか 1 つに○）

自身のものであったときの解決したかの有無についてみると、「解決しなかった」が 76.0% 「解決した」が 12.0% となっている。

前回調査と比較すると、「解決しなかった」が今回調査 76.0%、前回調査 70.0%と、今回調査の方が 6.0 ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「解決しなかった」が今回調査 76.0%、大阪府調査 61.4%と、今回調査の方が 14.6 ポイント高くなっている。

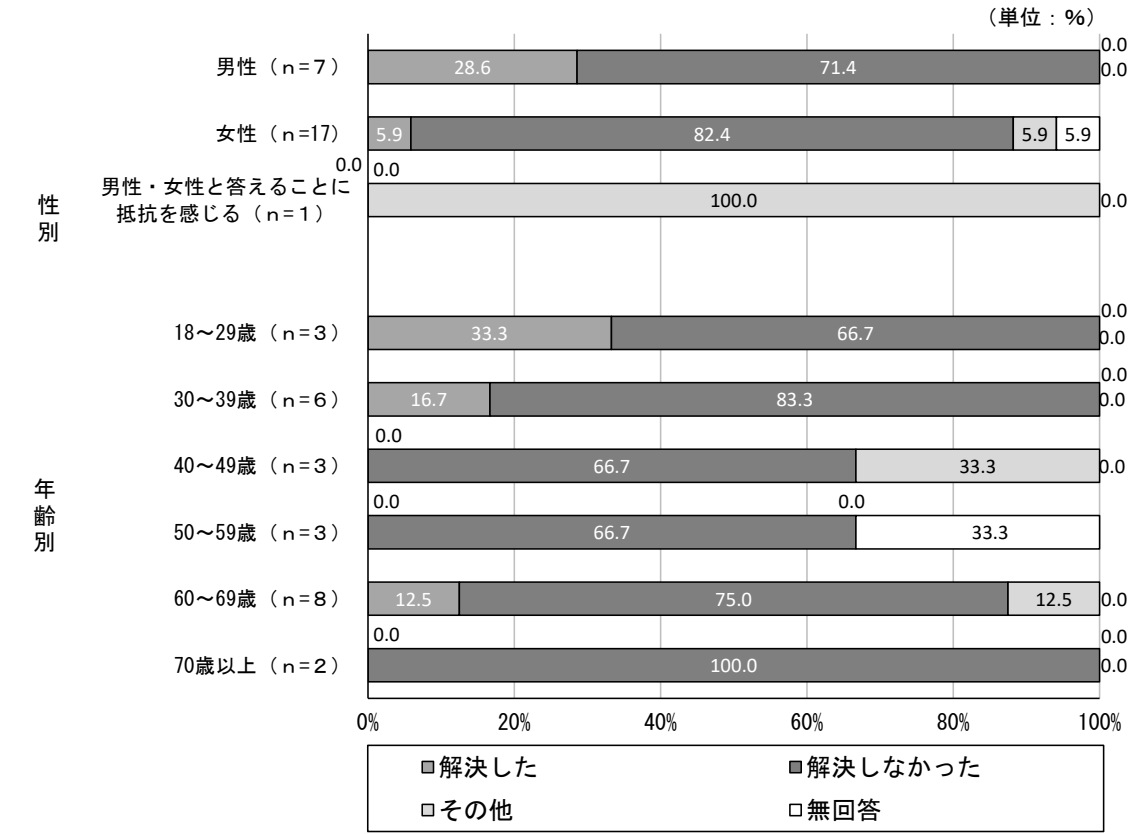
■ 自身のものであったときの解決したかの有無



性別にみると、『男性』で「解決しなかった」が 71.4%、『女性』で同 82.4%と『女性』の方が 11.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『70 歳以上』は「解決しなかった」が 100%と他の年齢層と比べて最も高くなっている。

■性別 年齢別 自身のものであったときの解決したかの有無



(17-6) 自身のものでなかったときの対応

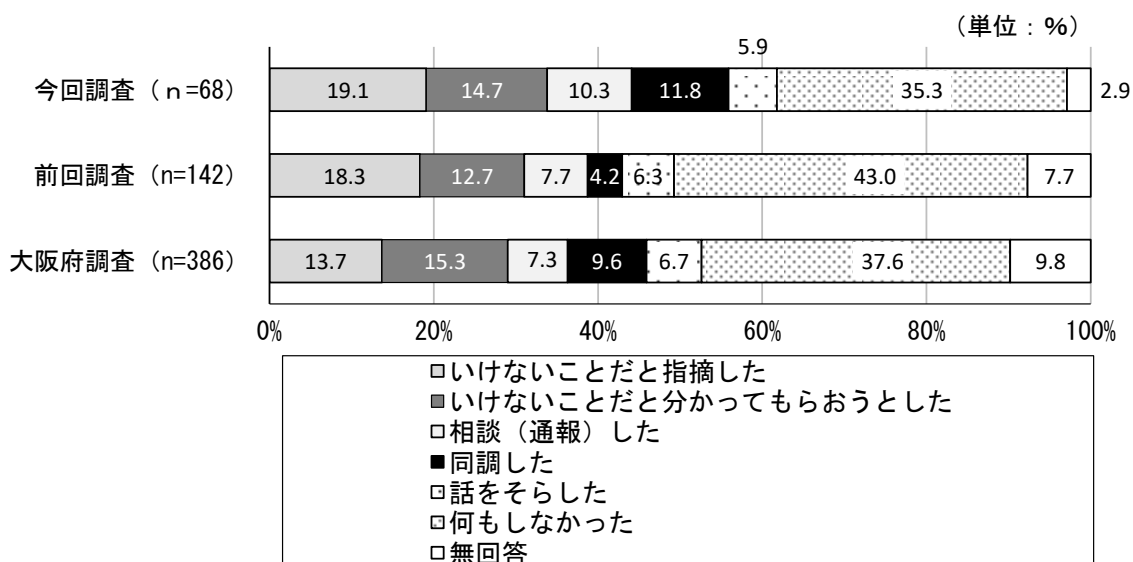
問 17-3 c どう対応しましたか？（いずれか 1 つに○）

自身のものでなかったときの対応についてみると、「何もしなかった」が 35.3%と最も高く、次いで「いけないことだと指摘した」が 19.1%、「いけないことだと分かってもらおうとした」が 14.7%の順となっている。

前回調査と比較すると、「いけないことだと指摘した」が今回調査 19.1%、前回調査 18.3%と、今回調査の方が 0.8 ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「いけないことだと指摘した」が今回調査 19.1%、大阪府調査 13.7%と、今回調査の方が 5.4 ポイント高くなっている。

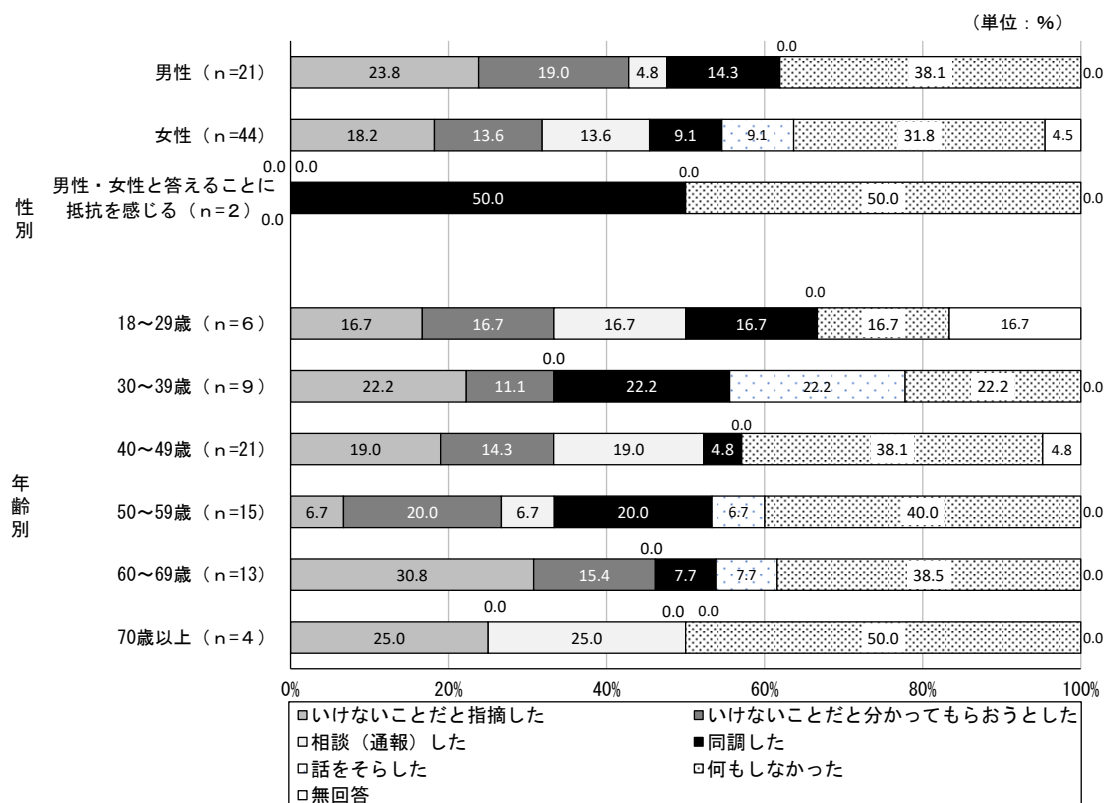
■自身のものでなかったときの対応



性別にみると、『男性』で「いけないことと指摘した」が23.8%、『女性』で同18.2%と『男性』の方が5.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『60～69歳』で「いけないことと指摘した」が30.8%、『50歳～59歳』で同6.7%と『60～69歳』の方が24.1ポイント高くなっている。

■性別 年齢別 自身のものでなかったときの対応



(17-7) 自身のものでなかったときの今後の対応

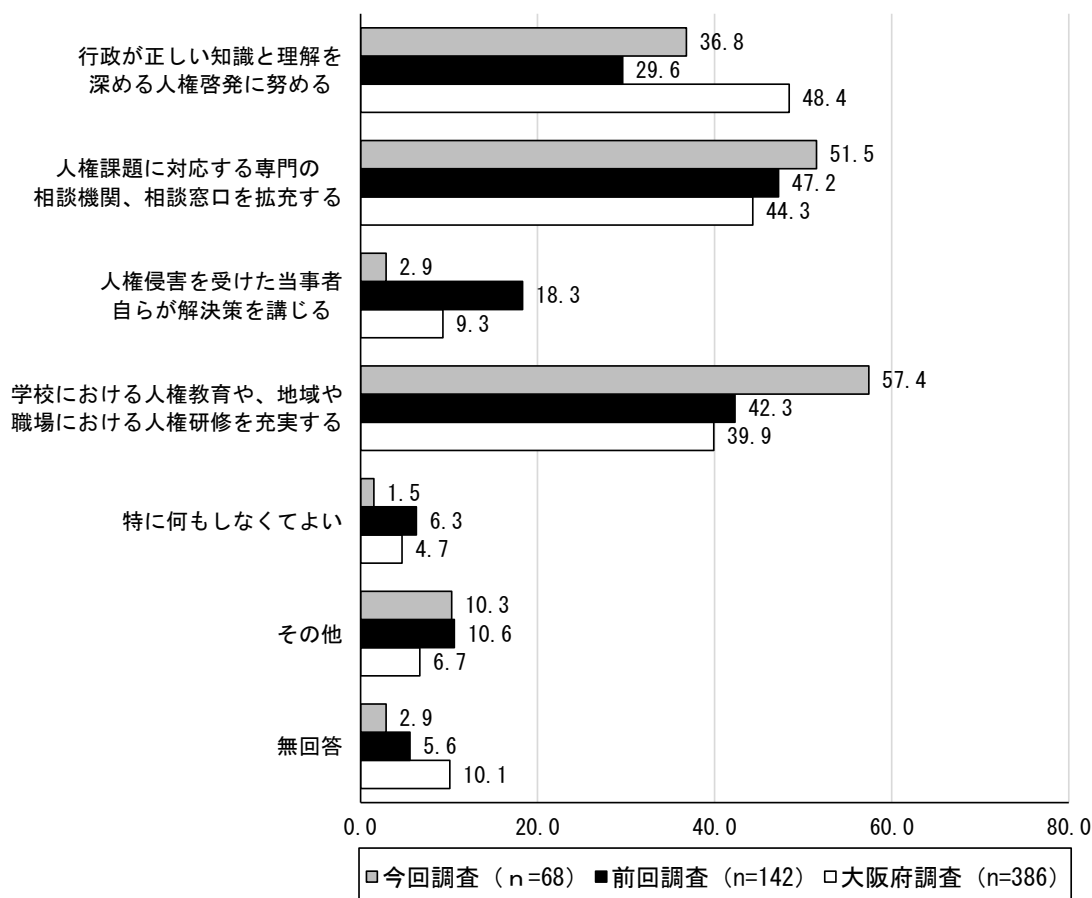
問 17-3 d そのような問題（事案）についてどうしたらよいと考えますか？
（○はいくつでも）

自身のものでなかったときの今後の対応についてみると、「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」が 57.4%と最も高く、次いで「人権課題に対応する専門の相談機関、相談窓口を拡充する」が 51.5%、「行政が正しい知識と理解を深める人権啓発に努める」が 36.8%の順となっている。

前回調査と比較すると、「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」が今回調査 57.4%、前回調査 42.3%と、今回調査の方が 15.1 ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」の今回調査 57.4%、大阪府調査 39.9%と、今回調査の方が 17.5 ポイント高くなっている。

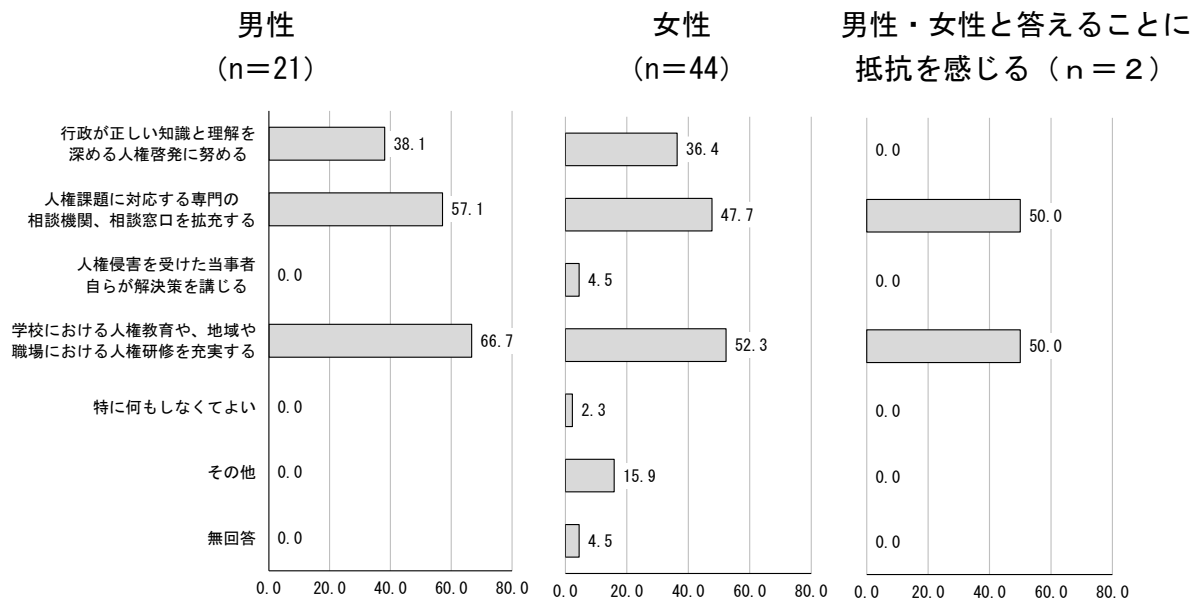
■自身のものでなかったときの今後の対応



性別にみると、『男性』『女性』とも「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」が最も高くなっている。

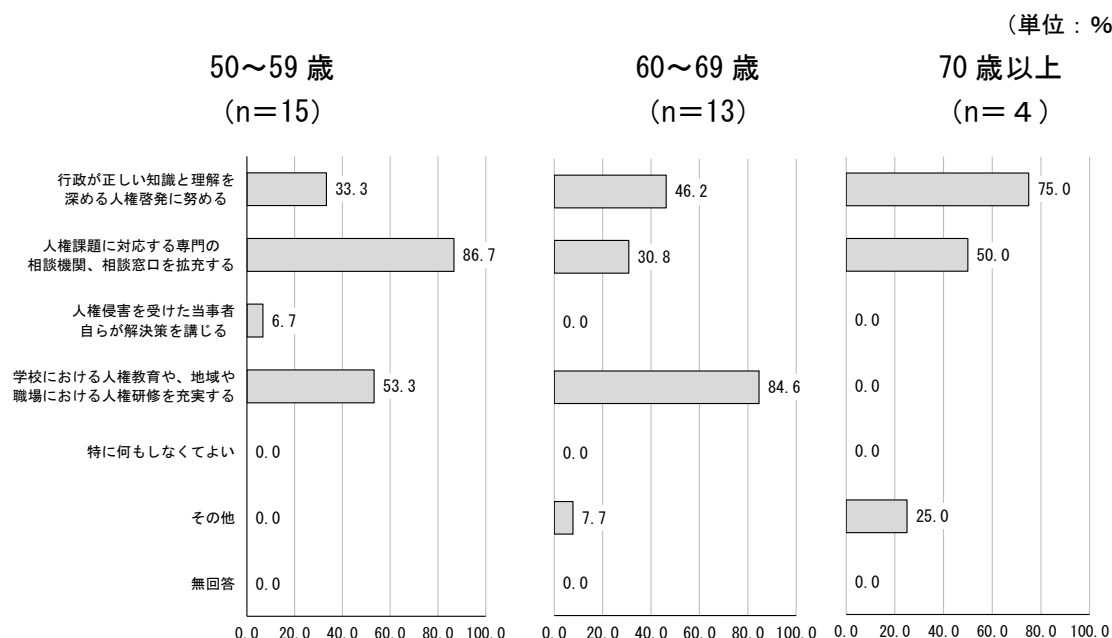
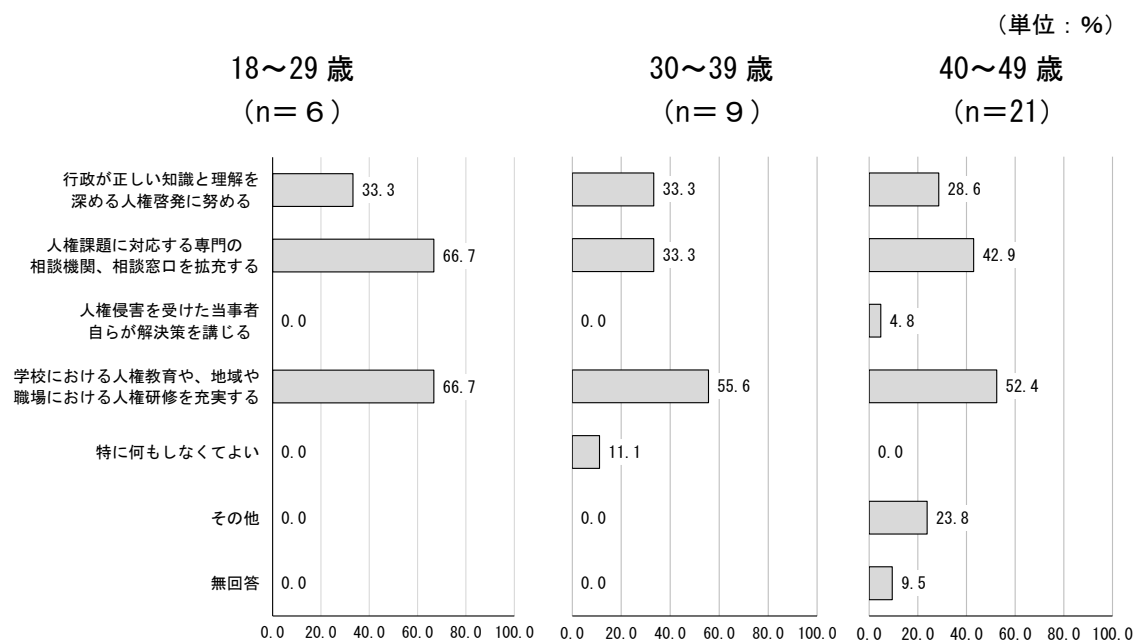
■性別 自身のものでなかったときの今後の対応

(単位：%)



年齢別にみると、『50歳～59歳』で「人権課題に対応する専門の相談機関、相談窓口を拡充する」が86.7%、『60歳～69歳』で「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」が84.6%とそれぞれ8割を超えている。

■年齢別 自身のものでなかったときの今後の対応



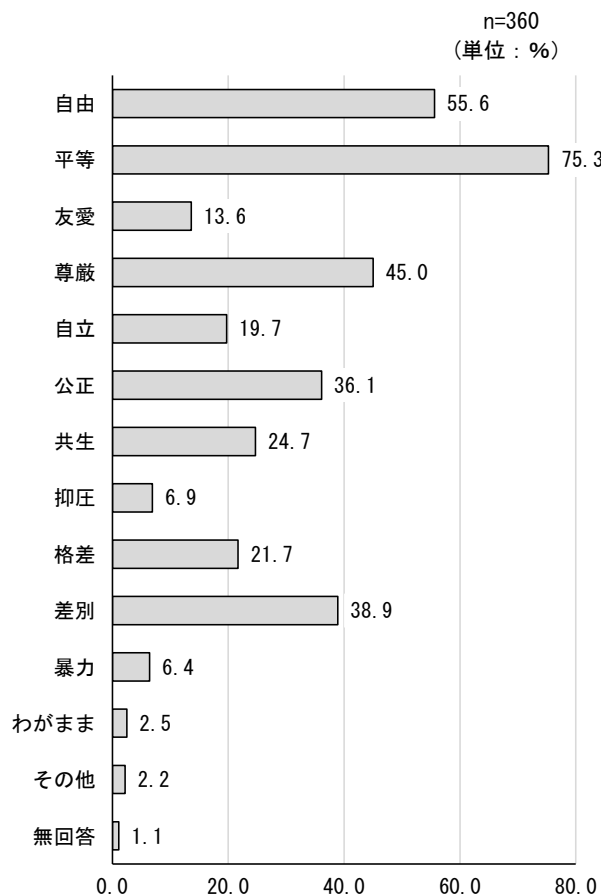
2-8. 人権に対する考え方について

(18) 「人権」から連想する言葉

問 18 あなたが「人権」から連想する言葉はどれですか？（〇はいくつでも）

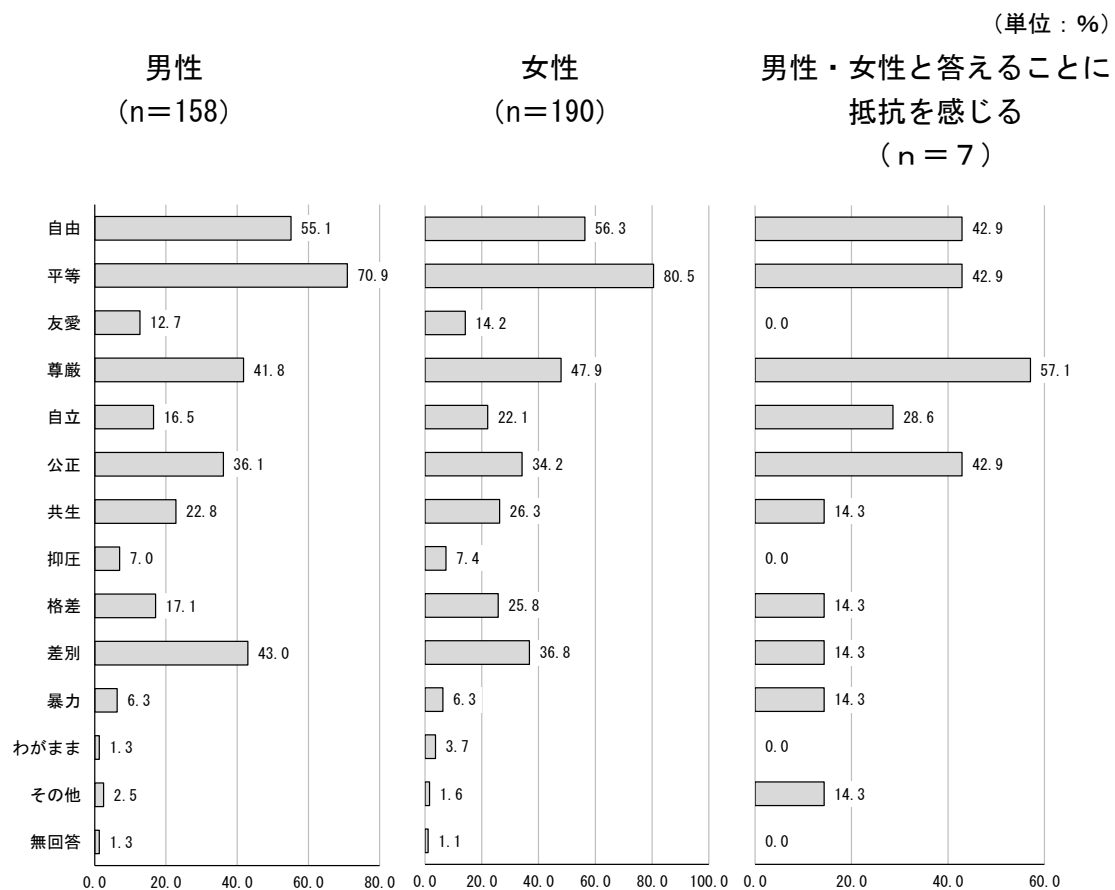
「人権」から連想する言葉についてみると、「平等」が75.3%と最も高く、次いで「自由」が55.6%、「尊厳」が45.0%の順となっている。

■ 「人権」から連想する言葉



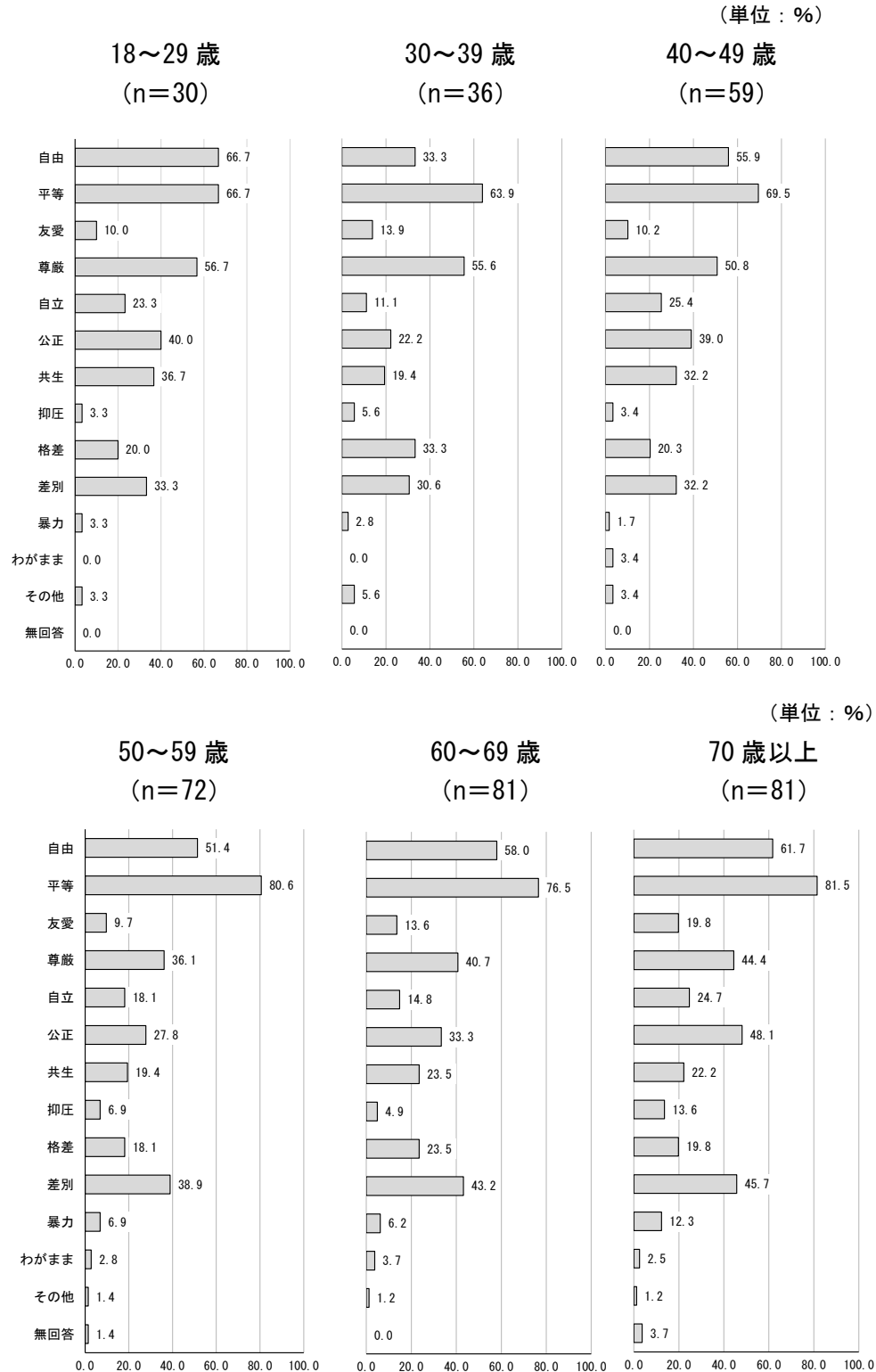
性別にみると、『男性』『女性』とも「平等」がそれぞれ70.9%、80.5%と最も高くなっている。

■性別 「人権」から連想する言葉



年齢別にみると、すべての年齢層で「平等」が最も高く、『50～59 歳』『70 歳以上』で8割を超えている。

■年齢別 「人権」から連想する言葉

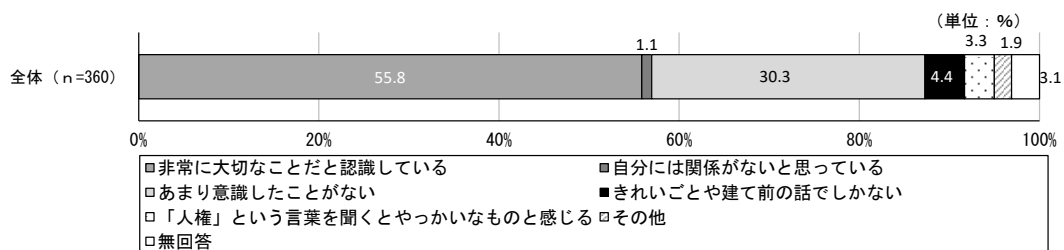


(19)「人権」についてのふだんの意識

問 19 あなたは、「人権」について、ふだんどのように意識していますか？
(いずれか1つに○)

「人権」についてのふだんの意識についてみると、「非常に大切なことだと認識している」が55.8%と最も高く、次いで「あまり意識したことがない」が30.3%、「きれいごとや建前の話でしかない」が4.4%の順となっている。

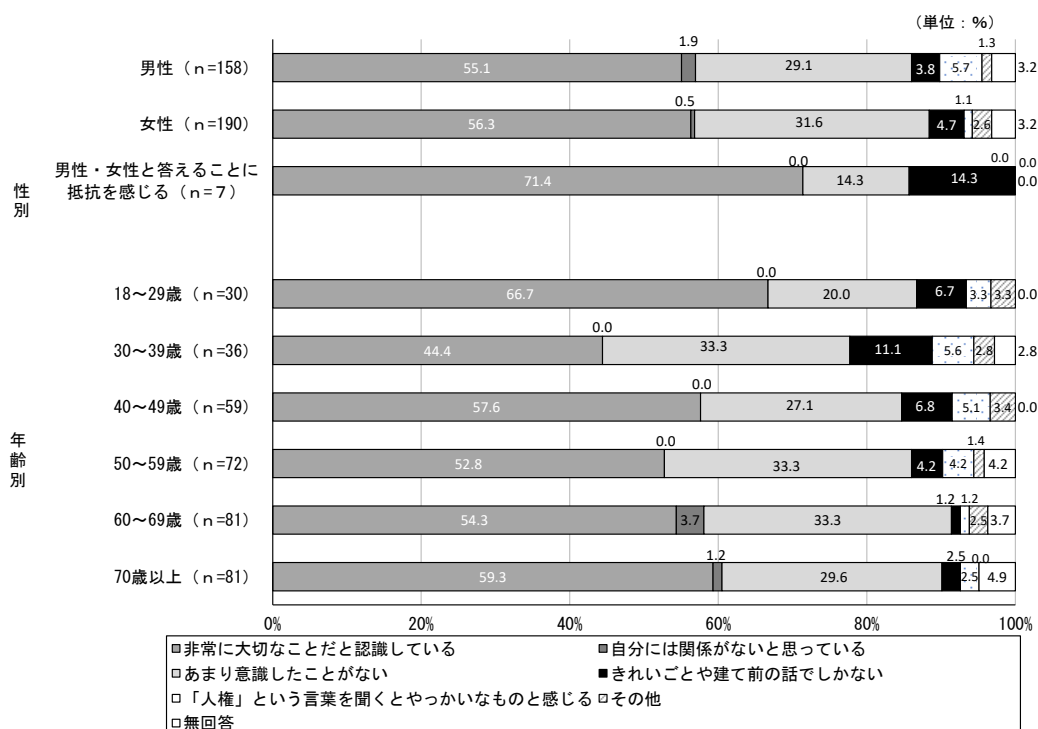
■「人権」についてのふだんの意識



性別にみると、『男性』『女性』とも「非常に大切なことだと認識している」がそれぞれ55.1%、56.3%と最も高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層も「非常に大切なことだと認識している」が最も高くなっている。

■性別 年齢別 「人権」についてのふだんの意識

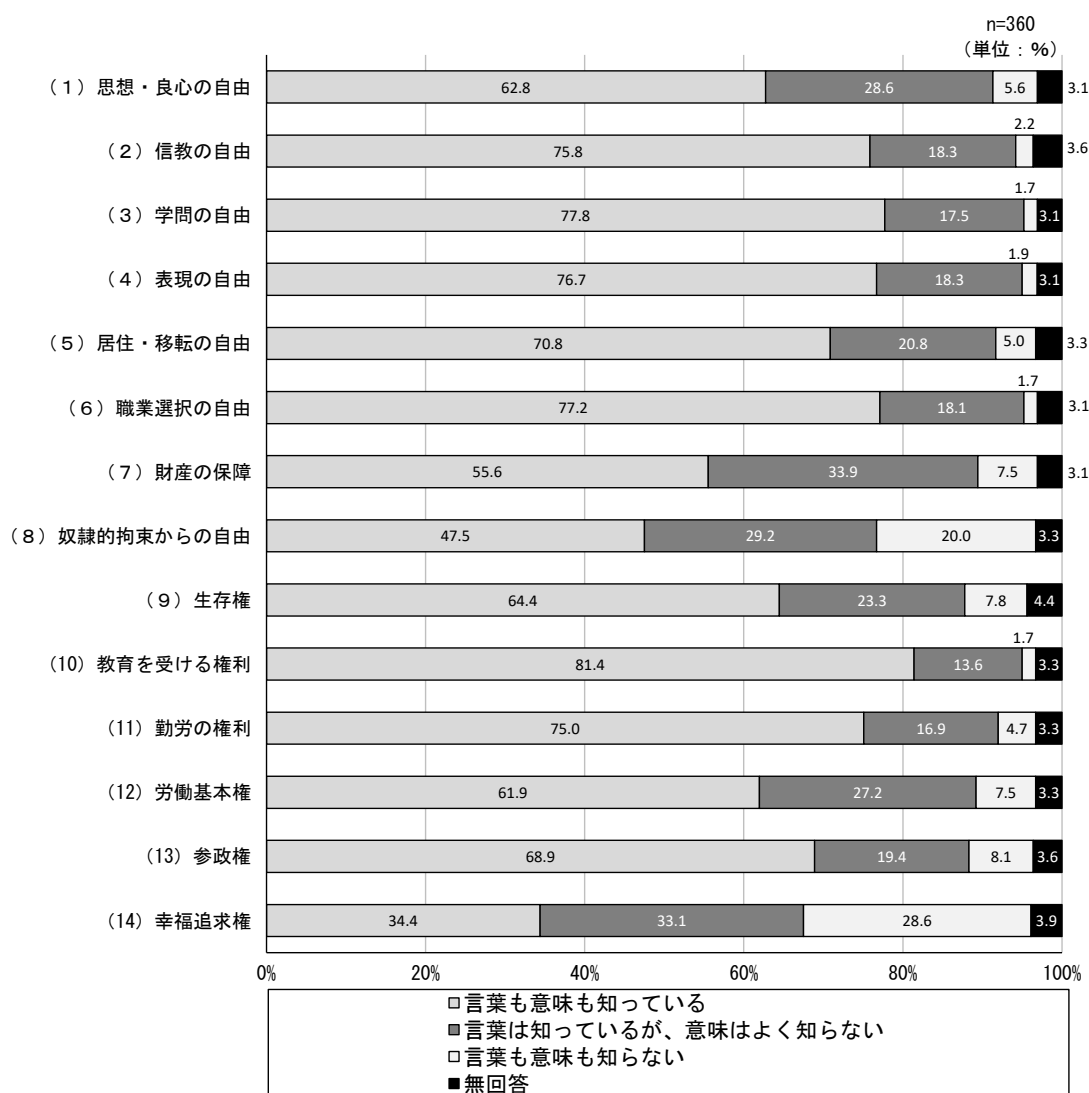


(20) 憲法で保障されている権利の認知

問 20 あなたは、憲法で保障されている次の権利について知っていますか？
(いずれか1つに○)

憲法で保障されている権利の認知についてみると、「言葉も意味も知っている」が『教育を受ける権利』81.4%と最も高く、次いで『学問の自由』77.8%、『職業選択の自由』77.2%の順となっている。

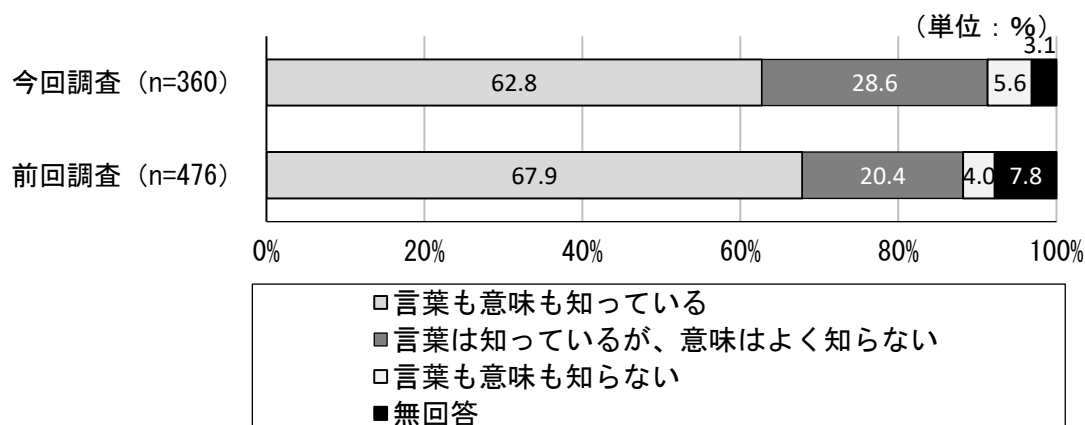
■憲法で保障されている権利の認知



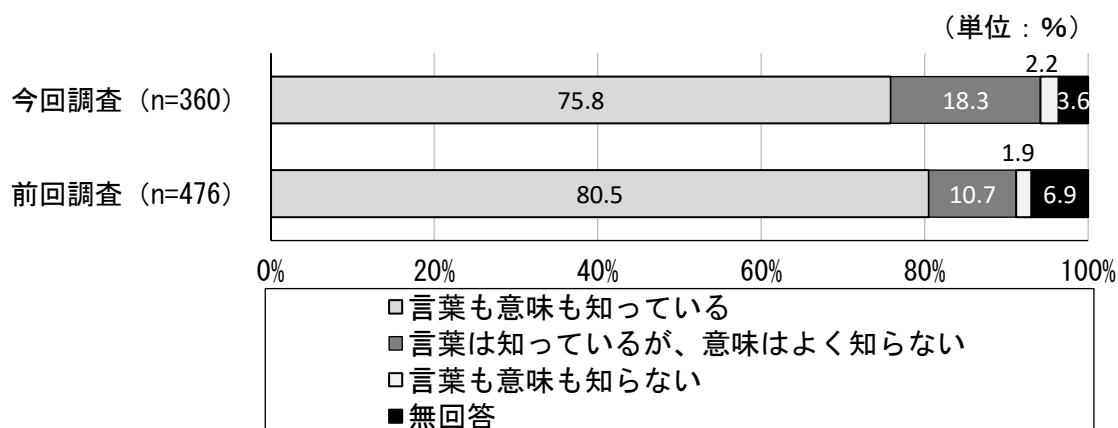
前回調査と比較すると、『奴隷的拘束からの自由』の「言葉も意味も知っている」が今回調査 47.5%、前回調査 54.4%と前回調査の方が 6.9 ポイント高くなっている。

■憲法で保障されている権利の認知（前回調査との比較）

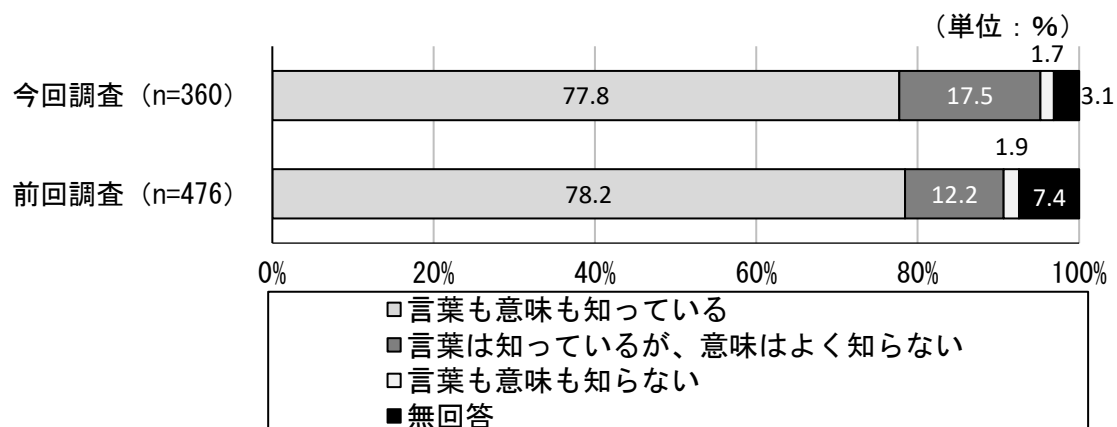
（１）思想・良心の自由



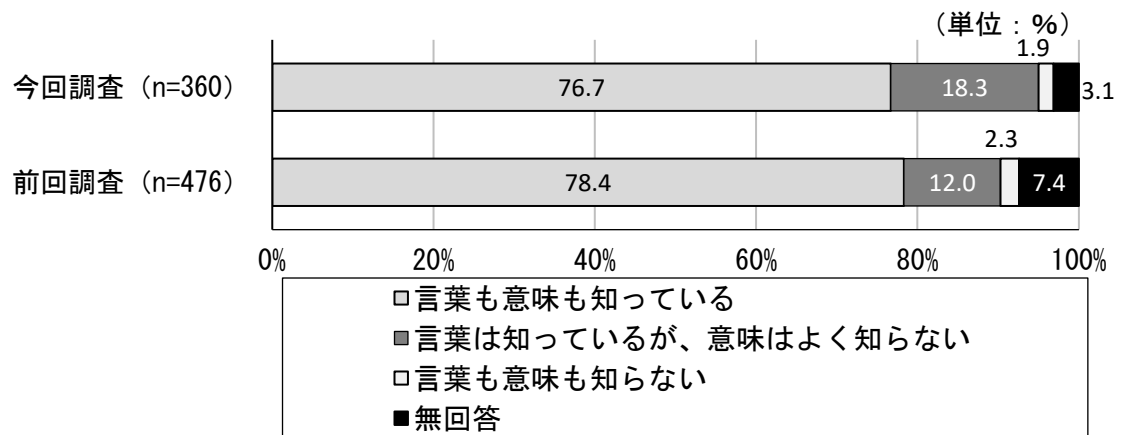
（２）信教の自由



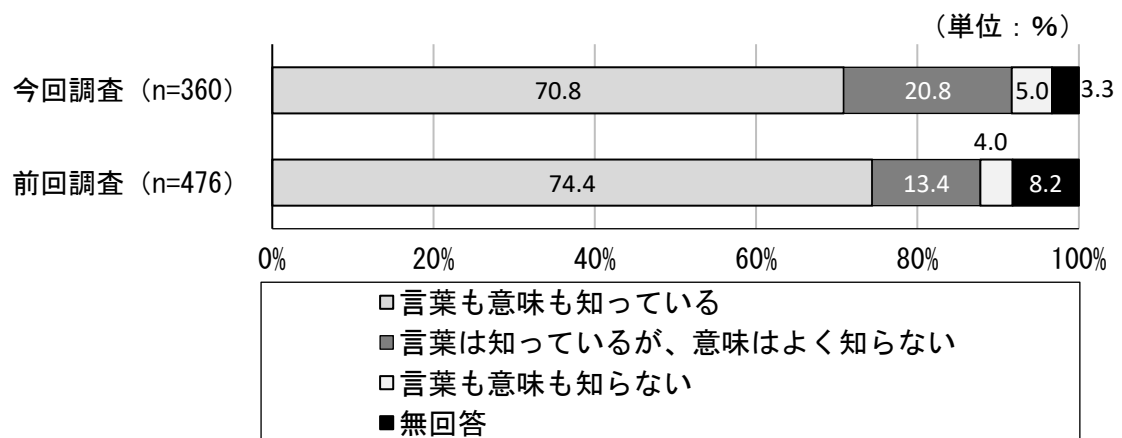
（３）学問の自由



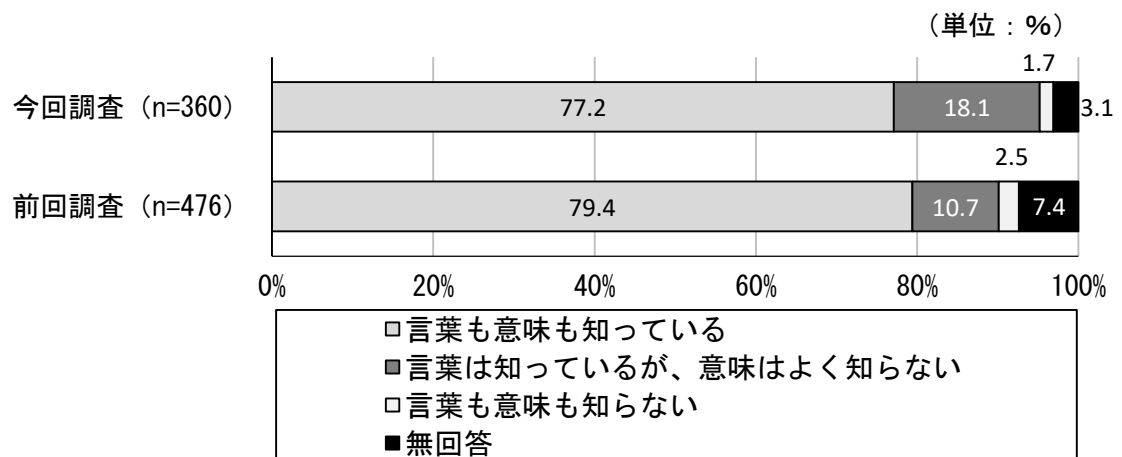
(4) 表現の自由



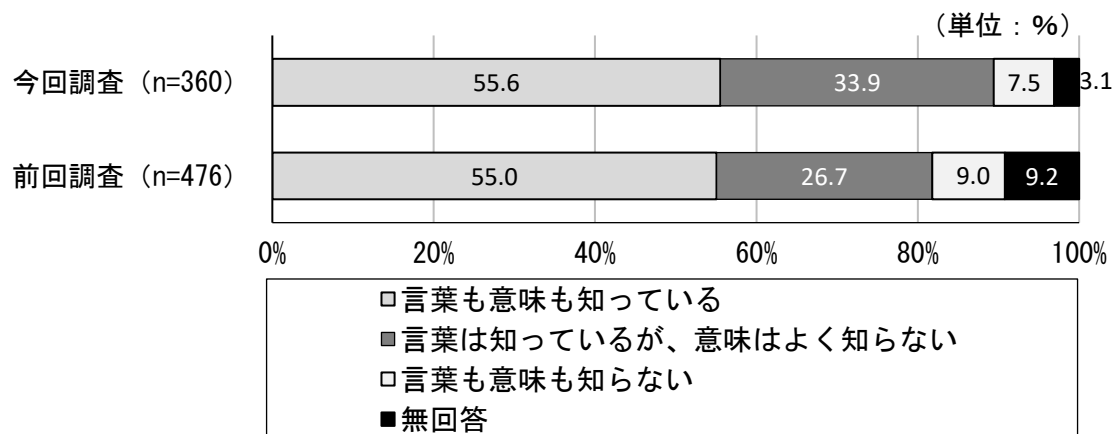
(5) 居住・移転の自由



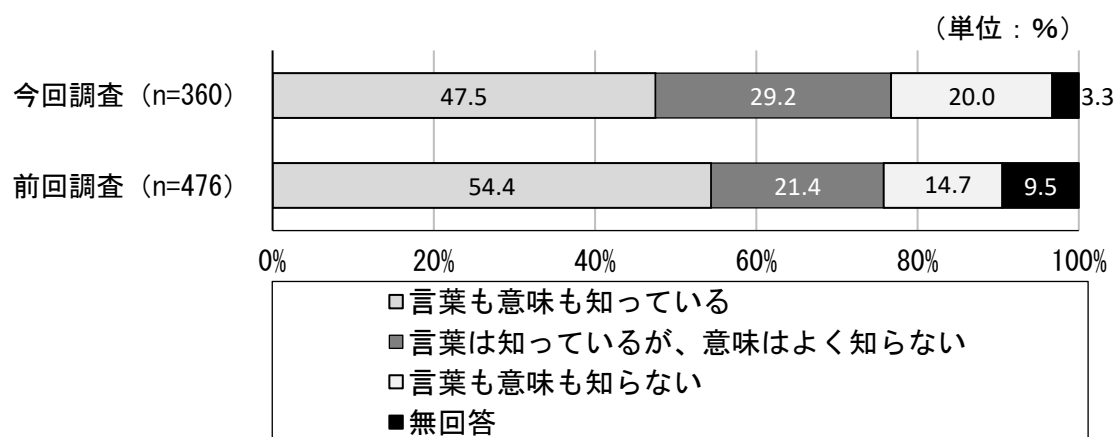
(6) 職業選択の自由



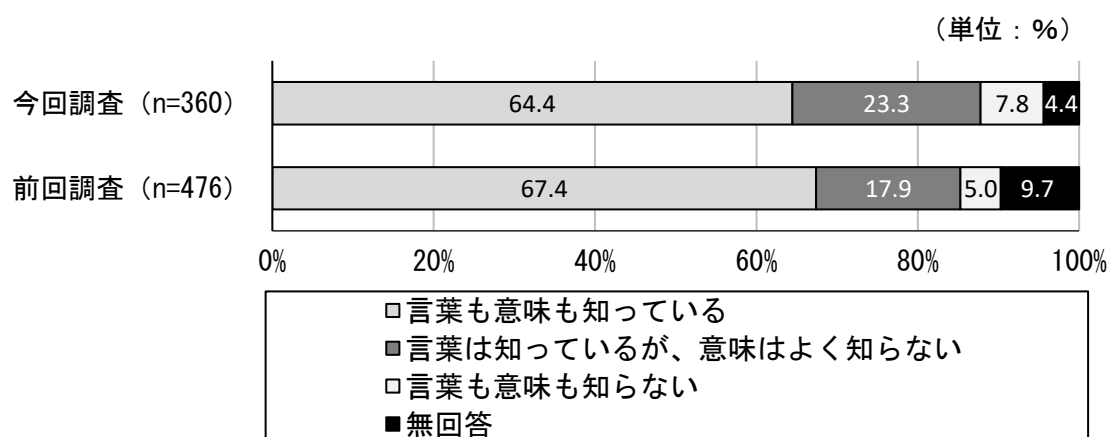
(7) 財産の保障



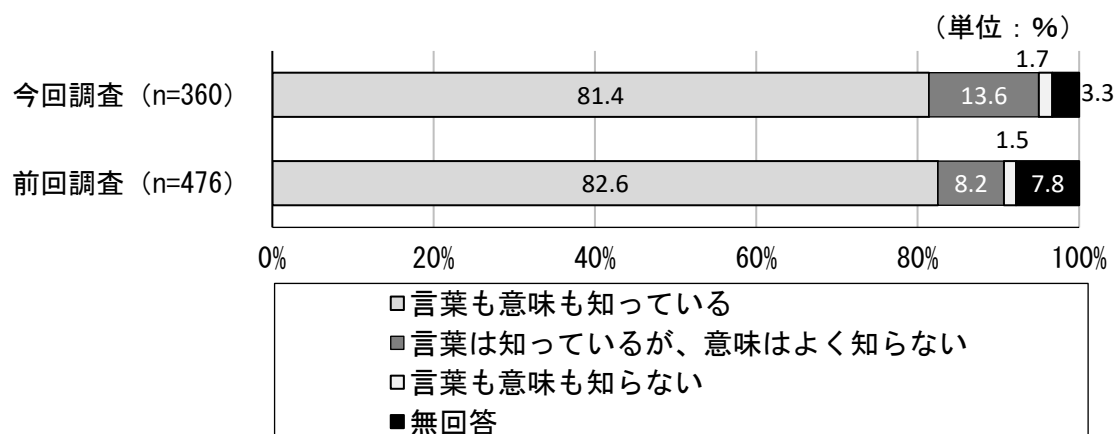
(8) 奴隷的拘束からの自由



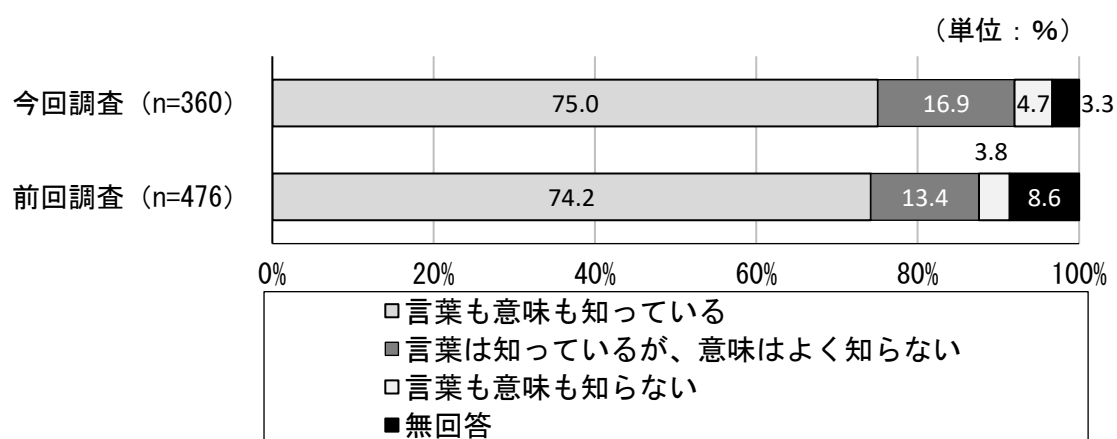
(9) 生存権



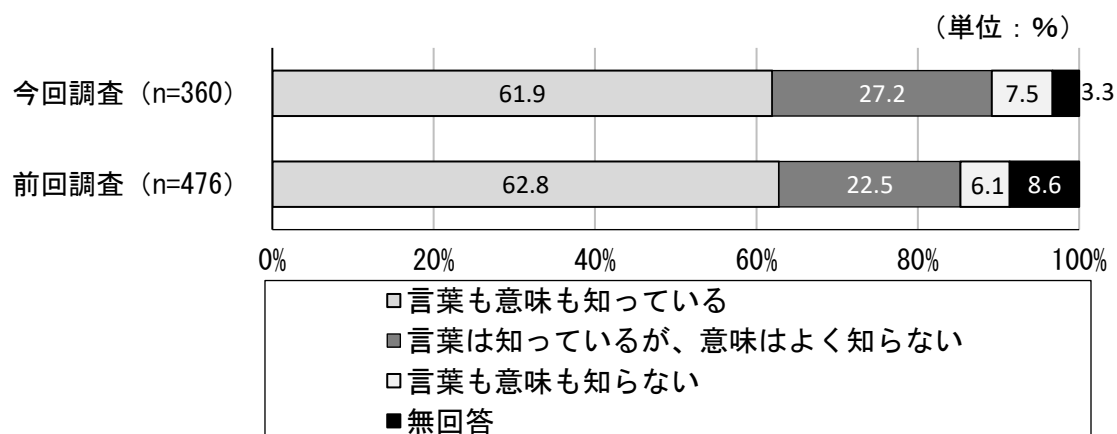
(10) 教育を受ける権利



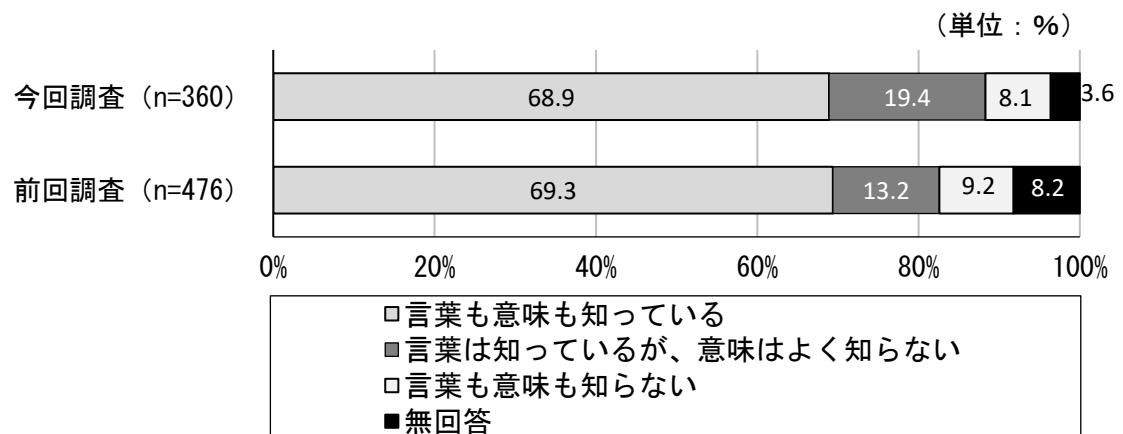
(11) 勤労の権利



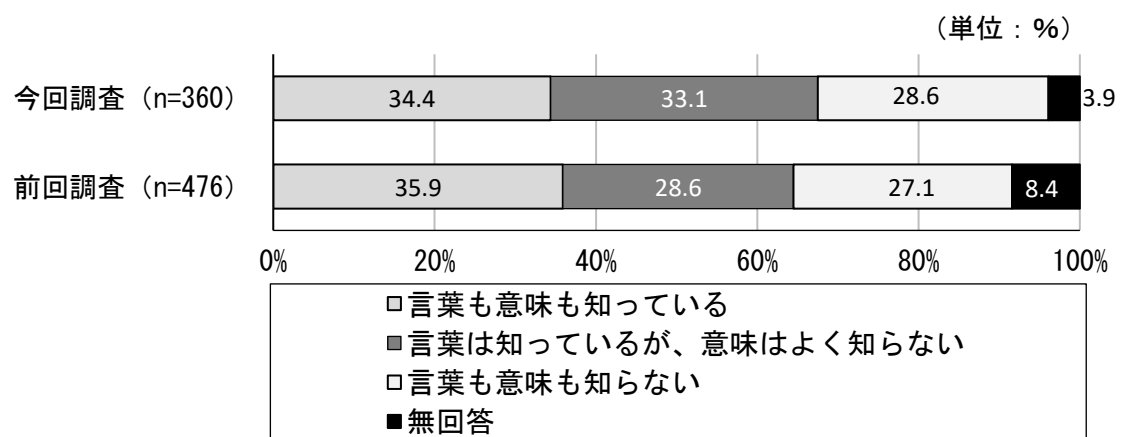
(12) 労働基本権



(13) 参政権



(14) 幸福追求権



2-9. 属性

(21) 性別

問 21 あなたの性別について（いずれか1つに○）

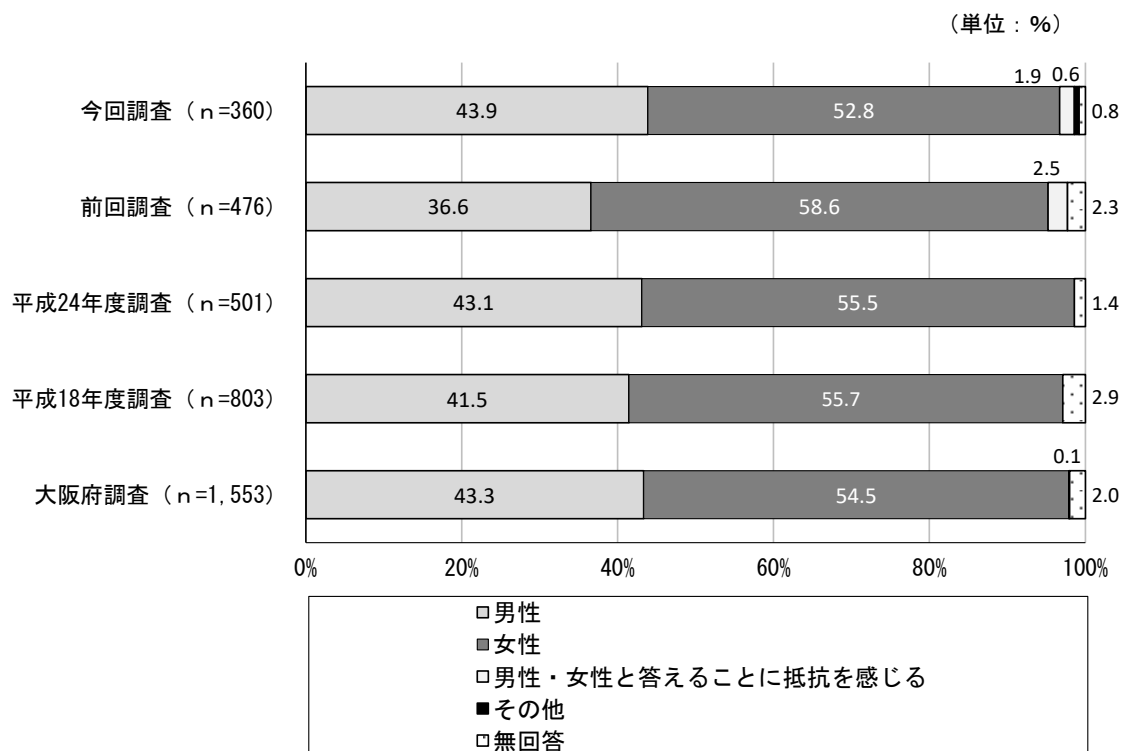
性別についてみると、「女性」が52.8%と最も高く、次いで「男性」が43.9%、「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」が1.9%の順となっている。

前回調査と比較すると、「女性」が今回調査52.8%、前回調査58.6%と、前回調査の方が5.8ポイント高くなっている。

平成24年度調査と比較すると、「女性」が今回調査52.8%、平成24年度調査55.5%と、平成24年度調査の方が2.7ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「女性」が今回調査52.8%、大阪府調査54.5%と、大阪府調査の方が1.7ポイント高くなっている。

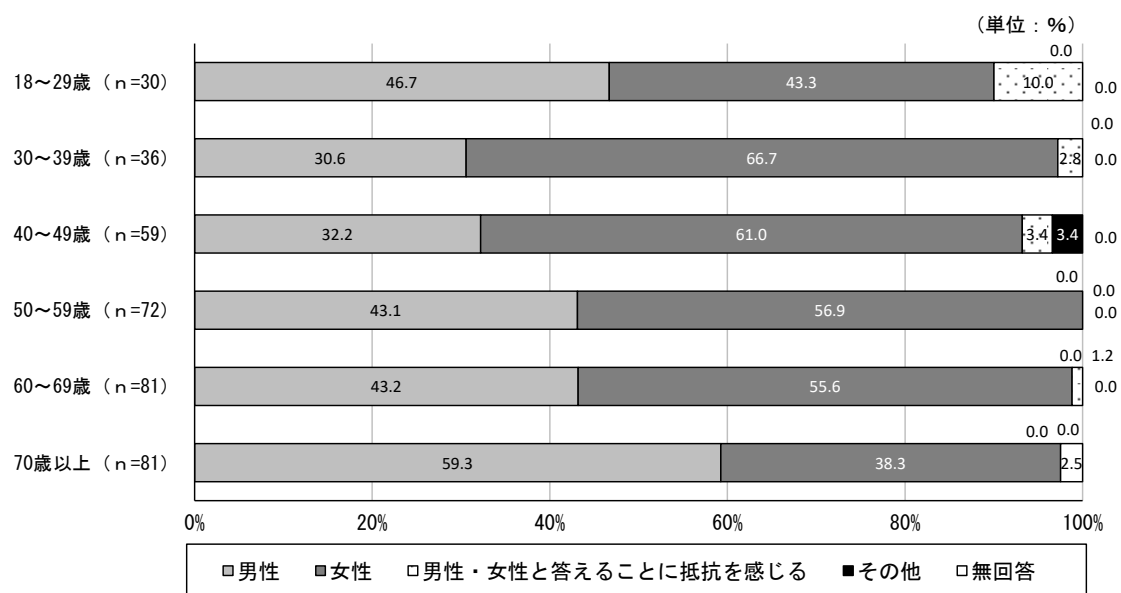
■性別



※前回調査では「その他」、平成18年度と平成24年度調査では「その他」と「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」、大阪府調査では「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」の選択肢がそれぞれなかった。

年齢別にみると、『70 歳以上』の「男性」が 59.3%と 6 割弱となっている。

■年齢別 性別



(22) 年齢

問 22 あなたの年齢について（いずれか1つに○）

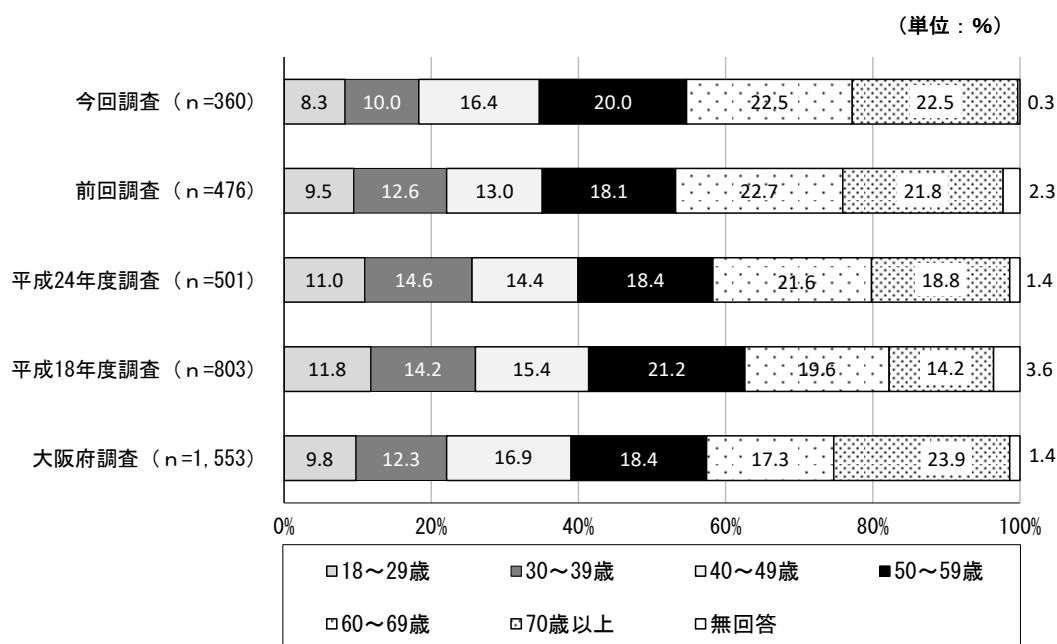
年齢についてみると、「70 歳以上」「60～69 歳」が共に 22.5%と最も高く、次いで「50～59 歳」が 20.0%、「40～49 歳」が 16.4%の順となっている。

前回調査と比較すると、「60～69 歳」が今回調査 22.5%、前回調査 22.7%と、ほぼ同じとなっている。

平成 24 年度調査と比較すると、「60～69 歳」が今回調査 22.5%、平成 24 年度調査 21.6%と、今回調査の方が 0.9 ポイント高くなっている。

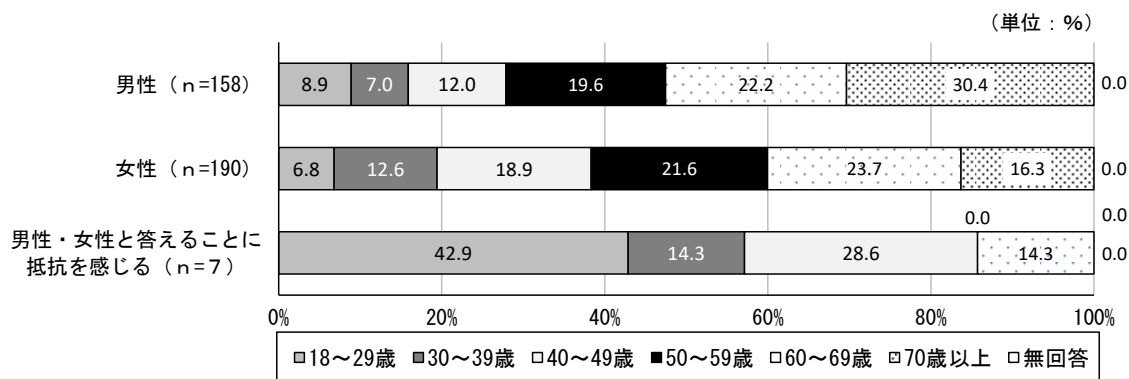
大阪府調査と比較すると、「60～69 歳」が今回調査 22.5%、大阪府調査 17.3%と、今回調査の方が 5.2 ポイント高くなっている。

■ 年齢



性別にみると、『男性』では「70 歳以上」が 30.4%、『女性』では「60～69 歳」が 23.7%と、最も高くなっている。

■性別 年齢



(23) 日常的に利用する主なメディア

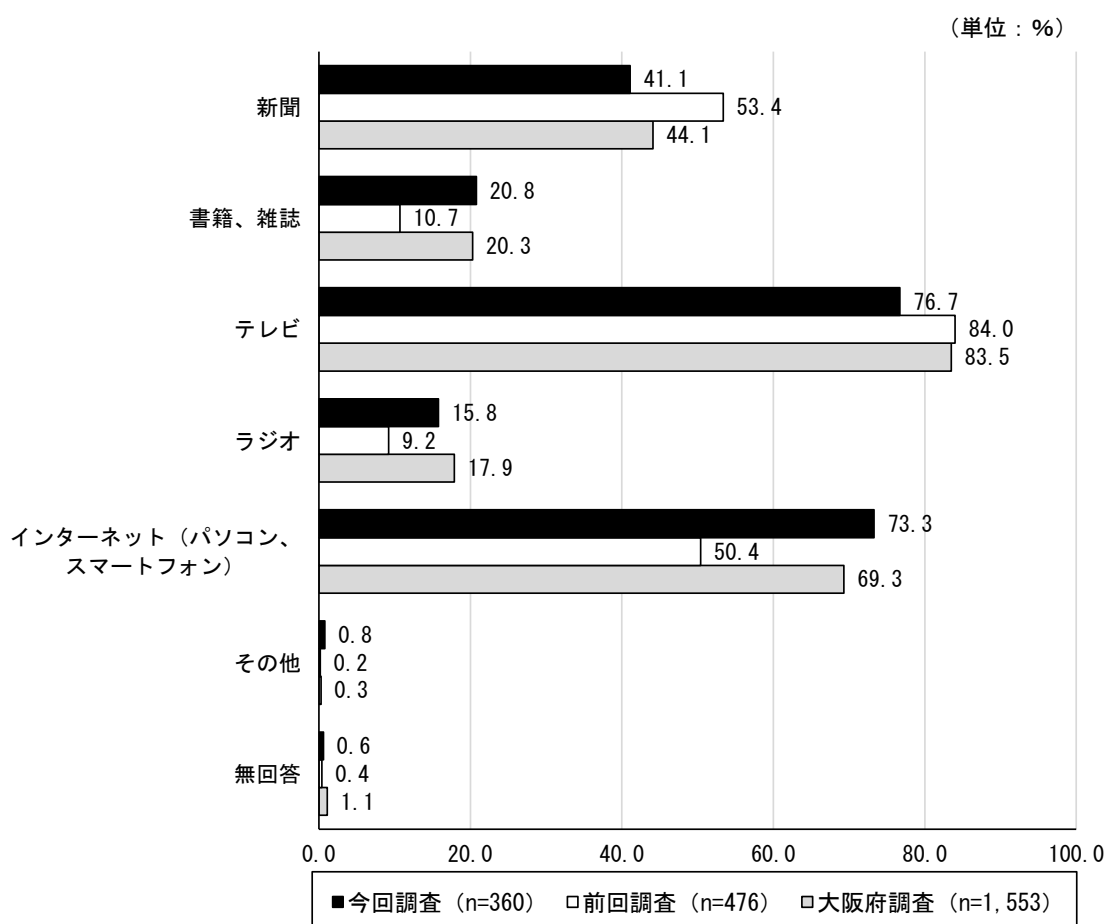
問 23 あなたが日常的に利用するメディアについて（〇はいくつでも）

日常的に利用する主なメディアについてみると、「テレビ」が76.7%と最も高く、次いで「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が73.3%、「新聞」が41.1%の順となっている。

前回調査と比較すると、「テレビ」が今回調査76.7%、前回調査84.0%と、前回調査の方が7.3ポイント高くなっている。

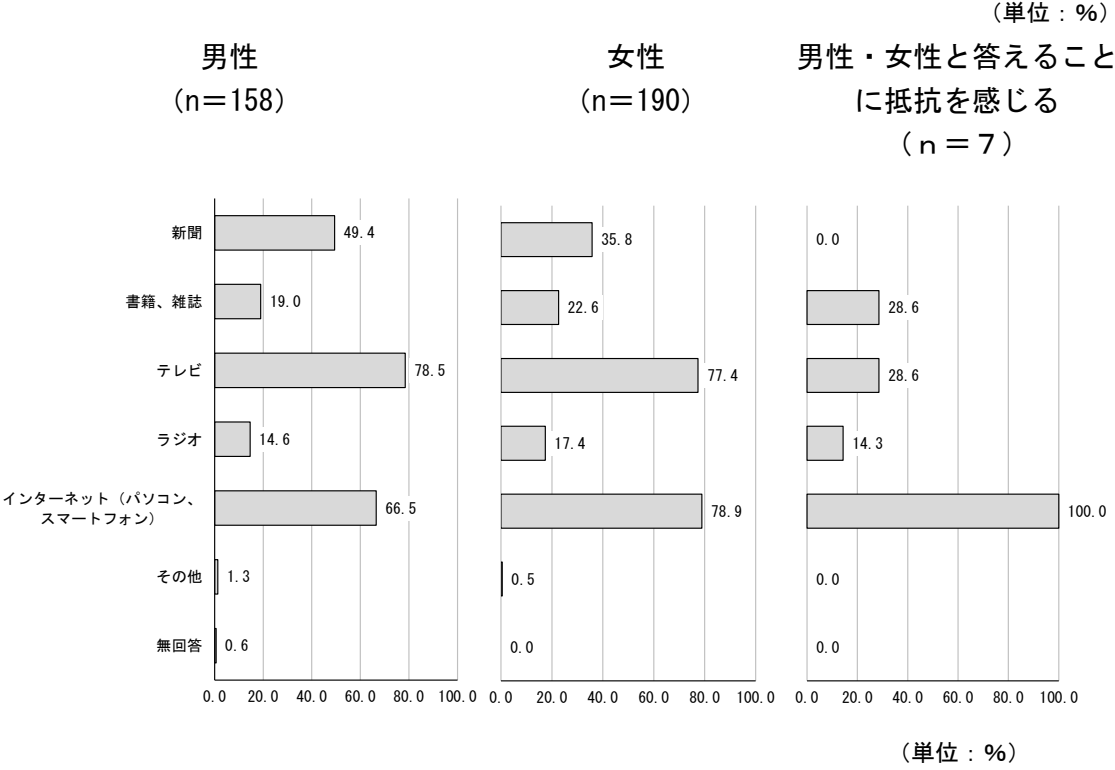
大阪府調査と比較すると、「テレビ」が今回調査76.7%、大阪府調査83.5%と、大阪府調査の方が6.8ポイント高くなっている。

■日常的に利用する主なメディア



性別にみると、『男性』と『女性』で「テレビ」がそれぞれ78.5%、77.4%とほぼ同じとなっている。

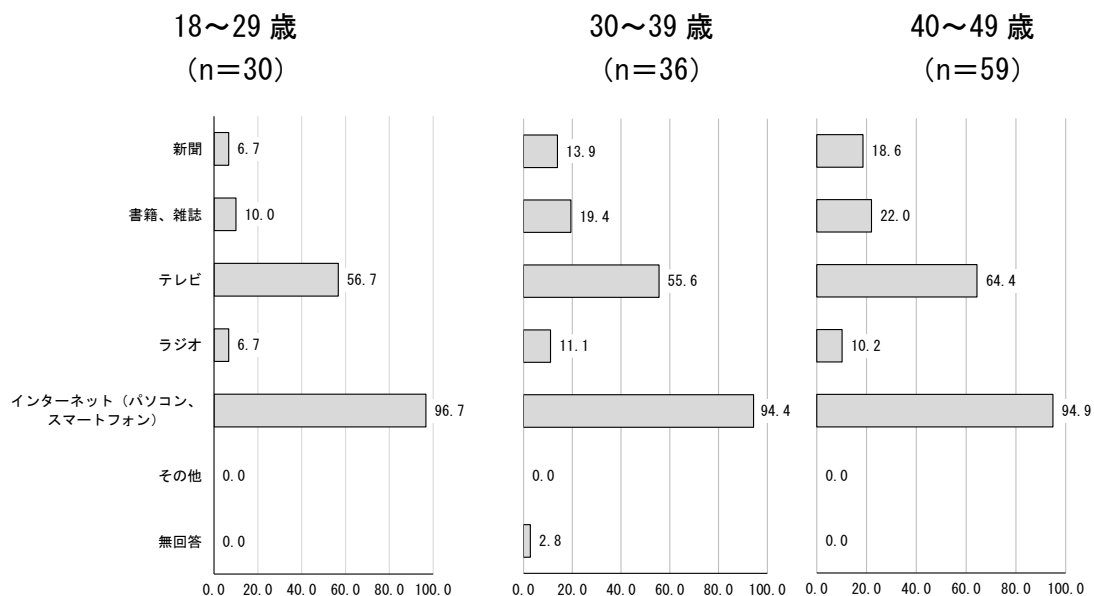
■性別 日常的に利用する主なメディア



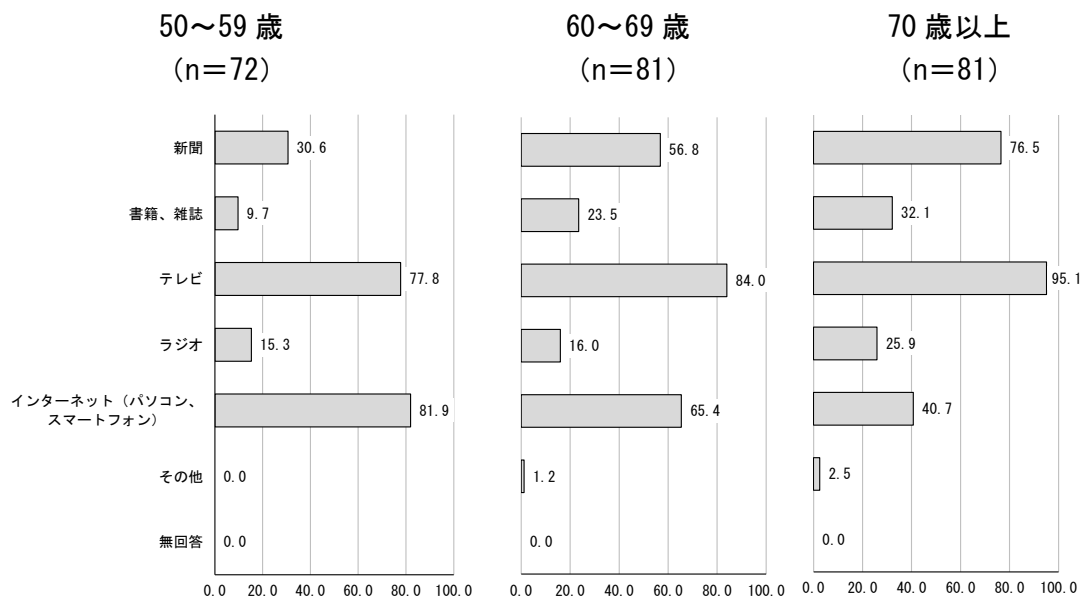
年齢別にみると、『60歳未満』で「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が最も高く、『60～69歳』『70歳以上』で「テレビ」がそれぞれ84.0%、95.1%と最も高く、8割を超えている。

■年齢別 日常的に利用する主なメディア

(単位：%)



(単位：%)



(24) 現在の暮らし向き

問 24 あなたの現在の暮らし向きについて（いずれか1つに○）

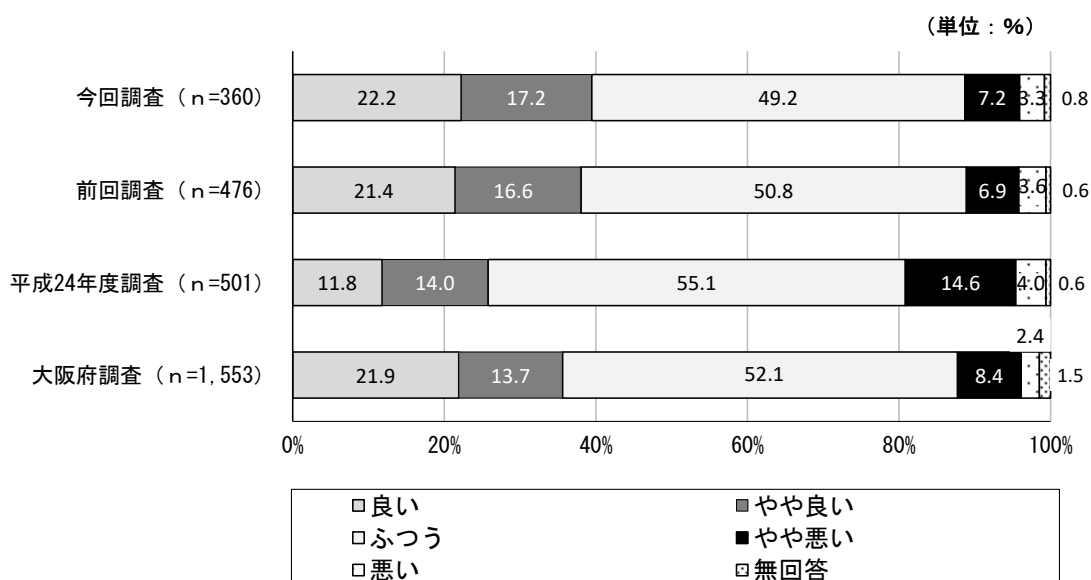
現在の暮らし向きについてみると、「ふつう」が 49.2%と最も高く、次いで「良い」が 22.2%、「やや良い」が 17.2%の順となっている。

前回調査と比較すると、「ふつう」が今回調査 49.2%、前回調査 50.8%と、前回調査の方が 1.6 ポイント高くなっている。

平成 24 年度調査と比較すると、「ふつう」が今回調査 49.2%、平成 24 年度調査 55.1%と、平成 24 年度調査の方が 5.9 ポイント高くなっている。

大阪府調査と比較すると、「ふつう」が今回調査 49.2%、大阪府調査 52.1%と、大阪府調査の方が 2.9 ポイント高くなっている。

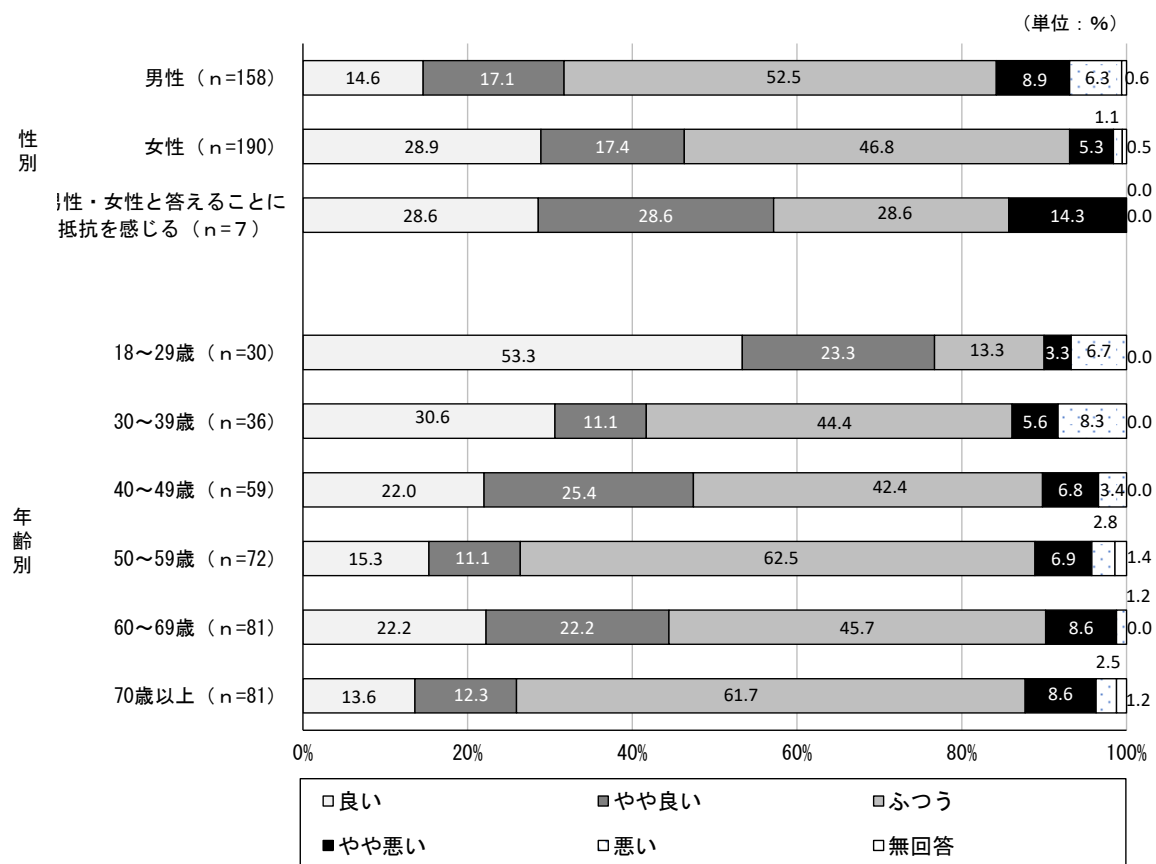
■現在の暮らし向き



性別にみると、『男性』で「ふつう」が52.5%、『女性』で同46.8%と、『男性』が5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『50～59歳』で「ふつう」が62.5%と最も高くなっている。

■性別 年齢別 現在の暮らし向き



(25) 自由意見

問 25 人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望があればご自由にお書きください。

回答総数 360 人中 67 人（18.6%）の意見・要望があり、内容は、おおむね以下のように分類できる。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれを 1 件として分類している。

●人権問題の中の逆差別について.....	10 件
●差別のない幸せな社会づくりについて.....	9 件
●このアンケート調査について.....	8 件
●家庭や教育機関等での人権問題について.....	8 件
●身の回りにある人権問題について.....	7 件
●一人一人が人権に対する意識や関心を持つことについて.....	6 件
●差別はなくならないことについて.....	4 件
●行政に対する意見について.....	4 件
●社会的弱者の人権問題について.....	3 件
●人権問題の難しさについて.....	2 件
●人権問題を問題化にすることについて.....	2 件
●その他.....	7 件

第3章 調査結果の比較・分析

3-1. 比較・分析の概要

今回調査の結果を前回調査及び大阪府調査との比較及びクロス集計など、いくつかの側面から分析を行った。

(1) いろいろな人権問題の認知（問1）

いろいろな人権問題の認知についてみると、「知っている」が9割を超えているのは、『(1) 女性の人権問題』(94.2%)、『(2) 子どもの人権問題』(95.8%)、『(3) 高齢者の人権問題』(94.7%)、『(4) 障がい者の人権問題』(92.8%)、『(14) セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント』(93.3%)の5項目となっている。(P 6 参照)

大阪府調査と比較すると、『(2) 子どもの人権問題』の「知っている」が今回調査の方が2割弱(17.0%)も高く、大阪府全体と比べて子どもの人権問題に関する関心の高さがうかがえる。(P 7 参照)

(2) 人権上問題があると思う行為（問2）

人権上問題があると思う行為に関して、逆に人権上「問題はないと思う」行為に焦点をあてると、『(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する』が43.1%と最も高く、次いで『(15) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会の役員が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる』が37.8%となっており、子どもの成育や人命に関することについては、ある程度の制約があっても問題はないと思っていることがうかがえる。(P 15 参照)

上記の項目について大阪府調査と比較すると、『(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する』については、「問題はないと思う」は大阪府調査の方が高いが、一方、『(15) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会の役員が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる』については今回調査の方が「問題はないと思う」が高くなっている。(P 16～P 21 参照)

(3) 家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件（問3）

家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件についてみると、物理的な立地条件以外では「地域のイメージ」が5割弱、「校区の教育水準や学力レベルの評判」が約2割、「近隣に同和地区があると言われていないか」が1割、また「近隣に低所得者が多いと言われていないか」と「近隣に外国籍住民が多いと言われていないか」がいずれも1割弱となっており、地域の教育環境やコミュニティ環境を重視していることがうかがえる。

前回調査と比較すると、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」「日照・眺望など」といった住生活上の利便性に関する項目が今回調査の方が高く、「周辺の住宅の状況(戸建て/集合、持ち家/賃貸など)」「地域のイメージ」といった住宅・住宅地の環境に関する項目が前回調査の方が高くなっている。(P 22 参照)

大阪府調査と比較すると、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」は大阪府調査の方が高い一方、「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」「日照・眺望など」は今回調査の方が高くなっている。（P22 参照）

年齢別にみると、「近隣に同和地区があると言われていないか」が『30～39 歳』で 16.7%、『50～59 歳』で同 15.3%、『60～69 歳』で同 12.3%と、これらの年齢層ではほかの年齢層より割合が高くなっている。（P24 参照）

（４）採用面接の質問で人権上問題があると思うこと（問４）＜複数回答＞

採用面接の質問で人権上問題があると思うことについてみると、「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」が 7 割弱と最も高く、逆に「尊敬する人物」は 1 割以下となっている。（P25 参照）

全体の平均回答個数をみると、11 個中 4.60 個であった。

性別にみると、『男性』が 4.46 個、『女性』が 4.76 個と、『女性』の方が 0.30 個多くなっている。

年齢別にみると、『40～49 歳』が 5.68 個と最も多く、次いで『60～69 歳』が 4.67 個、『30～39 歳』が 4.61 個の順となっている。一方、『70 歳以上』で 3.96 個と 4 個以下となっている。

■採用面接の質問で人権上問題があると思うこと（平均回答個数）

（単位：個）

	平均回答 個数
全体（n=360）	4.60

性別	男性（n=158）	4.46
	女性（n=190）	4.76
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる （n=7）	4.00

年齢別	18～29 歳（n=30）	4.30
	30～39 歳（n=36）	4.61
	40～49 歳（n=59）	5.68
	50～59 歳（n=72）	4.53
	60～69 歳（n=81）	4.67
	70 歳以上（n=81）	3.96

次に、回答個数ランク別に割合を見たものが下表である。

全体についてみると、「3～4個」が27.2%と最も高く、次いで「1～2個」が19.4%、「5～6個」が18.9%の順となっている。

性別にみると、『男性』で「3～4個」が31.6%、『女性』で同23.2%と、それぞれ最も高いが、『男性』の方が8.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『70歳以上』で「3～4個」が35.8%、『50～59歳』で同30.6%と、それぞれ3割を超えている。

■性別 年齢別 採用面接の質問で人権上問題があると思うこと（回答個数）

単位

上段：個数

下段：%

		n 数	1～2個	3～4個	5～6個	7～8個	9～10個	11個	無回答
全体（n=360）		360 100.0	70 19.4	98 27.2	68 18.9	64 17.8	23 6.4	14 3.9	23 6.4
性別	男性（n=158）	158 100.0	31 19.6	50 31.6	31 19.6	22 13.9	7 4.4	8 5.1	9 5.7
	女性（n=190）	190 100.0	35 18.4	44 23.2	35 18.4	40 21.1	16 8.4	6 3.2	14 7.4
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる（n=7）	7 100.0	1 14.3	4 57.1	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢別	18～29歳（n=30）	30 100.0	4 13.3	5 16.7	11 36.7	4 13.3	2 6.7	0 0.0	4 13.3
	30～39歳（n=36）	36 100.0	9 25.0	7 19.4	5 13.9	8 22.2	2 5.6	2 5.6	3 8.3
	40～49歳（n=59）	59 100.0	8 13.6	11 18.6	14 23.7	16 27.1	5 8.5	4 6.8	1 1.7
	50～59歳（n=72）	72 100.0	16 22.2	22 30.6	9 12.5	13 18.1	6 8.3	2 2.8	4 5.6
	60～69歳（n=81）	81 100.0	12 14.8	24 29.6	14 17.3	15 18.5	6 7.4	3 3.7	7 8.6
	70歳以上（n=81）	81 100.0	20 24.7	29 35.8	15 18.5	8 9.9	2 2.5	3 3.7	4 4.9

（５）結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと（問５）

＜複数回答＞

結婚相手などパートナーについて重視する（した）ことについてみると、「人柄や性格」が９割を超えており、「趣味や価値観」が７割弱で、それ以外の項目については４割以下となっている。（P29 参照）

平均回答個数についてみると、全体で 11 個中 3.81 個となっている。

性別にみると、『男性』で 3.30 個、『女性』で 4.19 個と、『女性』の方が 0.89 個多くなっている。

年齢別にみると、『30～39 歳』が 4.39 個と最も多く、次いで『40～49 歳』が 4.20 個、『60～69 歳』が 4.07 個の順となっている。一方、『50～59 歳』では 3.29 個と最も少なくなっている。

■結婚相手などパートナーについて重視する（した）こと

（平均回答個数）

（単位：個）

	平均回答 個数
全体（n=360）	3.81

性別	男性（n=158）	3.30
	女性（n=190）	4.19
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる （n=7）	4.57

年齢別	18～29 歳（n=30）	3.77
	30～39 歳（n=36）	4.39
	40～49 歳（n=59）	4.20
	50～59 歳（n=72）	3.29
	60～69 歳（n=81）	4.07
	70 歳以上（n=81）	3.46

（６）結婚の合意についての考え（問６）

結婚の合意についての考えについて、性別にみると、『男性』で「当人どうしの合意があればよい」（54.4%）が最も高くなっている。一方、『女性』で「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」（57.4%）が最も高くなっており、『女性』の方が周辺の人々のことも考慮する度合いがやや高いと言える。（P33 参照）

性別×年齢別にみると、『男性』は『40～49歳』で「当人どうしの合意があればよい」が78.9%と他の年齢層と比べて最も高くなっている。

『女性』は『18～29歳』で「当人どうしの合意があればよい」が61.5%と他の年齢層と比べて最も高くなっており、当人どうしの合意を重視しているのは、若い『女性』の方が高くなっている。

■結婚の合意についての考え（性別×年齢別）

		n 数	当 人 ど う し の 合 意 が あ る	周 圍 の 人 の 意 見 も 、 ど ち ら も 大 事 だ	当 人 ど う し の 合 意 も 、 周 圍 の 人 の 意 見 も 大 事 だ	当 人 ど う し の 合 意 も 大 事 だ	そ の 他	無 回 答
男 性	全 体	158 100.0	86 54.4	70 44.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.3
	18～29歳	14 100.0	7 50.0	6 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1
	30～39歳	11 100.0	4 36.4	7 63.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	19 100.0	15 78.9	4 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	31 100.0	15 48.4	16 51.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	35 100.0	21 60.0	14 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	48 100.0	24 50.0	23 47.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.1

女 性	全 体	190 100.0	75 39.5	109 57.4	2 1.1	1 0.5	3 1.6
	18～29歳	13 100.0	8 61.5	5 38.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	24 100.0	5 20.8	18 75.0	1 4.2	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	36 100.0	10 27.8	25 69.4	0 0.0	1 2.8	0 0.0
	50～59歳	41 100.0	20 48.8	20 48.8	1 2.4	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	45 100.0	19 42.2	25 55.6	0 0.0	0 0.0	1 2.2
	70歳以上	31 100.0	13 41.9	16 51.6	0 0.0	0 0.0	2 6.5

こ と に 抵 抗 を 感 じ る 男 性 ・ 女 性	全 体	7 100.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	18～29歳	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

（７）障がいのある人に関する人権問題（問７）

障がいのある人に関する人権問題の９つの項目について、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は『（３）障がいのない子どもたちと一緒に学ぶ環境整備など、学校の受け入れ体制が十分でない』（79.1%）を除いてすべて８割以上となっており、これらの項目は、障がいのある人に関する人権問題として高い関心のある項目といえる。（P34 参照）

（８）日本に居住している外国人に関する人権問題（問８）

日本に居住している外国人に関する人権問題について、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）が８割を超えている項目は、『（１）就職や仕事の内容・待遇などにおいて不利な条件に置かれる』（87.3%）、『（２）賃貸住宅などの申込みや入居において不利な扱いを受ける』（83.6%）、『（３）宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される』（91.1%）、『（６）文化や生活習慣の違いを理由とする嫌がらせを受ける』（93.6%）、『（８）特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）を受ける』（93.3%）の５項目となっており、就職、居住、宿泊といったことやヘイトスピーチといったことがあげられている。

一方、“仕方ない”（「仕方ない」＋「どちらかと言えば仕方ない」）が高い項目としては、『（５）子どもに対して、自国の文化や生活習慣に合った教育が行われにくい』（28.1%）、『（９）政治に意見が十分反映されない』（20.3%）、などそれぞれの国の文化や生活習慣、政治に関することがあげられている。（P35 参照）

（９）部落差別（同和問題）に関する人権問題（問９）

部落差別（同和問題）に関する人権問題について、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）が９割を超えているのは『（１）就職の時や職場で不利な扱いを受ける』（92.0%）、『（２）地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受ける』（93.4%）、『（５）インターネット上に誹謗中傷等が掲載される』（94.1%）、『（６）インターネット上に同和地区と呼ばれる地域の所在地リストや動画・写真などが掲載される』（92.2%）、『（７）（１）～（６）のほか、差別的言動をされる』（92.5%）、『（８）同和問題を口実とする企業や官公庁等に対する不当な要求（えせ同和行為）が行われる』（91.7%）の６項目となっており、就職や就労、地域活動、インターネット上の誹謗中傷などといったことがあげられている。

一方、“仕方ない”（「仕方ない」＋「どちらかと言えば仕方ない」）が他と比べて高い項目としては、『（３）身元調査をされる』（7.5%）、『（４）行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせる』（11.7%）、となっており、過去の時代に一部で行われたことがやや現在にも引きずっている感がうかがえる。（P36 参照）

(10) 性的マイノリティに関する人権問題（問 10）

性的マイノリティに関する人権問題について、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）が8割を超えているのは『（2）学校や職場などで嫌がらせやいじめを受ける』（92.8%）、『（3）就職の時や職場で不利な扱いを受ける』（91.7%）、『（5）賃貸住宅などへの入居を拒否される』（90.0%）、『（6）宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される』（89.7%）、『（7）本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められる（アウティング）』（91.6%）、『（9）じろじろ見られたり、避けられたりする』（82.8%）の6項目となっており、学校や職場での出来事、居住施設や宿泊施設での拒否、対人関係に関することがあげられている。

一方、“仕方ない”（「仕方ない」＋「どちらかと言えば仕方ない」）が他と比べて高い項目としては、『（1）性的マイノリティへの理解や認識が不足している』（17.7%）、『（4）性的マイノリティに対する相談や支援体制が十分でない』（10.8%）、『（8）パートナーがいても、婚姻と同等に扱われない』（16.7%）など性的マイノリティに関する理解や対応、パートナー関係といったことがあげられている。（P37 参照）

(11) 法律や条例制度の認知（問 11）

法律や条例制度の認知について、選択肢に挙げている8項目について尋ねたところ、全ての項目で「知らない」が4割を超えており、なかでも『（4）大阪府性の多様性理解増進条例』（74.4%）、『（5）大阪府パートナーシップ宣誓証明制度』（62.5%）、『（7）富田林市男女が共に生きやすい社会づくりを推進する条例』（57.2%）、『（8）富田林市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度』（68.3%）は、5割以上が「知らない」としている。

一方、「内容（趣旨）を知っている」がやや高い項目としては、『（1）障害者差別解消法』（10.8%）、『（2）ヘイトスピーチ解消法』（11.7%）、『（3）部落差別解消推進法』（13.9%）となっているが、これらについても1割をやや超えている状況である。（P38 参照）

(12) インターネットに関する人権問題（問 12）

インターネットに関する人権問題について、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は全ての項目において約8割を超えているが、その中で9割を超えているのは、『（1）プライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載される』（96.4%）、『（2）フェイクニュース（真実ではない情報）や誤った情報が拡散される』（94.2%）、『（3）SNS（LINE や Twitter など）による交流が犯罪を誘発する場となっている』（93.3%）、『（5）インターネットが悪質商法の取引の場となっている』（93.6%）、『（6）子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している』（95.0%）、『（7）差別を助長するような情報が掲載される』（95.0%）、『（8）わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載される』（93.1%）の7項目になっており、概してプライバシー、フェイクニュース、悪質商法、差別、わいせつといったことについて強い懸念がうかがえる。

一方、“あってはならない”が9割未満となっているのは『(4) 書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要する』(79.7%)、『(9) 捜査対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載される』(82.2%)、『(10) 問題のある情報がインターネット上に掲載されると削除や訂正に時間がかかる』(85.0%)で、概してインターネットの匿名性や拡散性といったことがあげられる内容となっている。(P40 参照)

(13) 人権や差別についての考え (問 13)

差別に関する基本的な考えについて、『(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』は“そう思う”(「そう思う」+どちらかと言えばそう思う)が 93.3%、『(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある』は同 90.3%、『(3) 差別問題に関心ない人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である』は同 86.1%の順となっている。(P41 参照)

人権や差別についての考えに関して、3点満点で点数化を行った。(P104 参照)

—点数化の方法について—

質問項目において、差別に反対し、人権を尊重する意識が高いかどうかを判断するための質問も含まれているため、『(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』、『(3) 差別問題に関心ない人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である』、『(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある』、『(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ』、『(9) 差別は法律で禁止する必要がある』、『(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である』については、「そう思う」を3点、「ややそう思う」を2点、「あまりそう思わない」を1点、「そう思わない」を0点とした。

また、『(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ』、『(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い』、『(6) どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ』、『(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる』、『(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない』については、「そう思わない」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「ややそう思う」を1点、「そう思う」を0点とした。

なお、「わからない」及び無回答はn数から除外して点数化を行っている。

性別にみると、『男性』で『(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い』が1.88点、『女性』で同2.24点と『女性』の方が0.36点高くなっている。

年齢別にみると、『40～49歳』で『(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない』で2.79点と最も高くなっている。

また、全ての質問項目の合計した点数でみると、『40～49歳』で24.15点と最も高く、次いで『60～69歳』で23.97点、『50～59歳』で23.71点の順となっている。

人権についての考え方（問 19）の『非常に大切なことだと認識している』、『あまり意識したことがない』についてみると、『（１）差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』では、それぞれ 2.75 点、2.63 点と、最も高くなっている。

また、全ての質問項目の合計した点数でみると、『非常に大切なことだと認識している』が 24.66 点と最も高く、次いで『あまり意識したことがない』が 22.54 点、『自分には関係がないと思っている』が 21.16 点の順となっている。

前回調査と比較すると、『（１）差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』、『（３）差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である』以外の質問項目で点数が高くなっている。

大阪府調査と比較すると、『（６）どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ』が 0.95 点と同点である以外、すべての質問項目で今回調査の方が点数が高くなっている。（P104 参照）

■人権についての考え方（点数化）

		(1) 差別は人として 私たちが一人ひと りとして恥ずべき 行為であり、なら なければならな い	(2) 世の中に受ける 人への差別は、ま ず、自分たちが 必要である	(3) 差別問題に無関 心な人にも、差 別問題について きちんと理解し てもらうことが 必要である	(4) 差別の原因には 、差別される人 の側に問題があ ることも多い	(5) 差別をなくすた めに、行政は努 力する必要がある	(6) 差別を完全にな くすることは無 理だ	(7) 差別を受けてき た人に対しては 、解消するために 行政の支援が必 要だ	(8) 差別に対して抗 議や反対をする ことは、かえっ て問題が解決し にくくなる	(9) 差別は法律で禁 止する必要がある	(10) 差別を受けた人 との交流や、協 働を進めていく ことは重要であ る	(11) 人権問題とは、 差別を受ける人 の側の問題であ って、自分には 関係がない	点数合計
全体（今回調査）	回答者数 点数	349 2.66	320 1.84	338 2.39	310 2.06	340 2.55	330 0.95	315 2.35	273 1.67	274 2.03	305 2.40	323 2.61	- 23.51
性別													
男性	回答者数 点数	154 2.60	145 1.72	149 2.39	142 1.88	149 2.58	150 0.98	145 2.35	134 1.60	130 2.09	140 2.35	144 2.53	- 23.07
女性	回答者数 点数	184 2.72	163 1.96	177 2.42	160 2.24	179 2.53	168 0.95	161 2.39	129 1.80	134 2.02	155 2.46	168 2.68	- 24.17
男性・女性と答えることに 抵抗を感じる	回答者数 点数	6 2.17	7 1.86	7 1.86	5 2.00	7 2.57	7 0.43	6 2.00	6 1.00	6 1.17	5 2.00	7 2.57	- 19.63
年齢別													
18～29歳	回答者数 点数	30 2.57	30 2.17	30 2.37	28 2.21	30 2.67	30 0.87	28 2.43	24 1.32	27 1.78	25 2.56	28 2.36	- 23.31
30～39歳	回答者数 点数	32 2.69	33 1.76	34 2.41	32 1.81	34 2.41	34 0.47	29 2.38	22 1.85	22 1.86	28 2.50	33 2.39	- 22.53
40～49歳	回答者数 点数	59 2.68	55 2.13	58 2.48	51 2.27	59 2.59	55 1.00	53 2.23	48 1.74	43 1.95	51 2.29	57 2.79	- 24.15
50～59歳	回答者数 点数	70 2.63	60 1.90	68 2.51	57 2.12	64 2.63	64 0.80	59 2.42	50 1.60	54 2.06	61 2.38	61 2.66	- 23.71
60～69歳	回答者数 点数	78 2.63	71 1.79	76 2.38	74 2.19	79 2.51	76 1.12	72 2.31	62 1.79	65 2.14	72 2.46	74 2.65	- 23.97
70歳以上	回答者数 点数	79 2.75	70 1.51	71 2.24	67 1.75	73 2.52	70 1.14	73 2.41	66 1.46	62 2.15	67 2.34	69 2.58	- 22.85
人種や差別についての考え方別													
非常に大切なことだと 認識している	回答者数 点数	197 2.75	187 1.88	192 2.51	181 2.15	195 2.66	187 1.12	184 2.45	166 1.84	166 2.13	185 2.47	191 2.70	- 24.66
自分には関係がないと 思っている	回答者数 点数	4 2.25	3 1.33	4 2.00	4 2.00	3 2.33	4 1.25	4 2.25	4 1.75	4 2.00	4 1.75	4 2.25	- 21.16
あまり意識したことがない	回答者数 点数	105 2.63	90 1.90	100 2.31	84 2.08	100 2.44	97 0.77	87 2.28	69 1.42	69 1.90	82 2.27	90 2.54	- 22.54
きれいごとや建て前の話 でしかない	回答者数 点数	15 2.20	13 1.69	15 1.73	14 1.50	16 2.00	15 0.20	15 2.00	13 0.92	13 1.62	13 2.15	15 2.53	- 18.54
「人権」という言葉を聞くと やっかいなものと感じる	回答者数 点数	12 2.00	12 1.50	12 2.00	11 1.18	10 2.40	12 0.42	10 2.00	9 1.33	10 2.10	9 2.67	10 2.10	- 19.70
その他	回答者数 点数	6 3.00	5 1.80	5 2.60	6 2.17	6 2.67	5 0.80	6 2.33	4 2.25	5 1.80	5 2.80	5 2.20	- 24.42
前回調査、大阪府調査との比較													
前回調査	回答者数 点数	446 2.67	401 1.57	429 2.41	383 1.84	476 2.43	439 0.93	416 2.09	423 1.37	-	-	-	- 15.31
大阪府調査	回答者数 点数	1,493 2.60	1,368 1.77	1,456 2.34	1,332 1.98	1,409 2.45	1,365 0.95	1,288 2.09	1,206 1.56	1,197 1.92	1,309 2.30	1,363 2.58	- 22.54

* 前回調査は、(9) から (11) の設問が設定なしとなっている。

** 回答者数は、「わからない」と無回答を除いた数としている。

(14) 人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無（問 14）

人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無について、“見聞きする”（「よく見聞きする」＋「たまに見聞きする」）が5割を超えているのは、『（1）啓発ポスターや街頭での啓発』（65.8%）、『（2）新聞、テレビ、ニュース等に取り上げられた啓発活動』（71.4%）、『（3）市の広報誌、啓発冊子（リーフレットなど）や教材』（53.6%）の3項目になっており、概して市が発行する紙媒体やマスコミといったものとなっている。

一方、“見聞きしない”（「ほとんど見聞きしない」＋「あまり見聞きしない」）が6割を超えているのは、上記以外の全ての項目（6項目）となっており、なかでも『（9）戸籍謄本や住民票を第三者に交付した時に事前に登録した本人にお知らせする制度（本人通知制度）』は82.2%と8割を超えている。（P46 参照）

(15) 学校で人権学習を受けたことの有無（問 15）

学校で人権学習を受けたことの有無について、「小学校で受けた」が最も高い項目は『（3）部落差別（同和問題）』（37.2%）、「中学校で受けた」が最も高い項目も『（3）部落差別（同和問題）』（29.2%）で、義務教育中に部落差別問題の人権学習を最もよく受けていることが分かる。

一方、「高校で受けた」や「大学、短大、専門学校で受けた」はいずれの項目も1割以下となっており、あまり高くないといえる。（P50 参照）

(16) 最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無（問 16）

最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無については、5項目とも「参加したことがない」が8割を超えており、イベント系の催しへの参加状況の低さがうかがえる。

「1回だけ参加した」は全ての項目について10%未満、「2～4回くらい参加した」及び「5回以上参加した」は全ての項目について5%未満となっており、参加状況は極めて低いといえる。（P53 参照）

(17) 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無（問 17）

最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無について、「ある」（26.4%）と「ない」（63.6%）の割合は3：6となっており、「ない」は「ある」の約2倍となっている。

また、「ある」について、前回調査（36.1%）より低くなっていること、大阪府調査（33.8%）よりは低く、人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたりする機会が減少しているといえる。（P56 参照）

(17-1) 人権侵害の事象分野 (問 17-1)

人権侵害の事象分野について、今回調査のみならず、前回調査や大阪府調査でも「セクハラ、パワハラ」が2割以上で他の選択肢と比べて非常に高くなっている。

選択肢のうちで上記以外で5%以上のものをみると、「女性」(13.7%)、「子ども」(7.4%)、「障がい者」(5.3%)、「新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等やその家族」(5.3%)となっており、女性、子ども、障がい者への人権侵害がやや目に付く。(P58 参照)

(17-2) 人権侵害の内容 (問 17-2)

人権侵害の内容について、性別にみると、『男性』で「職場におけるハラスメント」が53.3%と最も高く、次いで「差別的な扱い」が13.3%、「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が10.0%の順となっている。

『女性』で「職場におけるハラスメント」が34.4%と最も高く、次いで「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が14.8%、「差別的な扱い」が6.6%の順となっている。(P62 参照)

年齢別にみると、『18～29 歳』で「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が33.3%、『30～39 歳』で「職場におけるハラスメント」が53.3%、『40～49 歳』で同41.7%、『50～59 歳』で同57.9%、『60～69 歳』で同33.3%が最も高くなっている。一方、『70 歳以上』で「差別的な扱い」、「育児や介護の放棄・放任」がいずれも28.6%で最も高くなっている。(P63 参照)

人権侵害の事象分野別に内容をみると、『子ども』で「育児や介護の放棄・放任」が42.9%と最も高く、次いで「学校・地域における嫌がらせやいじめ」が28.6%、「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」、「虐待」が14.3%の順となっている。

『女性』で「職場におけるハラスメント」が61.5%と最も高く、次いで「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が15.4%、「DV」が7.7%の順となっている。(P107 参照)

■人権侵害の事象分野別 人権侵害の内容

	n 数	差 別的 な 扱 い	学 校、 地 域 に お け る 嫌 が ら せ や い じ め	学 校、 地 域 に お け る 嫌 が ら せ や い じ め	差 別的 な 言 動、 誹 謗 中 傷、 あ ら ぬ う わ さ	育 児 や 介 護 の 放 棄・ 放 任	虐 待	暴 力 行 為、 脅 迫、 強 要	D V (配 偶 者 や パ ー ト ナ ー 間 に お け る 暴 力)	職 場 に お け る ハ ラ ス メ ン ト (セ ク ハ ラ・ パ ワ ハ ラ 等)	プ ラ イ バ シ ー の 侵 害	イ ン タ ー ネ ッ ト に よ る 人 権 侵 害	そ の 他	答 え た く な い	無 回 答
全 体	95 100.0	9 9.5	3 3.2	12 12.6	3 3.2	2 2.1	1 1.1	1 1.1	1 1.1	39 41.1	1 1.1	1 1.1	4 4.2	3 3.2	16 16.8
女性	13 100.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 7.7	8 61.5	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7
子ども	7 100.0	0 0.0	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
高齢者	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
障がい者	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
部落差別（同和問題）	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
日本に居住している外国人	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
H I V陽性者、ハンセン病回復者 及びその家族	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
こころの病に関する人権問題	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
犯罪被害者やその家族	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ホームレス	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性的マイノリティ	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
職業や雇用をめぐる人権問題	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
セクハラ・パワハラ	32 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.1	0 0.0	0 0.0	1 3.1	0 0.0	0 0.0	26 81.3	1 3.1	0 0.0	1 3.1	1 3.1	1 3.1
ヘイトスピーチ	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
新型コロナウイルス感染症感染者や回復者 並びに医療従事者等やその家族	5 100.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
無回答	16 100.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	1 6.3	13 81.3

(17-3) 人権侵害が自身へのものかどうかの有無 (問 17-3)

人権侵害が自身へのものかどうかの有無について、性別にみると、『男性』で「はい」が23.3%、『女性』で同27.9%と『男性』の方が4.6ポイント低くなっている。

年齢別にみると、「はい」が『30～39歳』で40.0%と最も高く、次いで『60～69歳』で同38.1%、『18～29歳』で同33.3%の順となっている。(P65参照)

性別×年齢別にみると、『男性』で『50～59歳』の「はい」が12.5%と最も低くなっている。『女性』で、『40～49歳』の「はい」が10.5%と最も低くなっている。(下表参照)

■性別×年齢別 人権侵害が自身へのものかどうかの有無

		n 数	はい	いいえ	無回答
男性	全 体	30 100.0	7 23.3	21 70.0	2 6.7
	18～29歳	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	30～39歳	5 100.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0
	40～49歳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	50～59歳	8 100.0	1 12.5	6 75.0	1 12.5
	60～69歳	9 100.0	2 22.2	7 77.8	0 0.0
	70歳以上	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0

女性	全 体	61 100.0	17 27.9	44 72.1	0 0.0
	18～29歳	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0
	30～39歳	10 100.0	4 40.0	6 60.0	0 0.0
	40～49歳	19 100.0	2 10.5	17 89.5	0 0.0
	50～59歳	11 100.0	2 18.2	9 81.8	0 0.0
	60～69歳	12 100.0	6 50.0	6 50.0	0 0.0
	70歳以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0

男性・女性に 抵抗を感じる	全 体	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0
	18～29歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	30～39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(17－4) 自身のものであったときの対応（問 17－3 a）

自身のものであったときの対応についてみると、「我慢した」（48.0％）が約5割となっており、「抗議、反論した」（20.0％）、「相談した」（12.0％）、「訴えた」（4.0％）といった対応措置をとったのが合わせて4割弱（36.0％）に留まっている。

これを前回調査（40.0％）、大阪府調査（42.2％）と比べると、対応措置を取った割合はやや低下、または低くなっている。（P 66 参照）

(17－5) 自身のものであったときの解決したかの有無（問 17－3 b）

自身のものであったときの解決したかの有無についてみると、「解決した」（12.0％）と「解決しなかった」（76.0％）の割合が約1：8となっている。

また、「解決した」については、前回調査（23.3％）、大阪府調査（20.2％）と比べても非常に低くなっており、問題解決の困難性が見える。（P 68 参照）

(17-6) 自身のものでなかったときの対応 (問 17-3 c)

自身のものでなかったときの対応についてみると、「何もしなかった」が 35.3%と最も高く、次いで「いけないことだと指摘した」が 19.1%、「いけないことだと分かっただろうとした」が 14.7%の順となっており、3割半が人権侵害の事象が自身のものでなかったとき、何もしないとなっている。(P70 参照)

人権侵害の事象分野別にみると、『セクハラ・パワハラ』の「何もしなかった」が 47.6%とやや目立っている。(下表参照)

■人権侵害の事象分野別 自身のものでなかったときの対応

	n 数	い け な い こ と だ と 指 摘 し た	も ら い け な い こ と だ と 分 か っ て お う と し た	相 談 (通 報) し た	同 調 し た	話 を そ ら し た	何 も し な か っ た	無 回 答
全 体	68 100.0	13 19.1	10 14.7	7 10.3	8 11.8	4 5.9	24 35.3	2 2.9
女性	7 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	2 28.6	1 14.3	2 28.6	0 0.0
子ども	6 100.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0
高齢者	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
障がい者	4 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
部落差別 (同和問題)	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
日本に居住している外国人	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0
H I V陽性者、ハンセン病 回復者及びその家族	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
こころの病に関する人権問題	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
犯罪被害者やその家族	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ホームレス	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性的マイノリティ	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
職業や雇用をめぐる人権問題	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
セクハラ・パワハラ	21 100.0	3 14.3	3 14.3	2 9.5	2 9.5	0 0.0	10 47.6	1 4.8
ヘイトスピーチ	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
新型コロナウイルス感染症感染者や 回復者並びに医療従事者等やその家族	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
無回答	11 100.0	2 18.2	4 36.4	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1

(17-7) 自身のものでなかったときの今後の対応 (問 17-3 d) <複数回答>

自身のものでなかったときの今後の対応についてみると、「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」が 57.4%と最も高く、次いで「人権課題に対応する専門の相談機関、相談窓口を拡充する」が 51.5%、「行政が正しい知識と理解を深める人権啓発に努める」が 36.8%の順となっている。(P72 参照)

また、人権侵害の事象分野別に必要な対策をみると、『セクハラ・パワハラ』で「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」が 71.4%と最も高く、『女性』で「人権課題に対応する専門の相談機関、相談窓口を拡充する」が 57.1%と最も高くなっている。(下表参照)

■人権侵害の事象分野別 自身のものでなかったときの今後の対応

	n 数	人 権 啓 発 に 努 め る	行 政 が 正 し い 知 識 と 理 解 を 深 め る	関 、 相 談 窓 口 を 拡 充 す る	人 権 課 題 に 対 応 す る 専 門 の 相 談 機 関	決 策 を 講 じ る	人 権 侵 害 を 受 け た 当 事 者 自 ら が 解 決	職 場 に お け る 人 権 研 修 を 充 実 す る	学 校 に お け る 人 権 教 育 や 、 地 域 や	特 に 何 も し な く て よ い	そ の 他	無 回 答
全 体	68 100.0	25 36.8	35 51.5	2 2.9	39 57.4	1 1.5	7 10.3	2 2.9				
女性	7 100.0	1 14.3	4 57.1	0 0.0	3 42.9	0 0.0	1 14.3	0 0.0				
子ども	6 100.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0	3 50.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7				
高齢者	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
障がい者	4 100.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0				
部落差別（同和問題）	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0				
日本に居住している外国人	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3				
H I V陽性者、ハンセン病 回復者及びその家族	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
こころの病に関する人権問題	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
犯罪被害者やその家族	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
ホームレス	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
性的マイノリティ	2 100.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
職業や雇用をめぐる人権問題	3 100.0	2 66.7	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
セクハラ・パワハラ	21 100.0	6 28.6	11 52.4	0 0.0	15 71.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
ヘイトスピーチ	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
新型コロナウイルス感染症感染者や 回復者並びに医療従事者等やその家族 その他	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0				
	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
無回答	11 100.0	4 36.4	7 63.6	1 9.1	7 63.6	0 0.0	1 9.1	0 0.0				

(18)「人権」から連想する言葉（問 18）＜複数回答＞

「人権」から連想する言葉についてみると、「平等」が 75.3%と最も高く、次いで「自由」が 55.6%、「尊厳」が 45.0%の順となっている。

対して、「差別」が 38.9%と否定的な回答も、4 番目に入っている。（P75 参照）

また、選択肢の中で「抑圧」「格差」「差別」「暴力」「わがまま」と否定的に捉えた回答を 1 つ以上した人を「否定的回答あり」、それ以外を「否定的回答なし」として集計した。

その結果、全体にみると「否定的回答あり」は 46.1%、「否定的回答なし」は 52.8%と、後者の方がやや高くなっている。（下表参照）

■性別 年齢別 「人権」から連想する言葉（否定的回答）

	n 数	否 定 的 回 答 あ り	否 定 的 回 答 な し	無 回 答
全 体	360 100.0	166 46.1	190 52.8	4 1.1

性別

男性	158 100.0	80 50.6	76 48.1	2 1.3
女性	190 100.0	83 43.7	105 55.3	2 1.1
男性・女性と答えるこ とに抵抗を感じる	7 100.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0
その他	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
無回答	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0

年齢別

全 体	360 100.0	166 46.1	190 52.8	4 1.1
18～29歳	30 100.0	12 40.0	18 60.0	0 0.0
30～39歳	36 100.0	17 47.2	19 52.8	0 0.0
40～49歳	59 100.0	22 37.3	37 62.7	0 0.0
50～59歳	72 100.0	30 41.7	41 56.9	1 1.4
60～69歳	81 100.0	43 53.1	38 46.9	0 0.0
70歳以上	81 100.0	42 51.9	36 44.4	3 3.7
無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

性別×年齢別にみると、『男性』で『60～69歳』の「否定的回答あり」が65.7%と最も高く、次いで『30～39歳』で同54.5%、『40～49歳』で同52.6%の順となっている。

『女性』で『70歳以上』の「否定的回答あり」が54.8%と最も高く、次いで『50～59歳』で同46.3%、『30～39歳』で同45.8%の順となっている。（下表参照）

■性別×年齢別 「人権」から連想する言葉（否定的回答）

		n 数	否 定 的 回 答 あ り	否 定 的 回 答 な し	無 回 答
男 性	全 体	158 100.0	80 50.6	76 48.1	2 1.3
	18～29歳	14 100.0	5 35.7	9 64.3	0 0.0
	30～39歳	11 100.0	6 54.5	5 45.5	0 0.0
	40～49歳	19 100.0	10 52.6	9 47.4	0 0.0
	50～59歳	31 100.0	11 35.5	20 64.5	0 0.0
	60～69歳	35 100.0	23 65.7	12 34.3	0 0.0
	70歳以上	48 100.0	25 52.1	21 43.8	2 4.2

女 性	全 体	190 100.0	83 43.7	105 55.3	2 1.1
	18～29歳	13 100.0	5 38.5	8 61.5	0 0.0
	30～39歳	24 100.0	11 45.8	13 54.2	0 0.0
	40～49歳	36 100.0	11 30.6	25 69.4	0 0.0
	50～59歳	41 100.0	19 46.3	21 51.2	1 2.4
	60～69歳	45 100.0	20 44.4	25 55.6	0 0.0
	70歳以上	31 100.0	17 54.8	13 41.9	1 3.2

こ と に 抵 抗 を 感 じ る 男 性 ・ 女 性	全 体	7 100.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0
	18～29歳	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	30～39歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	40～49歳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(19)「人権」についてのふだんの意識（問 19）

「人権」についてのふだんの意識についてみると、「非常に大切なことだと認識している」が 55.8%と最も高く、次いで「あまり意識したことがない」が 30.3%、「きれいごとや建前の話でしかない」が 4.4%の順となっている。（P 78 参照）

性別×年齢別にみると、『男性』は『18～29 歳』で「非常に大切なことだと認識している」が 64.3%と最も高く、次いで『70 歳以上』で同 58.3%、『40～49 歳』で同 57.9%の順となっている。

『女性』は『18～29 歳』で「非常に大切なことだと認識している」が 61.5%と最も高く、次いで『70 歳以上』で同 61.3%、『40～49 歳』で同 61.1%の順となっている。（下表参照）

■性別×年齢別 「人権」についてのふだんの意識

		n 数	て 非 常 に 大 切 な こ と だ と 認 識 し て い る	自 分 に は 関 係 が な い と 思 っ て い る	あ ま り 意 識 し た こ と が な い	か れ い ご と や 建 て 前 の 話 で し か な い	「 人 権 」 と い う 言 葉 を 聞 く こ と が な い	そ の 他	無 回 答
男 性	全 体	158 100.0	87 55.1	3 1.9	46 29.1	6 3.8	9 5.7	2 1.3	5 3.2
	18～29歳	14 100.0	9 64.3	0 0.0	3 21.4	1 7.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	11 100.0	4 36.4	0 0.0	3 27.3	3 27.3	1 9.1	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	19 100.0	11 57.9	0 0.0	4 21.1	1 5.3	3 15.8	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	31 100.0	15 48.4	0 0.0	11 35.5	0 0.0	2 6.5	1 3.2	2 6.5
	60～69歳	35 100.0	20 57.1	2 5.7	10 28.6	0 0.0	1 2.9	1 2.9	1 2.9
	70歳以上	48 100.0	28 58.3	1 2.1	15 31.3	1 2.1	1 2.1	0 0.0	2 4.2
女 性	全 体	190 100.0	107 56.3	1 0.5	60 31.6	9 4.7	2 1.1	5 2.6	6 3.2
	18～29歳	13 100.0	8 61.5	0 0.0	3 23.1	1 7.7	0 0.0	1 7.7	0 0.0
	30～39歳	24 100.0	12 50.0	0 0.0	9 37.5	0 0.0	1 4.2	1 4.2	1 4.2
	40～49歳	36 100.0	22 61.1	0 0.0	9 25.0	3 8.3	0 0.0	2 5.6	0 0.0
	50～59歳	41 100.0	23 56.1	0 0.0	13 31.7	3 7.3	1 2.4	0 0.0	1 2.4
	60～69歳	45 100.0	23 51.1	1 2.2	17 37.8	1 2.2	0 0.0	1 2.2	2 4.4
	70歳以上	31 100.0	19 61.3	0 0.0	9 29.0	1 3.2	0 0.0	0 0.0	2 6.5
こ と に ・ 抵 抗 を 感 じ る	全 体	7 100.0	5 71.4	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	18～29歳	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(20) 憲法で保障されている権利の認知（問 20）

憲法で保障されている権利の認知についてみると、『(10) 教育を受ける権利』で「言葉も意味も知っている」が 81.4%と 8 割を超えている。（P 79 参照）

また、「言葉も意味も良く知っている」を 2 点、「言葉は知っているが、意味はよく知らない」を 1 点、「言葉も意味も知らない」を 0 点として点数化（不明・無回答は集計から除いた）したものを以下の表に示した。

年齢別にみると、差が最も大きい質問項目は『(14) 幸福追求権』で、『18～29 歳』で 1.37 点と最も高く、『50～59 歳』で 0.93 点と最も低く、差が 0.44 点となっている。

2 番目に差が大きい質問項目として『(7) 財産の保障』で、『70 歳以上』で 1.59 点と最も高く、『30～39 歳』で 1.25 点と最も低く、差が 0.34 点となっている。

また、全ての質問項目を合計した点数で『40～49 歳』が 23.02 点と最も高く、次いで『60～69 歳』で 22.75 点、『70 歳以上』で 22.64 点の順となっている。（下表参照）

■憲法で保障されている権利の認知（点数化）

	n 数	(1) 思想・良心の自由	(2) 信教の自由	(3) 学問の自由	(4) 表現の自由	(5) 経済的自由	(6) 職業選択の自由	(7) 財産の保障	(8) 奴隷的拘束からの自由	(9) 生存権	(10) 教育を受ける権利	(11) 勤労の権利	(12) 労働基本権	(13) 参政権	(14) 幸福追求権	合計
全 体	360	1.59	1.76	1.79	1.77	1.68	1.78	1.50	1.28	1.59	1.82	1.73	1.56	1.63	1.06	22.54
性別																
男性	158	1.62	1.75	1.78	1.77	1.68	1.77	1.55	1.31	1.59	1.79	1.70	1.59	1.70	1.11	22.71
女性	190	1.58	1.77	1.79	1.78	1.69	1.79	1.46	1.27	1.60	1.86	1.76	1.55	1.57	1.01	22.48
男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	7	1.43	1.86	1.86	1.71	1.43	1.57	1.43	1.29	1.43	1.71	1.57	1.57	1.71	1.43	22.00
年齢別																
18～29歳	30	1.63	1.73	1.83	1.73	1.60	1.77	1.50	1.13	1.63	1.77	1.73	1.57	1.53	1.37	22.52
30～39歳	36	1.56	1.67	1.72	1.83	1.64	1.67	1.25	1.14	1.49	1.83	1.72	1.61	1.49	1.11	21.73
40～49歳	59	1.53	1.85	1.80	1.78	1.69	1.83	1.49	1.41	1.57	1.90	1.75	1.59	1.69	1.14	23.02
50～59歳	72	1.57	1.74	1.77	1.80	1.61	1.76	1.47	1.40	1.59	1.81	1.70	1.47	1.61	0.93	22.23
60～69歳	81	1.65	1.76	1.76	1.74	1.69	1.78	1.54	1.29	1.62	1.81	1.77	1.62	1.63	1.09	22.75
70歳以上	81	1.59	1.78	1.82	1.76	1.78	1.82	1.59	1.20	1.62	1.81	1.69	1.54	1.70	0.94	22.64

3-2. 調査結果のまとめ

以下では、ジャンル別のアンケート項目について最も回答率が高かったものを抽出列記した。

(1) いろいろな人権問題に関する意識や考え方について

- いろいろな人権問題の認知については、「知っている」は『子どもの人権問題』(95.8%)が最も高い。
- 特に人権上深刻な問題と考えられるものについても、「子どもの人権問題」(54.7%)が最も高い。
- 人権上問題があると思う行為については、“問題があると思う”(「問題があると思う」+「どちらかと言えば問題があると思う」は『人前で部下を長時間にわたり大声で叱る』(96.1%)が最も高い。

(2) 住まいのことや就職、結婚相手・パートナーについての意識や考え方について

- 家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件については、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」(73.9%)が最も高い。
- 採用面接の質問で人権上問題があると思うことについては、「家族の状況(職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など)」(68.6%)が最も高い。
- 結婚相手などパートナーについて重視する(した)ことについては、「人柄や性格」(93.9%)が最も高い。
- 結婚の合意についての考えについては、「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」(51.9%)が最も高い。

(3) ここ5年間の人権をめぐる法律等の施行及びこれらに関する人権問題について

- 障がいのある人に関する人権問題については、“あってはならない”(「あってはならない」+「どちらかと言えばあってはならない」は『病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けたりする』(95.8%)が最も高い。
- 日本に居住している外国人に関する人権問題については、“あってはならない”(「あってはならない」+「どちらかと言えばあってはならない」は『文化や生活習慣の違いを理由とする嫌がらせを受ける』(93.6%)が最も高い。
- 部落差別(同和問題)に関する人権問題については、“あってはならない”(「あってはならない」+「どちらかと言えばあってはならない」は『インターネット上に誹謗中傷等が掲載される』(94.1%)が最も高い。
- 性的マイノリティに関する人権問題については、“あってはならない”(「あってはならない」+「どちらかと言えばあってはならない」は『学校や職場などで嫌がらせやいじめを受ける』(92.8%)が最も高い。
- 法律や条例制度の認知については、「知らない」は『大阪府性の多様性理解増進条例(大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例)』(74.4%)が最も高い。

(4) インターネットにおける人権侵害について

- インターネットに関する感想については、“あってはならない”（「あってはならない」＋「どちらかと言えばあってはならない」）は『プライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載される』（96.4%）が最も高い。

(5) 人権や差別に関する考え方について

- 人権や差別についての考えについては、“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）は『差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』（93.3%）が最も高い。

(6) 人権問題の解決に向けた行政の取組みについて

- 人権問題解決に向けた行政の取組みの見聞きの有無については、“見聞きする”（「よく見聞きする」＋「たまに見聞きする」）は『新聞、テレビ、ニュース等に取り上げられた啓発活動』（71.4%）が最も高い。
- 学校で人権学習を受けたことの有無については、「受けたことはない」は『性的マイノリティの人権問題』（65.6%）が最も高い。
- 最近5年間の人権問題に関するイベント等参加の有無については、「参加したことがない」は『H I V陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題』（93.9%）が最も高い。

(7) 人権侵害について

- 最近5年間で人権上問題と思われる言動を受けたり見聞きしたことの有無については、「ある」が26.4%、「ない」が63.6%となっている。
- 人権侵害の事象分野については、「セクハラ、パワハラ」（33.7%）が最も高い。
- 人権侵害の内容については、「職場におけるハラスメント（セクハラ・パワハラ等）」（41.1%）が最も高い。
- 人権侵害が自身へのものかどうかの有無については、「はい」が26.3%、「いいえ」が71.6%となっている。
- 自身のものであったときの対応については、「我慢した」（48.0%）が最も高い。
- 自身のものであったときの解決したかの有無については、「解決しなかった」が76.0%となっている。
- 自身のものでなかったときの対応については、「何もしなかった」（35.3%）が最も高い。
- 自身のものでなかったときの今後の対応については、「学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」（57.4%）が最も高い。

(8) 人権に対する考え方について

- 「人権」から連想する言葉については、「平等」（75.3%）が最も高い。
- 「人権」についてのふだんの意識については、「非常に大切なことだと認識している」（55.8%）が最も高い。
- 憲法で保障される権利の認知については、「言葉も意味も知っている」は『教育を受ける権利』（81.4%）が最も高い。

令和4年11月

市民のみなさまへ

富 田 林 市

「人権に関する市民意識調査」へのご協力について(お願い)

日頃は、本市の市政各般にわたり、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、本市では、「富田林市人権尊重のまちづくり条例」(平成 13 年制定)のもと、「人権が尊重される潤いのある豊かなまちの実現」をめざして、LGBTQ をはじめ外国人市民に関する取組みなど人権施策を推進しています。

しかしながら、社会では、さまざまな人権侵害や差別事象が発生しているほか、社会情勢の変化に伴って人権に関する新たな問題が顕在化するなど、近年、人権課題が複雑・多様化しています。

このような状況を踏まえ、今後とも本市として人権施策を効果的に推進していくにあたり、市民のみなさまを対象に、「人権に関する意識調査」を実施させていただくこととしました。

つきましては、本調査の趣旨をご理解いただき、ご回答にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果は、本市人権行政の推進に向けた貴重な資料として活用させていただきます。

【調査に関する問い合わせ】

富田林市 市民人権部 人権・市民協働課

TEL:0721-25-1000(内線 471・474)

FAX:0721-25-9037

MAIL: jinken@city.tondabayashi.lg.jp

富田林市

人権に関する市民意識調査

令和4年11月

○ 調査の目的

本市における今後の人権教育・啓発に関する施策の基礎資料として活用するため、市民のみなさまに、人権についてのお考えをお聞きするものです。

○ 対象者・人数

18歳以上の市民 1,500人（無作為抽出）

○ 回答方法・期限

次の2つの方法からいずれか1つを選んで、ご回答ください。

1.郵送

本調査票に直接記入し、同封の返信用封筒（切手不要）で12月9日（金）までにポストに投函してください。封筒に記名は不要です。

2.オンライン

スマートフォン、パソコンなどを利用し、12月9日（金）までにご回答ください。この場合、本調査票への記入・返信は不要です。

URL: <https://logoform.jp/form/SMkm/169609>



○ 回答の注意

- ・封筒のあて名の方で本人が回答してください。
- ・質問に対して、あなたのお考えにあてはまる番号に直接○をつけ、または記入してください。
- ・無記名で回答してください。また、統計的に処理しますので、個人を特定することはありません。

【本調査に関する問い合わせ】

富田林市 市民人権部 人権・市民協働課

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号

電話(0721)25-1000(代) FAX (0721)25-9037

MAIL jinken@city.tondabayashi.lg.jp

いろいろな人権問題に関する意識や考え方について

問Ⅰ あなたは、次の人権問題を知っていますか？(どちらかに○)

	1 知っている	2 知らない
(1) 女性の人権問題 (例:性別役割分担意識、就労での不当な扱い、DV)	1	2
(2) 子どもの人権問題 (例:いじめ、虐待、体罰、児童ポルノ、子どもの貧困)	1	2
(3) 高齢者の人権問題 (例:介護放棄、虐待、悪質商法・特殊詐欺の被害)	1	2
(4) 障がい者の人権問題 (例:店舗でのサービス拒否、就労での不当な扱い、虐待)	1	2
(5) 部落差別(同和問題) (例:身元調査、結婚や交際における周囲の反対)	1	2
(6) 日本に居住している外国人の人権問題 (例:入居の拒否、就労での不当な取扱い)	1	2
(7) HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題 (例:周囲の偏見、差別的言動)	1	2
(8) こころの病(うつ病、依存症など)に関する人権問題 (例:風評による先入観や偏見、プライバシーの侵害)	1	2
(9) 刑を終えて出所した人やその家族の人権問題 (例:就職や住居の確保が困難)	1	2
(10) 犯罪被害者やその家族の人権問題 (例:無責任なうわさや誹謗中傷、プライバシーの侵害)	1	2
(11) ホームレスの人権問題 (例:嫌がらせ、暴力)	1	2
(12) 性的マイノリティの人権問題 (例:同性パートナーとの入居拒否、本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められる<アウティング>)	1	2
(13) 職業や雇用をめぐる人権問題 (例:差別待遇、職業や職種に対する偏見)	1	2
(14) セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	1	2
(15) インターネットにおける人権侵害 (例:誹謗中傷、差別を助長する有害情報、リベンジポルノ)	1	2
(16) ヘイトスピーチ (例:特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動)	1	2
(17) 新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等やその家族の人権問題 (例:日常生活での不当な扱い、宿泊拒否)	1	2

問ⅠーⅠ これらのうち、特に人権上深刻な問題と考えるのはどれだと思いますか？(3つまで)

--	--	--

問2 あなたは、次のような行為について、人権上問題があると思いますか？(いずれか 1 つに○)

	1 問題があると思う	2 どちらかと言えば問題があると思う	3 どちらかと言えば問題はないと思う	4 問題はないと思う	5 わからない
(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う	1	2	3	4	5
(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する	1	2	3	4	5
(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする	1	2	3	4	5
(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする	1	2	3	4	5
(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる	1	2	3	4	5
(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないなので、付き合わないようにする	1	2	3	4	5
(7) HIV陽性者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない	1	2	3	4	5
(8) こころの病のある人には関わらないようにする	1	2	3	4	5
(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う	1	2	3	4	5
(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る	1	2	3	4	5
(11) 職場で性的マイノリティであることを公表している人と席が隣になることを嫌がる	1	2	3	4	5
(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る	1	2	3	4	5
(13) Twitter や Facebook など、インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む	1	2	3	4	5
(14) 街頭などで、特定の国の出身の人々について、「日本から出て行け」と言う	1	2	3	4	5

	1 問題があると思う	2 どちらかと言えば問題があると思う	3 どちらかと言えば問題はないと思う	4 問題はないと思う	5 わからない
(つづき)					
(15) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会の役員が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる	1	2	3	4	5
(16) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う	1	2	3	4	5
(17) 恋人や配偶者・パートナーの携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る	1	2	3	4	5
(18) 新型コロナウイルス感染症の回復者並びに医療従事者等やその家族であることを理由に、交通機関の利用や保育所の受入れなどを断る	1	2	3	4	5

住まいのことや就職、結婚相手・パートナーについての意識や考え方について

問3 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件は何ですか?(○はいくつでも)

- 1 都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス
- 2 公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況
- 3 日照・眺望など
- 4 周辺の住宅の状況(戸建て/集合、持ち家/賃貸など)
- 5 地域のイメージ
- 6 校区の教育水準や学力レベルの評判
- 7 近隣に低所得者が多いと言われていないか
- 8 近隣に外国籍住民が多いと言われていないか
- 9 近隣に同和地区があると言われていないか
- 10 その他(_____)

問4 採用面接における質問で、あなたが人権上問題があると思うことはどれですか？(○はいくつでも)

- 1 国籍
- 2 本籍・出生地
- 3 家族の状況(職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など)
- 4 住宅の状況(住宅の種類、間取り、部屋数、近隣の施設など)
- 5 生活環境、家庭環境
- 6 宗教
- 7 支持政党
- 8 人生観や生活信条
- 9 尊敬する人物
- 10 労働組合、学生運動など社会活動の経験
- 11 購読新聞、雑誌、愛読書など

問5 あなたが結婚相手など、パートナーについて重視する(した)ことはどんなことですか？

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 人柄や性格 | 2 趣味や価値観 |
| 3 仕事に対する理解と協力 | 4 家事や育児に対する理解と協力 |
| 5 経済力 | 6 学歴 |
| 7 職業 | 8 家族構成 |
| 9 家柄 | 10 離婚歴 |
| 11 本籍・出生地 | 12 国籍、民族 |
| 13 相手やその家族が障がい者かどうか | |
| 14 相手やその家族の宗教 | |
| 15 ひとり親家庭かどうか | |
| 16 同和地区の出身であると言われていないかどうか | |
| 17 その他() | |

問6 結婚について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか？(いずれか1つに○)

- 1 当人どうしの合意があればよい
- 2 当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ
- 3 当人どうしの合意も大事だが、周囲の意見がより尊重されるべきだ
- 4 その他()

ここ5年間の人権をめぐる法律等の施行、及びこれらに関する人権問題について

問7 障がいのある人に関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？(いずれか1つに○)

	1 あつてはならない	2 どちらかと言えば あつてはならない	3 どちらかと言えば 仕方ない	4 仕方ない	5 わからない
(1) 道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすい配慮が足りない	1	2	3	4	5
(2) 障がいのある人が仕事に就く機会が少なく、また働くための職場の環境整備が十分でない	1	2	3	4	5
(3) 障がいのない子どもたちと一緒に学ぶ環境整備など、学校の受け入れ体制が十分でない	1	2	3	4	5
(4) 障がいのある人が賃貸住宅などへ入居することが困難である	1	2	3	4	5
(5) 病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けたりする	1	2	3	4	5
(6) 音声案内や字幕など、情報を分かりやすい形にして伝える配慮が足りない	1	2	3	4	5
(7) 障がいがあることを理由とした宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を拒否される	1	2	3	4	5
(8) 障がいのある人の意見や行動が尊重されない	1	2	3	4	5
(9) スポーツ活動や文化活動への参加に対する配慮がなされていない	1	2	3	4	5

問8 日本に居住している外国人に関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？

(いずれか1つに○)

	1 あつてはならない	2 どちらかと言えば あつてはならない	3 どちらかと言えば 仕方ない	4 仕方ない	5 わからない
(1) 就職や仕事の内容・待遇などにおいて不利な条件に置かれる	1	2	3	4	5
(2) 賃貸住宅などの申込みや入居において不利な扱いを受ける	1	2	3	4	5
(3) 宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される	1	2	3	4	5

	1 あつてはならない	2 どちらかと言えば あつてはならない	3 どちらかと言えば 仕方ない	4 仕方ない	5 わからない
(つづき)					
(4) 結婚相手やパートナーとの交際で周囲から反対を受ける	1	2	3	4	5
(5) 子どもに対して、自国の文化や生活習慣に合った教育が行われにくい	1	2	3	4	5
(6) 文化や生活習慣の違いを理由とする嫌がらせを受ける	1	2	3	4	5
(7) 病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分である	1	2	3	4	5
(8) 特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）を受ける	1	2	3	4	5
(9) 政治に意見が十分反映されない	1	2	3	4	5

問9 部落差別（同和問題）に関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？（いずれか1つに○）

	1 あつてはならない	2 どちらかと言えば あつてはならない	3 どちらかと言えば 仕方ない	4 仕方ない	5 わからない
(1) 就職の時や職場で不利な扱いを受ける	1	2	3	4	5
(2) 地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受ける	1	2	3	4	5
(3) 身元調査をされる	1	2	3	4	5
(4) 行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせる	1	2	3	4	5
(5) インターネット上に誹謗中傷等が掲載される	1	2	3	4	5
(6) インターネット上に同和地区と呼ばれる地域の所在地リストや動画・写真などが掲載される	1	2	3	4	5
(7) (1)～(6)のほか、差別的言動をされる	1	2	3	4	5
(8) 同和問題を口実とする企業や官公庁等に対する不当な要求（えせ同和行為）が行われる	1	2	3	4	5

問 10 性的マイノリティに関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？(いずれか1つに○)

	1 あつてはならない	2 どちらかと言えば、 あつてはならない	3 どちらかと言えば、 仕方ない	4 仕方ない	5 わからない
(1) 性的マイノリティへの理解や認識が不足している	1	2	3	4	5
(2) 学校や職場などで嫌がらせやいじめを受ける	1	2	3	4	5
(3) 就職の時や職場で不利な扱いを受ける	1	2	3	4	5
(4) 性的マイノリティに対する相談や支援体制が十分でない	1	2	3	4	5
(5) 賃貸住宅などへの入居を拒否される	1	2	3	4	5
(6) 宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される	1	2	3	4	5
(7) 本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められる(アウティング)	1	2	3	4	5
(8) パートナーがいても、婚姻と同等に扱われない	1	2	3	4	5
(9) じろじろ見られたり、避けられたりする	1	2	3	4	5

問 11 あなたは、次の法律や条例、制度について知っていますか？(いずれか1つに○)

	1 内容(趣旨) を知っている	2 あることは 知っている	3 知らない
(1) 障害者差別解消法 (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)	1	2	3
(2) ヘイトスピーチ解消法 (本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)	1	2	3
(3) 部落差別解消推進法 (部落差別の解消の推進に関する法律)	1	2	3
(4) 大阪府性の多様性理解増進条例 (大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例)	1	2	3
(5) 大阪府パートナーシップ宣誓証明制度	1	2	3
(6) 富田林市人権尊重のまちづくり条例	1	2	3
(7) 富田林市男女が共に生きやすい社会づくりを推進する条例	1	2	3
(8) 富田林市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度	1	2	3

インターネットにおける人権侵害について

問 12 インターネットに関する次のようなことについて、あなたはどのように感じますか？(いずれか1つに○)

	1 あつてはならない	2 どちらかと言えば あつてはならない	3 どちらかと言えば 仕方ない	4 仕方ない	5 わからない
(1) プライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載される	1	2	3	4	5
(2) フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散される	1	2	3	4	5
(3) SNS(LINE や Twitter など)による交流が犯罪を誘発する場となっている	1	2	3	4	5
(4) 書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要する	1	2	3	4	5
(5) インターネットが悪質商法の取引の場となっている	1	2	3	4	5
(6) 子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している	1	2	3	4	5
(7) 差別を助長するような情報が掲載される	1	2	3	4	5
(8) わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載される	1	2	3	4	5
(9) 捜査対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載される	1	2	3	4	5
(10) 問題のある情報がインターネット上に掲載されると削除や訂正に時間がかかる	1	2	3	4	5

人権や差別に関する考え方について

問 13 人権や差別について、あなたの考えに最も近いのはどれですか？(いずれか1つに○)

	1 そう思う	2 どちらかと言えば そう思う	3 どちらかと言えば そう思わない	4 そう思わない	5 わからない
(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	1	2	3	4	5
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	1	2	3	4	5
(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	1	2	3	4	5
(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5

	1 そう思う	2 どちらかと言えば そう思う	3 どちらかと言えば そう思わない	4 そう思わない	5 わからない
(つづき)					
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	1	2	3	4	5
(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ	1	2	3	4	5
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5
(9) 差別は法律で禁止する必要がある	1	2	3	4	5
(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である	1	2	3	4	5
(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない	1	2	3	4	5

人権問題の解決に向けた行政の取組みについて

問14 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような行政の取組みについて、見聞きする(した)ことがありますか？(いずれか1つに○)

	1 よく 見聞きする	2 たまに 見聞きする	3 あまり 見聞きしない	4 ほとんど 見聞きしない
(1) 啓発ポスターや街頭での啓発	1	2	3	4
(2) 新聞、テレビ、ニュース等に取り上げられた啓発活動	1	2	3	4
(3) 市の広報誌、啓発冊子(リーフレットなど)や教材	1	2	3	4
(4) 講座・セミナー、講演会	1	2	3	4
(5) 市のウェブサイトや SNS (Facebook、LINE 等) などインターネットを利用した啓発広報・情報発信	1	2	3	4
(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント	1	2	3	4
(7) 人権ポスターなどの募集・表彰	1	2	3	4
(8) 人権相談窓口の開設	1	2	3	4
(9) 戸籍謄本や住民票を第三者に交付した時に事前に登録した本人にお知らせする制度(本人通知制度)	1	2	3	4

問 15 あなたは、学校で、次にあげる人権学習を受けたことはありますか。(○はいくつでも)

	1 小学校で 受けた	2 中学校で 受けた	3 高校で 受けた	4 大学、短大、 専門学校で 受けた	5 はっきりと おぼえていない	6 受けたことは ない
(1) 障がい者の人権問題	1	2	3	4	5	6
(2) 日本に居住している外国人の人権問題	1	2	3	4	5	6
(3) 部落差別(同和問題)	1	2	3	4	5	6
(4) 性的マイノリティの人権問題	1	2	3	4	5	6
(5) HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	1	2	3	4	5	6

問 16 あなたは、最近 5 年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことはありますか。(いずれか 1 つに○)

	1 1 回だけ 参加した	2 2 ～ 4 回 くらい 参加した	3 5 回以上 参加した	4 ない 参加した ことが ない
(1) 障がい者の人権問題	1	2	3	4
(2) 日本に居住している外国人の人権問題	1	2	3	4
(3) 部落差別(同和問題)	1	2	3	4
(4) 性的マイノリティの人権問題	1	2	3	4
(5) HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	1	2	3	4

人権侵害について

問 17 あなたは、最近5年間に人権上問題と思われる言動を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか？
複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。（いずれか1つに○）

1 ある →問 17-1～問 17-3 へお進みください。

2 ない →問 18(13 ページ)へお進みください。

→問 17 で「1. ある」と回答された方におたずねします。

問 17-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか？（いずれか1つに○）

- | | | | |
|------------------|--------------------|--|----------------------|
| 1 女性 | 2 子ども | 3 高齢者 | 4 障がい者 |
| 5 部落差別
(同和問題) | 6 日本に居住し
ている外国人 | 7 HIV陽性者、ハ
ンセン病回復者
及びその家族 | 8 こころの病に関する人
権問題 |
| 9 犯罪被害者や
その家族 | 10 ホームレス | 11 性的マイノリティ | 12 職業や雇用をめぐる
人権問題 |
| 13 セクハラ・
パワハラ | 14 ヘイトスピーチ | 15 新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並
びに医療従事者等やその家族 | |
| 16 その他(| | |) |

問 17-2 それはどのような内容でしたか？（いずれか1つに○）

- | | |
|---|---|
| 1 差別的な扱い
(人種・信条・性別・社会的身分・出生地等により、職業・雇用や結婚等の社会生活の上
で不平等又は不利益な扱いをされた) | |
| 2 学校、地域における嫌がらせやいじめ | |
| 3 差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ | |
| 4 育児や介護の放棄・放任 | |
| 5 虐待 | |
| 6 暴力行為、脅迫、強要 | |
| 7 DV (配偶者やパートナー間における暴力) | |
| 8 職場におけるハラスメント (セクハラ・パワハラ等) | |
| 9 プライバシーの侵害 | |
| 10 インターネットによる人権侵害 | |
| 11 その他(|) |
| 12 答えたくない | |

問 17-3 それはあなた自身に対するものでしたか？(いずれか1つに○)

- 1 はい →問 17-3a、問 17-3b へお進みください。
- 2 いいえ →問 17-3c、問 17-3d へお進みください。

→ 問 17-3 で「1. はい」と回答された方におたずねします。

問 17-3a どう対応しましたか？(いずれか1つに○)

- 1 抗議、反論した
- 2 相談した(どこに、誰に: _____)
- 3 訴えた(どこに: _____)
- 4 我慢した
- 5 その他(_____)

問 17-3b 最終的に解決しましたか？(いずれか1つに○)

- 1 解決した
- 2 解決しなかった
- 3 その他(_____)

→ 問 17-3 で「2. いいえ」と回答された方におたずねします。

問 17-3c どう対応しましたか？(いずれか1つに○)

- 1 いけないことだと指摘した
- 2 いけないことだと分かってもらおうとした
- 3 相談(通報)した(どこに、誰に: _____)
- 4 同調した
- 5 話をそらした
- 6 何もなかった

問 17-3d そのような問題(事案)についてどうしたらよいと考えますか？(○はいくつでも)

- 1 行政が正しい知識と理解を深める人権啓発に努める
- 2 人権課題に対応する専門の相談機関、相談窓口を拡充する
- 3 人権侵害を受けた当事者自らが解決策を講じる
- 4 学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する
- 5 特に何もなくてよい
- 6 その他(_____)

「人権」に対する考え方について

「人権」は、誰もが生まれながらにして持っている権利で、人間が人間らしく幸せに生きていくために必要な基本的権利です。この基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として保障されることが日本国憲法で明記されています。

全ての方におたずねします。

問 18 あなたが「人権」から連想する言葉はどれですか？(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------|---------|-------|---------|
| 1 自由 | 2 平等 | 3 友愛 | 4 尊厳 |
| 5 自立 | 6 公正 | 7 共生 | 8 抑圧 |
| 9 格差 | 10 差別 | 11 暴力 | 12 わがまま |
| 13 その他 | (_____) | | |

問 19 あなたは、「人権」について、ふだんどのように意識していますか？(いずれか1つに○)

- | |
|----------------------------|
| 1 非常に大切なことだと認識している |
| 2 自分には関係がないと思っている |
| 3 あまり意識したことがない |
| 4 きれいごとや建て前の話でしかない |
| 5 「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる |
| 6 その他(_____) |

問 20 あなたは、憲法で保障されている次の権利について知っていますか？(いずれか1つに○)

(※)【自由権】・・・自分の生活を抑圧されたりすることなく、自由に考え、行動することが保障される権利

(※)【社会権】・・・社会において人間らしい生活を営み、文化的に生きていくことが保障される権利

			1 言葉も意味も知っている	2 言葉は知っているが、 意味はよく知らない	3 言葉も意味も知らない
自由権（※）	精神的自由	(1) 思想・良心の自由	1	2	3
		(2) 信教の自由	1	2	3
		(3) 学問の自由	1	2	3
		(4) 表現の自由	1	2	3
	経済的自由	(5) 居住・移転の自由	1	2	3
		(6) 職業選択の自由	1	2	3
		(7) 財産の保障	1	2	3
	人身の自由	(8) 奴隷的拘束からの自由	1	2	3
社会権（※）	(9) 生存権		1	2	3
	(10) 教育を受ける権利		1	2	3
	(11) 勤労の権利		1	2	3
	(12) 労働基本権		1	2	3
(13) 参政権			1	2	3
(14) 幸福追求権			1	2	3

あなたご自身のことについて

問 21 あなたの性別について(いずれか1つに○)

- 1 男性 2 女性 3 男性・女性と答えることに抵抗を感じる 4 その他

問 22 あなたの年齢について(いずれか1つに○)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1 18、19 歳 | 2 20～24 歳 | 3 25～29 歳 | 4 30～34 歳 |
| 5 35～39 歳 | 6 40～44 歳 | 7 45～49 歳 | 8 50～54 歳 |
| 9 55～59 歳 | 10 60～64 歳 | 11 65～69 歳 | 12 70～74 歳 |
| 13 75～79 歳 | 14 80 歳以上 | | |

問 23 あなたが日常的に利用する主なメディアについて(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 新聞 | 2 書籍、雑誌 |
| 3 テレビ | 4 ラジオ |
| 5 インターネット(パソコン、スマートフォン) | 6 その他(_____) |

問 24 あなたの現在の暮らし向きについて(いずれか1つに○)

- 1 良い 2 やや良い 3 ふつう 4 やや悪い 5 悪い

問 25 人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望があればご自由にお書きください。

記入欄が不足する場合は余白等をご利用ください。

ご協力ありがとうございました。

